



0031068-000

特 2 1 8 - 8 3 4

租税法規提要

大蔵省・編纂

東京財務協会

昭和 3

AEB

317
1370

大藏省編纂

租稅法規提要

東京財務協會發行



特218
834

大藏省編纂



租稅法
規提要



東京財務協會發行

例言

- 一 本書ハ内國稅、輸入稅ノ免除又ハ拂戻、地方稅ノ制限、國稅徵收及會計等ニ關スル法規ヲ編纂シタルモノナリ
- 二 本書ハ昭和三年八月一日現在ノ法規ニ基キ編纂シタリ

目次

一 本書の編纂の経緯
二 本書の編纂の目的
三 本書の編纂の体裁
四 本書の編纂の注意

目次

一 所得税法	發令	年	月	頁
一 所得税法ノ施行ニ關スル件	大正	九	七	一
一 所得税法施行規則	大正	九	七	二
一 所得税法施行細則	大正	一〇	五	三
一 國債證券及貯蓄債券ノ利子所得税免除ニ關スル件	明治	三	八	四
一 國債ノ利子所得税免除ニ關スル件	明治	四	二	五
一 復興貯蓄債券法(抄録)	大正	一	三	六
一 外國船舶ノ所得税免除ニ關スル件	大正	一	三	七
一 産業組合法(抄録)	明治	三	三	八
一 産業組合中央金庫法(抄録)	大正	一	二	九
一 住宅組合法(抄録)	大正	一	〇	一〇
一 輸出組合法(抄録)	大正	一	四	一
一 重要輸出品工業組合法(抄録)	大正	一	四	二
一 漁業法(抄録)	明治	四	三	三

一 農業倉庫業法(抄録).....	大正 六、七	法律	一五..... 八七
一 製鐵業獎勵法(抄録).....	大正 一五、三	法律	四九..... 八七
一 軍事救護法(抄録).....	大正 六、七	法律	一..... 八九
一 健康保險法(抄録).....	大正 一、四	法律	七〇..... 九〇
一 海外移住組合法(抄録).....	昭和 二、三	法律	三三..... 九〇

地 租

一 地租條例.....	明治 一七、三	布告	一七..... 九一
一 地租條例施行規則.....	明治 四三、一二	勅令	四四..... 一〇一
一 地租條例第四條第一項第一號及第二號ニ依ル公共團體及期間指定ノ件.....	明治 三八、五	勅令	一三九..... 一〇九
一 地租條例ノ規定ニ依ル地租ノ特別納期ニ關スル件.....	明治 四四、四	勅令	九二..... 一〇八
一 鐵下年期新開免租年期、地價据置年期ノ延長ニ關スル法律.....	明治 三四、四	法律	四〇..... 一〇〇
一 開墾地、開拓地、新開地年期繼續ニ關スル法律.....	明治 三四、四	法律	三一..... 一一一
一 地租徵收ニ關スル法律.....	明治 三七、四	法律	一一..... 一一一
一 東京府管内八丈島ノ地租ニ關スル法律.....	明治 四四、二	法律	一一..... 一一三
一 地租、地租附加税及段別割ニ關スル法規ヲ皇族			

所有ノ土地ニ適用スルノ件.....	大正 二、七	皇室令	八..... 一二三
一 租税ニ關スル法規ヲ王公族所有ノ土地ニ適用スルノ件.....	大正 一五、一二	皇室令	一八..... 一二三
一 舊慣ニ依リ永小作權者カ地租額負擔ヲ約シタル田畑ノ地租免除ニ關スル法律.....	大正 一五、三	法律	四七..... 一二四
一 災害地地租免除法.....	大正 三、二	法律	一..... 一二四
一 災害地地租免除法施行方ノ件.....	大正 三、三	大藏省令	三..... 一二六
一 水遣條例(抄録).....	明治 二三、二	法律	九..... 一二七
一 砂防法(抄録).....	明治 三〇、三	法律	二七..... 一二七
一 砂防法施行規程(抄録).....	明治 三〇、一〇	勅令	三八二..... 一二八
一 砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免ニ關スル件.....	明治 三二、八	勅令	三七四..... 一二八
一 北海道舊土人保護法(抄録).....	明治 三二、三	法律	二七..... 一二九
一 沖繩縣土地整理法(抄録).....	明治 三二、三	法律	五九..... 一二九
一 森林法(抄録).....	明治 四〇、四	法律	四三..... 一三〇
一 造林地地租免除申請方.....	明治 四一、一	大藏省令	一..... 一三一
一 北海道國有未開地處分法(抄録).....	明治 四一、四	法律	五七..... 一三一
一 地種變更免租年期ニ關スル法律.....	大正 七、五	法律	四三..... 一三三
一 地種變更免租年期ニ關スル法律施行規則.....	大正 七、五	大藏省令	三三..... 一三四

一 私立學校用地免租ニ關スル法律……………大正 八、四
 一 私立學校用地免租ニ關スル法律施行方……………大正 八、一二
 一 航空法(抄録)……………大正一〇、四
 一 航空法第三十八條ノ規定ニ依リ公共ノ用ニ供スル
 飛行場ノ用地ニ對スル地租免除ノ施行方……………昭和 二、六
 一 御料地拂下地ノ地租及登録税免除ニ關スル法律……………昭和 二、三
 一 耕地整理法(抄録)……………明治四二、四
 一 耕地整理法施行規則(抄録)……………明治四二、一〇
 一 都市計畫法(抄録)……………大正 八、四
 一 都市計畫法施行令(抄録)……………大正 八、一一
 一 特別都市計畫法(抄録)……………大正一二、一二
 一 特別都市計畫法施行令……………大正一二、三
 一 渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法律……………明治三七、四
 一 宅地地價修正法(抄録)……………明治四三、三
 一 北海道地價調査ニ關スル件……………大正 七、二
 一 土地臺帳規則……………明治二二、三
 一 土地臺帳規則施行細則……………明治二二、四

土地賃貸價格調査

一 土地賃貸價格調査法……………大正一五、三
 一 土地賃貸價格調査委員會法……………昭和 二、三
 一 土地賃貸價格調査委員會法施行規則……………昭和 二、六

營業收益税

一 營業收益税法……………大正一五、三
 一 營業收益税法施行規則……………大正一五、九
 一 營業收益税検査章書式ノ件……………大正一五、九
 一 貯蓄銀行法(抄録)……………大正一〇、四
 一 鑛業法(抄録)……………明治二八、三
 一 保險業法(抄録)……………明治二三、三

資本金子税

一 資本金子税法……………大正一五、三
 一 資本金子税法施行規則……………大正一五、三
 一 資本金子税法施行細則……………大正一五、四

相續税

一 相續税法……………明治三八、一
 一 相續税法施行規則……………明治三八、三

鑛業稅

一 鑛業法(抄錄).....明治三八、三
 一 砂鑛區稅法.....明治四三、三
 法律 四三.....二一三
 法律 九.....二一七

登録稅

一 登録稅法.....明治二九、三
 一 登録稅法施行規則.....明治三二、五
 一 領事官ノ取扱フ登記ノ登録稅ニ關スル件.....明治三九、八
 勅令 二一九.....二三四
 一 國稅徵收法(抄錄).....明治三〇、三
 法律 二一.....二五六
 一 北海道舊土人保護法(抄錄).....明治三二、三
 法律 二七.....二五六
 一 保險業法(抄錄).....明治三三、三
 法律 六九.....二五七
 一 永代借地權ニ關スル法律(抄錄).....明治三四、九
 法律 三九.....二五七
 一 北海道土功組合法(抄錄).....明治三五、三
 法律 一一.....二五七
 一 北海道國有未開地處分法(抄錄).....明治四一、四
 法律 三七.....二五七
 一 耕地整理法(抄錄).....明治四二、四
 法律 三〇.....二五八
 一 破産法(抄錄).....大正一一、七
 法律 七一.....二五八
 一 和議法(抄錄).....大正一一、四
 法律 七三.....二五八
 一 産業組合中央金庫法(抄錄).....大正一二、四
 法律 四二.....二五九

一 復興貯蓄債券法(抄錄).....大正二三、七
 法律 一五.....二五九
 一 御料地拂下地ノ地租及登録稅免除ニ關スル法律.....昭和 二、三
 法律 一八.....二五九

兌換銀行券發行稅

一 兌換銀行券條例(抄錄).....明治一七、五
 布告 一八.....二六一
 一 兌換銀行券發行稅納稅ニ關スル法律.....明治三二、三
 法律 三六.....二六二
 一 發行稅ヲ課スヘキ兌換券ノ平均發行高其ノ他ニ關スル件.....明治三二、三
 大藏省令 九.....二六二
 大藏大臣 達 往 一三三、四.....二六三
 一 兌換銀行券制限外發行稅納付ニ關スル件.....大正 元、一〇
 大藏省令 九.....二六二

酒稅

一 酒造稅法.....明治二九、三
 法律 二八.....二六三
 一 酒造稅法施行規則.....明治二九、八
 勅令 二八七.....二七七
 一 沖繩縣及東京府小笠原島伊豆七島ニ於ケル酒造稅ニ關スル法律.....明治四一、三
 法律 二四.....二八八
 一 樺太酒類出港稅法.....大正 元、八
 法律 一.....二八九
 一 樺太酒類出港稅法施行規則.....大正 元、八
 勅令 九.....二九一
 一 酒造組合法.....明治三八、一
 法律 八.....二九二
 一 酒造組合法施行規則.....明治三八、一
 勅令 八.....二九三

一 酒母、醱及麴取締法	明治三八、一	法律	七〇二、二九九
一 酒母、醱及麴取締法施行規則	明治三八、一	勅令	七〇二、三〇二
一 酒精及酒精含有飲料稅法	明治三四、三	法律	八〇〇、三〇六
一 酒精及酒精含有飲料稅法施行規則	明治三四、三	勅令	一六五、三三三
一 果實酒ト看做スモノノ取扱方ノ件	明治三八、三	大藏省令	一一一、三三八
一 酒精造石稅徵收猶豫及免除ニ關スル法律	明治四三、三	法律	六〇〇、三一九
一 酒精造石稅徵收猶豫及免除ニ關スル法律施行ニ關スル件	明治四三、三	勅令	一八四、三三〇
一 酒精、酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料輸出下戻金ニ關スル法律	明治三四、三	法律	一〇〇、三三二
一 明治三十四年法律第十號施行規則	明治三四、八	勅令	一六六、三三四
一 工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法	明治三九、四	法律	四六、三二七
一 工業用酒精酒類其ノ他ノ酒精含有飲料戻稅法施行規則	明治三九、四	勅令	八六、三二九
一 臺灣酒精令ニ依ル酒精使用證明ニ關スル規定ノ件	大正一一、六	勅令	三〇五、三三四
一 工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法ニ依リ酒精ノ變性ヲ命スル場合混和スヘキ物品ノ種類及數量等ニ關スル件	大正一五、五	大藏省令	三二、三三三

一 南洋群島ニ於テ出港稅ヲ課セラレタル酒精、酒類其ノ他酒精含有飲料ノ出港稅ノ免除等ニ關スル件	大正一五、九	勅令	三二〇、三四三
一 麥酒稅法	明治三四、三	法律	一一、三四五
一 麥酒稅法施行規則	明治三四、八	勅令	一六八、三五〇

清涼飲料稅

一 清涼飲料稅法	大正一五、三	法律	一六、三五五
一 清涼飲料稅法施行規則	大正一五、三	勅令	三三、三五九
一 清涼飲料水營業取締規則	明治三三、六	內務省令	三〇、三六三
一 飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法律	明治三三、二	法律	一五、三六九

砂糖稅

一 砂糖消費稅法	明治三四、三	法律	一三、三七一
一 砂糖消費稅法ヲ臺灣ニ施行スルノ件	明治三四、八	勅令	一五、三七九
一 砂糖消費稅法ヲ樺太ニ施行スルノ件	明治四二、五	勅令	一三二、三七九
一 砂糖消費稅法施行規則	明治三四、八	勅令	一六九、三八〇
一 煉乳原料砂糖戻稅法	明治四一、三	法律	二七、三九二
一 煉乳原料砂糖戻稅法施行規則	明治四一、三	勅令	四九、三九三

輸出菓子糖果原料砂糖戻税法	明治四二、三	法律	一八……三九四
輸出菓子糖果原料砂糖戻税法施行規則	明治四二、三	勅令	六四……三九五
輸出菓子糖果原料砂糖戻税法ヲ臺灣ニ施行ノ件	明治四四、七	勅令	一九六……三九七
砂糖消費税織物消費税等ノ徵收ニ關スル法律	明治四四、三	法律	四三……三九八
明治四十四年法律第四十五號ヲ臺灣ニ施行ノ件	明治四四、六	勅令	一八九……三九八
砂糖消費税織物消費税等ノ徵收ニ關スル件	明治四四、六	勅令	一八六……三九九

織物消費税

織物消費税法	明治四三、三	法律	七……四〇一
織物消費税法ヲ臺灣ニ施行スルノ件	明治四三、三	勅令	一八七……四〇七
織物消費税法ヲ樺太ニ施行スルノ件	明治四三、四	勅令	二〇三……四〇七
織物消費税法施行規則	明治四三、三	勅令	一八三……四〇八

取引所税

取引所税法	大正三、三	法律	二三……四一七
取引所税法施行規則	大正三、七	大藏省令	一三……四二二
取引所法(抄録)	明治二六、三	法律	五……四二四
取引所令(抄録)	大正一、七	勅令	三三三……四二九
取引所法施行規則(抄録)	大正三、六	農商務省令	二六……四三〇

印紙税

印紙税法	明治三二、三	法律	五三……四三一
印紙税法ヲ樺太ニ施行スルノ件	大正五、五	勅令	一二九……四三八
印紙税法ヲ臺灣ニ施行スルノ件	大正一一、二	勅令	五二……四三八
保管金規則(抄録)	明治二三、一	法律	一……四三九
國稅徵收法(抄録)	明治二〇、三	法律	二一……四三九
郵便爲替法(抄録)	明治三三、三	法律	五五……四三九
間接國稅犯則者處分法(抄録)	明治三三、三	法律	六七……四三九
貯蓄債券法(抄録)	明治二七、四	法律	一八……四三九
郵便貯金法(抄録)	明治二八、二	法律	三三……四四〇
簡易生命保險法(抄録)	大正五、七	法律	四二……四四〇
健康保險法(抄録)	大正一一、四	法律	七〇……四四〇
産業組合中央金庫法(抄録)	大正一二、四	法律	四二……四四〇
復興貯蓄債券法(抄録)	大正一三、七	法律	一三……四四〇
郵便年金法(抄録)	大正一五、三	法律	三九……四四〇
税印押捺請求方ニ關スル件	明治三二、三	大藏省令	三九……四四一
税印押捺請求書記載方ノ件	明治三二、五	大藏省令	三九……四四一
税印押捺用紙損傷又ハ汚染ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件	明治三二、九	大藏省令	三九……四四一
印紙模造取締規則	大正五、七	大藏省令	一八……四四二

骨牌稅

一骨牌稅法……………明治三五、四 法律 四四〇……四四三
一骨牌稅法施行規則……………明治三五、五 勅令 一五〇……四四八

狩獵稅

一狩獵法(抄錄)……………大正七、四 法律 三三……四五三
一狩獵法施行規則(抄錄)……………大正八、八 農商務省令二八……四四四

輸入稅免除拂戻

一關稅定率法(抄錄)……………明治四三、四 法律 三三……四五三
一關稅法(抄錄)……………明治三二、三 法律 六一……四五五
一關稅定率法第九條ニ依ル命令ノ件……………大正一五、五 勅令 三三八……四五六
一關稅定率法第九條施行ニ關スル件……………大正一〇、五 大藏省令一八……四七〇
一釐淨品等ノ輸入稅ニ關スル法律……………大正一三、七 法律 二四……四七三
一 大正十三年法律第二十四號第二項ニ掲ケル貴石、半貴石又ハ琥珀ノ輸入稅一部免除ニ關スル件……………大正一四、四 勅令 五六……四七六
一 大正十四年勅令第五十六號施行ニ關スル件……………大正一四、四 大藏省令八……四七七

殖民地關係

一内地、臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ内國稅免除ニ關スル法律……………大正九、八 法律 三一……四七九
一 大正九年法律第五十一號施行ニ關スル件……………大正九、八 勅令 三一……四八〇
一朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ヨリ移出シタル物品ノ内地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル法律……………大正九、八 法律 三二……四八一
一 大正九年法律第五十二號施行ニ關スル件……………大正九、八 勅令 三二……四八三

間接國稅犯則者處分

一 間接國稅犯則者處分法……………明治三三、三 法律 六七……四八五
一 間接國稅犯則者處分法等ヲ樺太ニ施行スルノ件(抄錄)……………大正元、八 勅令 一二……四八九
一 間接國稅犯則者處分法施行規則……………明治三三、三 勅令 三二……四九〇
一 間接國稅犯則者處分法ニ依ル收稅官吏ノ證票様式……………明治三三、三 大藏省令 三……四九五
一 法人ニ於テ租稅及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法律……………明治三三、三 法律 三二……四九六

地方稅

一地方稅制限ニ關スル法律……………明治四一、三 法律 三七……四九七

一 都市計畫法(抄録).....大正 八、四 法律 三六.....五〇一

一 地方税ニ關スル法律.....大正一五、三 法律 二四.....五〇三

一 地方税ニ關スル法律施行ニ關スル件.....大正一五、一一 勅令 三三九.....五〇七

一 地方税ニ關スル法律施行規則.....大正一五、一一 内務省令.....五〇七

一 地方税ニ關スル法律施行規則.....大正一五、一一 大藏省令.....五〇七

國稅徵收

一 國稅徵收法.....明治三〇、三 法律 二一.....五二五

一 國稅徵收法施行規則.....明治三五、四 勅令 一三五.....五三三

一 國稅徵收法ヲ樺太ニ施行スルノ件.....大正 八、八 勅令 三六七.....五四三

一 國稅徵收法施行細則.....明治三〇、六 大藏省令一〇.....五四三

一 市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅種目.....明治三〇、六 勅令 一九五.....五四八

一 郵便官署ヲシテ歲入金ノ受入及歲出金ノ繰替拂波ニ關スル事務ヲ取扱ハシムル件.....大正 四、一 勅令 六.....五五〇

一 郵便官署ヲシテ歲入金ノ受入及歲出金ノ繰替拂ヲ取扱ハシムル件ニ關スル規程.....大正 四、一 大藏省令一.....五五〇

一 證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル件.....大正 五、三 法律 一〇.....五五三

一 歲入納付ニ使用スル證券ニ關スル件.....大正 五、二二 勅令 二五六.....五五六

一 證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律施行細則.....大正 五、二二 大藏省令三.....五五九

一 證券納付ニ關スル制限ノ件.....大正 五、二二 大藏省令三〇.....五六三

一 大藏省主管歲入ニ證券ヲ以テ納付スルノ件.....大正 五、二二 大藏省令三一.....五六三

一 國庫出納金端數計算法.....大正 五、一 法律 二.....五六六

一 國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課稅標準額計算上圓位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國稅指定ノ件.....大正 五、三 大藏省令二.....五六八

會計

一 會計法.....大正一〇、四 法律 四二.....五七一

一 會計規則.....大正一一、一 勅令 一.....五七九

官制及分課

一 稅務監督局官制.....明治三五、一一 勅令 二四一.....六一三

一 稅務署官制.....明治三五、一一 勅令 二四三.....六一三

一 稅務監督局分課規程.....明治三五、一一 大藏省達 三六一.....六一六

一 稅務署分課規程.....明治三五、一一 官房職乙 三六一.....六一八

所
得
稅

ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ヲ受クルトキ

第三條 所得稅ハ左ノ所得ニ付テハ賦課ス(大正十二年法律第八號、同法修正、十九號及大正十五年法律第八號修正)

第一種

- 甲 法人ノ普通所得
- 乙 法人ノ超過所得
- 丙 法人ノ清算所得

第二種

- 甲 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益
- 乙 第一條ノ規定ニ該當セサル者ノ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與

第三種

第二種ニ屬セサル個人ノ所得

第三條ノ二

信託財産ニ付生スル所得ニ關シテハ其ノ所得ヲ信託ノ利益トシテ享受スヘキ受益者カ信託財産ヲ有スルモノト看做シテ所得稅ヲ賦課ス但シ本法施行地ニ於テ信託利益ノ支拂ヲ爲ス貸付信託ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(大正十二年法律第十五號及同法修正)

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ受益者不特定ナルトキ又ハ未タ存在セサルトキハ受託者ヲ以テ受益者ト看做ス此ノ場合ニ於テハ受託者カ本法其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル者ナルトキト

贈與所得稅ヲ賦課ス

受託者法人ナル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ個人ノ所得ト看做ス

信託會社ノ所得計算ニ付テハ貸付信託ニ因ル收入及支出ハ其ノ總益金及總損金ヨリ之ヲ控除ス(大正十二年法律第二十九號修正)

第三條ノ三

本法ニ於テ貸付信託ト稱スルハ信託會社ノ引受ケタル金錢信託ニシテ信託財産ノ運用方法ヲ預入又ハ貸付ノミニ限定シタルモノヲ謂フ(大正十五年法律第八號修正)

第四條

法人ノ普通所得ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ保險會社ニ在リテハ各事業年度ノ利益金又ハ剩餘金ニ依ル(大正十五年法律第八號修正)

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ普通所得ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前項ノ規定ニ準シ之ヲ計算ス(同上)

法人カ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條

法人ノ普通所得カ當該事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ超過所得トス(大正十五年法律第八號修正)

第六條

法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及積立金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

前項計算ノ場合ニ於テ繰越缺損金アルトキハ其ノ各月末ニ於ケル金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算

シ資本金額ヨリ控除ス

第七條 本法施行地ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有セサル法人又ハ所得稅ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第八條 本法ニ於テ積立金ト稱スルハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス法人ノ普通所得中其ノ留保シタルモノヲ謂フ(大正十五年法律第八號第三條)

第九條 (大正十五年法律第八號第四條)

第十條 (大正十五年法律第八號第五條)

第十一條 法人解散シタル場合ニ於テ其ノ殘餘財産ノ價額ヲ解散當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ清算所得トス(大正十五年法律第八號第六條)

第十二條 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員カ合併後存続スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込済金額又ハ出資金額及金額ノ總額カ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ト看做ス(同)

第十三條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第十四條 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受テヘキ金額ニ依ル
第十五條 第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス(大正十五年法律第八號第七條)

一 營業ニ非サル貸金ノ利子並第二種ノ所得ニ屬セサル公債、社債及預金ノ利子ハ前年中ノ收入金額

二 山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額
三 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額

四 法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額(無記名株式ノ配當ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額)ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額

五 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料及此等ノ性質ヲ有スル給與ハ前年中ノ收入金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケタルニ非サルモノニ付テハ其ノ年ノ豫算年額

六 前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ有シタルニ非サル資産、營業又ハ職業ノ所得ニ付テハ其ノ年ノ豫算年額

株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額又ハ退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受クル金額カ其ノ株式ノ拂込済金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ法人ヨリ受クル利益ノ配當ト看做ス(同)

第七條 第一項第一號、第二號及第四號ノ所得ニ付テハ被相続人ノ所得ハ之ヲ相続人ノ所得ト看做シ第六號ノ所得ニ付テハ相続シタル資産又ハ營業ハ繼承人カ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得ヲ計算ス(同)

所得稅 所得稅法

シ資本金額ヨリ控除ス

第七條 本法施行地ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有セサル法人又ハ所得稅ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第八條 本法ニ於テ積立金ト稱スルハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス法人ノ普通所得中其ノ留保シタルモノヲ謂フ(大正十五年法律第八號修正)

第九條 (大正十五年法律第八號修正)

第十條 (大正十五年法律第八號修正)

第十一條 法人解散シタル場合ニ於テ其ノ殘餘財産ノ價額ヲ解散當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ清算所得トス(大正十五年法律第八號修正)

法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員カ合併後存続スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込金額又ハ出資金額及金錢ノ總額カ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ト看做ス(同上)

第十二條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第十三條 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受テヘキ金額ニ依ル
第十四條 第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス(大正十五年法律第八號修正)

一 營業ニ非サル貸金ノ利子及第二種ノ所得ニ屬セサル公債、社債及預金ノ利子ハ前年中ノ收入金額

二 山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

三 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額

四 法人ヨリ受タル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額(無記名株式ノ配當ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額)ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額

五 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料及此等ノ性質ヲ有スル給與ハ前年中ノ收入金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケタルニ非サルモノニ付テハ其ノ年ノ豫算年額

六 前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ有シタルニ非サル資産、營業又ハ職業ノ所得ニ付テハ其ノ年ノ豫算年額

株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受タル金額又ハ退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受タル金額カ其ノ株式ノ拂込金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ法人ヨリ受タル利益ノ配當ト看做ス

第七條 第一項第一號、第二號及第四號ノ所得ニ付テハ被相続人ノ所得ハ之ヲ相續人ノ所得ト看做シ第六號ノ所得ニ付テハ相續シタル資産又ハ營業ハ相續人カ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得ヲ計算ス(同上)

第十五條 前條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額一萬二千圓以下ナルトキハ其ノ所得中勤勞所得

(前條第一項第三號及第五號ノ所得)ニ付左ノ金額ヲ控除ス(大正十五年法律第八號改正)

- 一 所得總額六千圓以下ナルトキハ勤勞所得ノ十分ノ二
 - 二 所得總額中勤勞所得以外ノ所得六千圓以上ナルトキハ勤勞所得ノ十分ノ一
 - 三 所得總額六千圓ヲ超エ勤勞所得以外ノ所得六千圓未滿ナルトキハ勤勞所得中勤勞所得以外ノ所得ト合算シテ六千圓ニ達スル迄ノ金額ノ十分ノ二、其ノ他ノ金額ノ十分ノ一
- 戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第十六條 前二條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額三千圓以下ナルトキハ其ノ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ其ノ年三月一日現在ノ同居ノ戶主及家族中年齡十八歲未滿者ハ六十歲以上ノ者又ハ不具癡疾者一人ニ付百圓ヲ控除ス但シ第二條ノ規定ニ依ル納稅義務者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(大正十五年法律第八號改正)

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ納稅義務者ノ一人又ハ數人ノ所得ヨリ之ヲ控除ス(同上)

同一人ニシテ山林ノ所得ト山林以外ノ所得トヲ有スル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依ル控除ハ先

ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及フ

第一項ノ不具癡疾者ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條ノ二 第三條ノ二第二項第三項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ受託者固有ノ所得ト區分シテ所得金額ヲ定ム二以上ノ信託アル場合ニ於テハ尙各信託毎ニ之ヲ定ム

第十五條第二項、第十六條、第二十條第二項及第二十三條第二項ノ規定ハ前項ノ所得ニ付之ヲ適用セス(大正十一年法律第四十五號追加)

第十六條ノ三 自己若ハ家族又ハ其ノ相續人ヲ保險金受取人トスル生命保險契約ノ爲ニ拂込ミタル保險料ハ年額二百圓ヲ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ本人ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ之ヲ控除ス(大正十一年法律第四十五號追加)

二五號法律第十一號追加

第十七條 北海道府縣市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體、神社、寺院、祠宇、佛堂及民法

第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ所得稅ヲ課セス(大正十五年法律第八號改正)

第十八條 第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得稅ヲ課セス(大正十五年法律第八號改正)

- 一 軍人從軍中ノ俸給及手當
- 二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ退隱料
- 三 旅費、學資金及法定扶養料
- 四 郵便貯金、產業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子
- 五 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

六 日本ノ國籍ヲ有セザル者ノ本法施行地外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得
第十九條 勅令ヲ以テ指定シタル重要物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及
其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生スル所得ニ付所得稅ヲ免除ス

第二十條 第三種ノ所得ハ千二百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス第十五條、第十六條及第十六
條ノ三ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲千二百圓ニ滿タサルニ至リタルトキ亦同シ(大正十五年法律第八號改)

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戶主ト別居スル二人以
上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第二十一條 第一種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス(大正十五年法律第八號改)
甲 普通所得

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人 百分ノ五
本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人 百分ノ十

乙 超過所得

超過所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス
普通所得金額中資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ四
同百分ノ二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ十
同百分ノ三十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ二十

丙 清算所得

清算所得金額ヲ左ノ如ク區分シ各稅率ヲ適用ス
積立金又ハ本法其他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル所得ヨリ成ル金額 百分ノ五
其ノ他ノ金額 百分ノ十

法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該
事業年度ノ第一種ノ所得ニ對スル所得稅額ヨリ之ヲ控除ス
前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ第一種ノ所得計算上之ヲ損金ニ算入
セス

前二項ノ規定ハ法人ノ清算所得ニ對スル所得稅ニ付之ヲ準用ス

第二十一條ノ二 同族會社カ各事業年度ニ於テ留保シタル金額中左ノ各號ノ一ニ該當スル金額アル
トキハ政府ハ其ノ事業年度ノ普通所得ヲ年額ニ換算シタル金額中五萬圓以下ノ金額ニ百分ノ十、
五萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ十五、十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ二十、五十萬圓ヲ超ユル金額ニ
百分ノ二十五、百萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ三十ヲ乘シタル合計金額ノ普通所得年額ニ對スル割
合ヲ求メ之ヲ稅率トシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル金額(各號共ニ該當スル場合ニハ其ノ多額ナル
一方)ニ付適用シテ算出シタル稅額ヲ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スルコトヲ得(大正十五年法律
第八號改)
一 事業年度ノ普通所得中留保シタル金額カ其ノ事業年度ニ於ケル普通所得ノ十分ノ三ニ相當ス

所得稅 所得稅法

一 金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額
 二 事業年度末ニ於ケル積立金及其ノ事業年度ノ普通所得中留保シタル金額ノ合計カ其ノ事業年度末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額但シ其ノ事業年度末ニ於ケル積立金カ拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ之ヲ控除ス
 本法ニ於テ同族會社ト稱スルハ株主又ハ社員ノ一人及之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ株式金額又ハ出資金額ノ合計カ其ノ法人ノ株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一以上ニ相當スル法人ヲ謂フ(同)

第二十二條 第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

- 甲 公債ノ利子 百分ノ四
- 其ノ他 百分ノ五

乙 信託會社カ其ノ引受ケタル貸付信託ノ信託財產ニ付納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅額ヨリ之ヲ控除ス(大正十五年法律第八號附則)

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ其ノ貸付信託ノ利益ニ之ヲ加算ス(同)
 第二十三條 第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス但シ山林ノ所得ハ山林以外ノ所得ト之ヲ區分シ其ノ所得ヲ五分シタル金額ニ對シ此ノ稅

率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ五倍シタルモノヲ以テ其ノ稅額トス(大正十五年法律第八號附則)	
千二百圓以下ノ金額	百分ノ〇・八
千二百圓ヲ超ユル金額	百分ノ二
千五百圓ヲ超ユル金額	百分ノ三
二千圓ヲ超ユル金額	百分ノ四
三千圓ヲ超ユル金額	百分ノ五
五千圓ヲ超ユル金額	百分ノ六・五
七千圓ヲ超ユル金額	百分ノ八
一萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ九・五
一萬五千圓ヲ超ユル金額	百分ノ十一
二萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十三
三萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十五
五萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十七
七萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ十九
十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十一
二十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十三
五十萬圓ヲ超ユル金額	百分ノ二十五

百萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ二十七

二百萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ三十

三百萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ三十三

四百萬圓ヲ超ユル金額

百分ノ三十六

前項ノ場合ニ於テ戶主及其ノ同居家族ノ所得金額ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ對シ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ各其ノ所得金額ニ案分シテ各其ノ稅額ヲ定ム戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得金額ニ付亦同シ

第二十四條 第一種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ財產目錄、貸借對照表、損益計算書又ハ清算若ハ合併ニ關スル計算書並第四條乃至第十一條ノ規定ニ依リ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ所得ヲ政府ニ申告スヘシ但シ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ第一種ノ所得ニ付所得稅ヲ課セラルヘキ法人ニ付其ノ所得ナキ場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年三月十五日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ（大正十二年法律第八號改正）

第十六條 又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ申告ト同時ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請書ヲ提出スヘシ（同上）

第二十六條 第一種ノ所得金額ハ第二十四條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得（大正十二年法律第八號改正）

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ヲ有スル者納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ納稅義務者所得金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定ス（大正十二年法律第八號改正）

第二十七條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス（大正十二年法律第八號改正）

第二十八條 各稅務署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ所得調査委員會ヲ置クコトヲ得（大正十二年法律第八號改正）

調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ増減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 調査委員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

調査委員ヲ選舉スルトキハ同時ニ之ト同數ノ補員ヲ選舉スヘシ

第三十條 調査委員及補員ノ選舉區域ハ所得調査委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ投票區及開票區ハ

市町村ノ區域ニ依ル但シ市制第六條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル(大

正十二年法律第八號)

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做ス(同前)

第三十一條 選舉區域内ニ住居シ三種ノ所得又ハ個人ノ營業ニ付其ノ年法定ノ期限迄ニ所得金

額又ハ純益金額ノ申告ヲ爲シ且其ノ決定ヲ受ケタル者ニシテ選舉人名簿ニ登録セラレタルモノハ

調査委員及補員ヲ選舉シ又ハ調査委員若ハ補員ニ選舉セラルルコトヲ得但シ左ノ各號ノ一ニ

該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス(大正十五年法律第八號)

一 無能力者

二 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ了ヘサル

者

三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者

四 六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

五 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クル

コトナキニ至ル迄ノ者

第六十七條乃至第七十六條又ハ營業收益稅法第二十八條乃至第三十條ノ規定ニ依リ處罰セラ

レタル後五年ヲ經サル者

其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前選舉ヲ行フ場合ニ於テハ前年第三種ノ所得又ハ個人ノ營

業ニ付所得稅又ハ營業收益稅ヲ納メタルコトヲ以テ其ノ年所得金額又ハ純益金額ノ決定ヲ受ケタ

ルモノト看做ス(同前)

前二項ノ場合ニ於テ被相続人ノ爲シタル納稅又ハ申告ハ其ノ相続人ノ納稅又ハ申告ト看做ス(同前)

選舉人名簿ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 投票及開票ニ關スル事務ハ市區町村長又ハ戸長之ヲ擔任シ選舉會ニ關スル事務ハ稅務

署長之ヲ擔任ス

第三十條第二項ノ町村組合ニ付テハ其ノ組合管理者ヲ町村長ト看做ス(大正十二年法律第八號)

第三十三條 稅務署長ハ調査委員及補員ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戸長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ

第三十四條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ調査委員及補員ノ各選舉ニ付一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ至リ被選舉人各一人ノ氏名ヲ各別ノ投票用紙ニ記

載シテ投票スヘシ

投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付ス

第三十五條 市區町村長又ハ戸長ハ投票ヲ調査シ直ニ其ノ結果ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第三十六條 稅務署長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ選舉會ヲ開キ之ヲ調査スヘシ

第三十七條 投票、開票及選舉會ニハ立會人ヲ立會ハシムヘシ

立會人ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十八條 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取り年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査委員ニ當選シタル者同時ニ補員ニ當選スルモ補員タルコトヲ得ス

第三十九條 調査委員及補員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示シ且之ヲ當選人及市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戸長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第四十條 調査委員又ハ補員ニ當選シタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第四十一條 調査委員及補員ノ任期ハ選舉期日ノ屬スル月ヨリ四年トス(大正十五年法律第八號改正)

選舉區域ノ變更ニヨリ其ノ區域内ニ於ケル第三種ノ所得ニ付其ノ年所得金額ノ決定ヲ受ケタル者及個人ノ營業ニ付其ノ年純益金額ノ決定ヲ受ケタル者ノ合計數ニ五分ノ一以上ノ増減ヲ來シタル場合ニ於テハ調査委員及補員ノ任期ハ選舉區域ノ變更アリタル月ヲ以テ終了スルモノトス但シ其ノ選舉區域ノ變更ノ月カ一月又ハ二月ナルトキハ三月、四月乃至八月ナルトキハ九月、十二月ナルトキハ翌年三月ヲ以テ終了スルモノトス

第三十一條第二項ノ規定ハ其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前選舉區域ノ變更アリタル場合

ニ之ヲ準用ス

第四十二條 調査委員及補員ノ改選ハ前任者ノ任期終了ノ月ノ翌月ニ於テ之ヲ行フ

第四十三條 調査委員ニ關員ヲ生シタルトキハ投票ノ最多數ヲ得タル補員ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取り年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査委員ニ關員ヲ生シ之ヲ補充スヘキ補員ナキトキハ調査委員ノ補選ヲ行フ

第四十四條 前條ノ規定ニ依リ調査委員又ハ補員ト爲リタル者ハ前任者ノ殘任期間在任ス

選舉區域ノ變更ニ因リ新ニ選舉セラレタル調査委員及補員ノ任期ハ選舉區域變更前ニ於ケル調査委員及補員ノ選舉期日ノ屬スル月ヨリ四年ヲ以テ終了ス

第四十五條 調査委員又ハ補員第三十一條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ、第三種ノ所得ニ對スル所得稅若ハ營業收益稅ノ何レニ付テモ納稅義務ヲ有セサルニ至リタルトキ又ハ其ノ選舉區域内ニ住居セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ(大正十五年法律第八號改正)

第四十六條 所得調査委員會ノ開會日數ハ三十日以内トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 所得調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第四十八條 所得調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第四十九條 所得調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第五十條 調査委員ハ自己及自己ト同一戶籍内ニ在ル者ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第五十一條 五月三十一日迄ニ所得調査委員會成立セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス(大正十五年法律第八號改正)

所得調査委員會開會ノ日ヨリ第四十六條ノ期間内又ハ五月三十一日迄ニ調査結了セサルトキハ政府ニ於テ調査未済ノ所得金額ヲ決定ス(同)

第五十二條 政府ハ所得調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ七日以内ノ期間ヲ定メ之ヲ再調査ニ付ス仍共ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査期間内ニ調査結了セサルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

第五十三條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ所得調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十四條 調査委員ニハ手當及旅費ヲ給ス

第五十五條 本法施行地ニ於テ利子支拂ヲ爲スヘキ公債又ハ社債ヲ募集シタル者ハ遲滯ナク其ノ公債又ハ社債ニ付左ノ事項ヲ記載シタル調査書ヲ政府ニ提出スヘシ

一、公債又ハ社債ノ名稱及其ノ總額

二、利子支拂期限及利率

三、償還ノ方法及期限

四、數回ニ分チテ拂込ヲ爲サシムルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期

第五十六條 第三種ノ所得ニ屬スル俸給給料歳費年金恩給退隱料賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲナス者又ハ利益若ハ利息ノ配當若ハ剩餘金ノ分配ヲ爲ス法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ支

拂調査書ヲ政府ニ提出スヘシ

信託ノ受託者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ各信託ニ付計算書ヲ政府ニ提出スヘシ(大正十二年法律第四十五號改正)

第一項又ハ前項ノ支拂調査書又ハ計算書ヲ提出シタル者ニ對シテハ命令ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得(同改正)

第五十七條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者、納稅義務アリト認ムル者又ハ前條第一項又ハ第二項ノ支拂調査書又ハ計算書ヲ提出スル義務アル者ニ質問スルコトヲ得(大正十二年法律第四十五號改正)

第五十八條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價格又ハ支拂期日ニ付質問スルコトヲ得

第五十九條 第二十六條、第五十一條若ハ第五十二條ノ規定ニ依リ第一種若ハ第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ稅額ヲ加算シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ(大正十五年法律第八號改正)

本法施行地内ニ住所又ハ居所ヲ有セサル納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲ササルトキハ前項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ其ノ通知アリタルモノト看做ス

第六十條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル所得金額又ハ加算稅額ニ對シテ異議アリ

ルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得
(大正十五年法律第八號改正)

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス

第六十一條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス
所得審査委員會ハ前條第一項ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ
得

第五十二條ノ規定ハ所得審査委員會ノ決議ニ之ヲ準用ス

第六十二條 各稅務監督局所轄內ニ所得審査委員會ヲ置ク

所得審査委員會ハ左ノ審査委員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 收稅官吏中ヨリ大藏大臣ノ命シタル者三人

二 稅務監督局所轄內各府縣又ハ北海道ニ於テ調査委員ノ互選シタル者府縣ニ在リテハ各一人北
海道ニ在リテハ四人

所得審査委員會、審査委員及其ノ補員ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノヲ除クノ外命令ヲ以テ
之ヲ定ム

第六十三條 調査委員ヨリ選舉セラレタル審査委員ニハ日當及旅費ヲ給ス

第六十四條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者第十四條第一項第五號及第六號ノ所得額二分ノ一以
上ヲ減損シタルトキハ政府ニ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キ

タルトキハ此ノ限ニ在ラス(大正十五年法律第八號改正)

所得金額決定後相續、贈與又ハ營業繼續ニ因リ所得金額ヲ減損シタル場合ニハ前項ノ規定ヲ適用
セス

第六十五條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ所得金額ヲ査覈シ二分ノ一以上ノ減損アルト

キハ之ヲ更訂ス(大正十五年法律第八號改正)

第六十六條 納稅義務者第六十一條ノ決定又ハ前條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政
訴訟ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 第一種ノ所得ニ付テハ事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス但シ清算所得ニ付テハ清算又ハ合
併ノ際之ヲ徵收ス

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ム
ヘシ

第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理
人ノ申告ヲ爲サスシテ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ所得稅ヲ徵收スルコト
ヲ得(大正十五年法律第八號改正)

第一期 其ノ年七月一日ヨリ三十一日限

第二期 其ノ年十月一日ヨリ三十一日限

第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

第六十八條 前條第二項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ所得稅ヲ徵收セサルトキ又ハ其ノ徵收シタル税金ヲ納付セサルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第六十九條 法人解散シタル場合ニ於テ清算所得ニ對スル所得稅又ハ前條ノ規定ニ依リ徵收セララル税金ヲ納付セスシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ其ノ税金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第七十條 第六十四條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第七十一條 第三種ノ所得ニ付二以上ノ稅務署所轄内ニ於テ所得金額ノ決定アリタルトキハ政府ハ納稅義務者ノ住所以外、住所ナキトキハ居所以外ニ於ケル所得金額ノ決定ヲ取消スヘシ

七十二條 第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ納稅義務者ノ住所、住所ナキトキハ居所ヲ以テ納稅トス但シ住所以外ニ在ル者ハ申告シテ居所ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得

本法施行地ニ住所及居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス

第七十三條 納稅義務者納稅地ニ現住セサルトキハ其ノ所得ノ申告、納稅其ノ他所得稅ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキ亦同シ

第七十三條ノ二 同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ其ノ所得又ハ株主社員若ハ之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ所得ニ付所得稅通脫ノ目的アリト認メラルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラス政府ハ其ノ認ムル所ニ依リ此等ノ者ノ所得金額ヲ計算スルコトヲ得(大正十五年法律第八號改正)

第七十三條ノ三 (大正十五年法律第八號改正)

第七十三條ノ四 (大正十五年法律第八號改正)

第七十四條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ所得稅ヲ通脫シタル者ハ其ノ通脫シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ場合ニ於テ第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ通脫シタル者ノ所得金額ハ第二十六條第二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス(大正十二年法律第八號改正)

第七十五條 正當ノ事由ナクシテ第五十六條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ政府ニ提出スヘキ支拂調書又ハ計算書ヲ提出セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタル支拂調書又ハ計算書ヲ提出シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス(大正十一年法律第四十五號改正)

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シテハ其ノ提出ニ係ル支拂調書又ハ計算書ニ付第五十六條第三項ノ規定ニ依ル金額ヲ交付セス同上

第七十六條 所得ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第

四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附則

第七十八條 本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得稅ヨリ本法ヲ適用ス但シ第十六條ノ規定ハ大正九年分所得稅ニ付テハ之ヲ適用セズ

賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ從前ノ規定ニ於テ第三種所得トシテ計算スヘキモノニ付テハ本法施行前ニ於ケル收入金額ニ限り、銀行定期預金又ハ定期預金ノ性質ヲ有スル銀行預金ノ利子ニ付テハ支拂期ノ本法施行前ニアルモノニ限り大正九年分第三種所得トシテ計算ス

第七十九條 所得稅法ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人又ハ所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ免除セラレタル法人ノ本法施行前ニ終了シタル各事業年度分ニ屬スル第十四條第一項第四號及第五號ノ所得其ノ他本法施行前ニ於ケル第十四條第一項第四號ノ所得ニ付テハ本法ヲ適用セズ

第八十條 本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
第八十一條 法人ノ超過所得ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ大正十年七月三十一日ニ至ル間ニ終了スル各事業年度分ノ超過所得ニ限り本稅ノ三割五分ヲ増徴ス

大正九年七月一日以後ニ於テ法人ノ事業年度ノ期間ニ變更アリタルトキハ前項ニ該當スル舊事業年度ノ期間内ニ始期又ハ終期ヲ有スル各事業年度分ノ超過所得ニ付本法ニ依リ所得稅ヲ課シ仍本

稅ノ三割五分ヲ増徴ス

第八十二條 所得調查委員及所得審査委員ニ關シテハ大正十年五月一日迄ハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ從前ノ規定中八月三十日トアルハ九月三十日トス

從前ノ規定ニ依ル所得調查委員、補員及所得審査委員ノ任期ハ大正十年五月一日ヲ以テ終了ス
第八十三條 第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得稅ニ限り第一期ノ納期ヲ大正九年十月一日ヨリ三十一日限トス

第八十四條 所得稅法ハ當分ノ内小笠原島及伊豆七島ニ之ヲ施行セズ

附則

(大正十一年法律第四十五號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十二年一月二日ヨリ施行)

附則

(大正十二年法律第八號)

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル銀行預金利子中從前ノ規定ニ依リ第三種所得トシテ計算スヘキモノニ付テハ支拂期ノ本法施行前ニアルモノニ限り大正十二年分第三種所得トシテ計算ス

附則

(大正十二年法律第二十九號)

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行地ニ於テ信託利益ノ支拂ヲ受クル貸付信託ノ所得ニシテ從前ノ規定ニ依リ第三種所得トシテ計算スヘキモノニ付テハ信託利益ノ支拂期カ本法施行前ニ在ルモノニ限り大正十二年分第三種所

得トシテ計算ス

附則 (大正十二年法律第四十二號)

本法ハ大正十三年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

附則 (大正十五年法律第八號)

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三種ノ所得ニ付テハ大正十五年分所得稅ヨリ本法ヲ適用ス但シ第二十五條、第五十一條及第六十七條ノ改正規定ハ大正十六年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

第十四條第一項第三號又ハ第四號ノ所得ニシテ大正十四年三月中ノ收入ニ屬スルモノハ之ヲ大正十五年分第三種所得トシテ計算セス

第十六條第一項ノ改正規定中三月一日トアルハ大正十五年ニ限り四月一日トス

本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得及本法施行前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

所得調査委員及所得審査委員ニ關シテハ大正十五年九月三十日迄ハ仍從前ノ例ニ依ル從前ノ規定ニ依ル所得調査委員及補員ノ任期ハ大正十五年九月三十日ヲ以テ終了ス

第三十一條、第四十一條及第四十五條ノ改正規定中營業收益稅ニ關スルモノハ大正十五年分ニ付テハ之ヲ營業稅ニ關スルモノトス

○所得稅法ノ施行ニ關スル件

(大正九年七月三十一日法律第十二號)

改正 大正十年三月三十日法律第十五號

大正十一年三月三十一日法律第二十七號

大正十五年三月二十七日法律第九號

第一條 所得稅法ハ朝鮮、臺灣及樺太ニハ之ヲ施行セス

第二條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ所得稅法第三條第一種甲及乙並第二種乙ノ所得ニ付テハ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ課セス(大正十五年法律第九號改正)

第三條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人カ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人カ所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スルトキハ所得稅法第十二條ノ規定ヲ準用ス(大正十年法律第十五號及大正十五年法律第九號改正)

第四條 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ臺灣又ハ樺太ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得ニ付テハ所得稅法第十八條第六號ノ規定ヲ適用セス(大正十年法律第十五號及大正十一年法律第二十七號改正)

第五條 臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第三條第二種乙及第三種ノ所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ課セス(同上)

第六條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得ニシテ臺灣又ハ樺太ニ

所得稅 所得稅法ノ施行ニ關スル件

於ケル法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スルモノニ付テハ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ課セ
ス(同上)

第七條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於テ所得稅ヲ免除スル各該地ノ製造業ヨリ生スル所得ニ
付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル所得稅ヲ免除ス(大正十年法律第十五號加)

附則

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十年法律第十五號)

本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三種ノ所得ニ付テハ大正十年分所得稅ヨリ、第三條
改正ノ規定ハ大正十年四月一日ヲ含ム事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

附則 (大正十一年法律第二十七號)

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三種ノ所得ニ付テハ大正十一年分所得稅ヨリ之ヲ
適用ス

附則 (大正十五年法律第九號)

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○所得稅法施行規則

(大正九年七月三十一日勅令第二百二十六號)

改正

大正十年四月一日勅令第六十九號

大正十一年三月三十一日勅令第七十一號

大正十一年十二月二十九日勅令第五百十三號

大正十二年三月二十九日勅令第七十八號

大正十三年二月二十三日勅令第二十三號

大正十五年三月三十一日勅令第二十九號

第一條 法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金又ハ損金ハ其ノ事業年度ノ所得計算上益金又ハ損金
ニ之ヲ算入セス(大正十五年勅令第二十九號加)

第一條ノ二 法人ノ超過所得ノ算出ニ付其ノ資本金額ニ對スル年百分ノ十ノ割合ノ金額ハ當該事業
年度ノ月數ヲ資本金額ニ乘シ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ十ヲ乘シテ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タサル端數ヲ生シタルトキハ之ヲ一月トス
前二項ノ規定ハ所得稅法第二十一條ノ規定ニ依ル超過所得ノ各級金額ノ算出ニ付之ヲ準用ス(大正十
五年勅令第二十九號ヲ以テ舊勅令第一條ノ二トス)

第二條 所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金
額ハ總資産價額ニ對スル所得稅法施行地ニ於ケル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス
前項ノ場合ニ於テ資産價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ所得ノ割合其ノ他適當

ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第三條 所得稅ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ超過所得算出ノ基礎タル資本金額ハ總資産價額ニ對スル所得稅ヲ課スヘキ所得ノ基本タル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四條 所得稅法第二十一條ノ規定ニ依リ清算所得中百分ノ五ノ稅率ヲ適用スヘキ金額ハ解散當時ノ積立金(最後ノ事業年度ニ於テ留保シタル金額ヲ含ム)及清算期間中ニ生シタル所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル所得ニ相當スル金額ノ合計ニ依ル(大正十五年勅令第二十九號改正)

前項ノ所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル所得ニ相當スル金額ノ計算ニ付テハ所得稅法第四條ノ規定ヲ準用ス(同上)

第五條 所得稅法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ普通所得ヲ年額ニ換算スル場合ニ於テハ普通所得ヲ十二倍シタルモノヲ當該事業年度ノ月數ヲ以テ除シ之ヲ計算ス(大正十五年勅令第二十九號改正)

前項ノ月數ノ計算ニ付テハ第一條ノ二第二項ノ規定ヲ準用ス(同上)

第六條 所得稅法第二十一條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得稅額ヨリ控除スヘキ第二種ノ所得稅額中公債又ハ社債ニ對スルモノハ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スルモノニ限ル(大正十五年勅令第二十九號改正)

前項ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スル第二種所得稅額ハ其ノ納付シタル第二種ノ所得稅額ヲ其ノ公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子額ト所有セザリシ期間ノ利子額トニ案分シ

テ之ヲ計算ス(同上)

第六條ノ二 所得稅法第二十一條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得稅額ヨリ第二種ノ所得稅額ノ控除ヲ受ケムトスル者ハ所得稅法第二十四條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ(大正十五年勅令第二十九號改正)

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ第二種ノ所得ノ種類別ニ其ノ利子又ハ利益、納付シタル稅額及控除ヲ受クヘキ稅額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ(同上)

第六條ノ三 所得稅法第二十二條第二項ノ規定ニ依リ貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅額ヨリ控除スヘキ第二種ノ所得稅額ハ信託會社ニ於テ貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅徵收ノ際之ヲ控除スヘシ(同上)

第六條ノ四 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第六條ノ二ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者又ハ前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル信託會社ニ對シ其ノ計算ヲ證明スヘキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得(同上)

第七條 所得稅法第十四條ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキ經費ハ種苗蠶種肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノモノノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第八條 第三種ノ所得ノ申告、調査又ハ決定ハ各其ノ當時ノ現況ニ依リテ所得額ヲ算出シ之ヲ爲ス

ヘシ

所得稅法第十四條第一項第六號ノ規定ニ依ル所得計算ニ付損失アルトキハ同條第一項第五號ノ規定ニ依ル所得ヨリ之ヲ差引キテ計算ス(大正十五年勅令第二十九號改正)

第八條ノ二 所得稅法第十五條第二項ノ場合ニ於テ所得ヨリ控除スヘキ金額ハ各納稅義務者ノ勤勞所得ニ案分シテ之ヲ計算ス(大正十五年勅令第二十九號改正)

第九條 所得稅法第十六條ノ不具癱疾者トハ心神喪失ノ常況ニ在ル者、聾者、啞者、盲者其ノ他重大ナル傷痍ヲ受ケ又ハ不治ノ疾患ニ罹リ常ニ介護ヲ要スル者ヲ謂フ

第九條ノ二 所得稅法第十六條第二項ノ場合ニ於テ所得ヨリ控除スヘキ金額ハ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ各其ノ控除額ヲ定ム但シ其ノ申請額ノ合計カ控除スヘキ金額ヲ超過スルトキ若ハ之ニ達セサルトキ又ハ其ノ申請額不明ナルトキハ稅務署長ニ於テ各其ノ控除額ヲ定ム(大正十五年勅令第二十九號改正)

第十條 所得稅法第十六條ノ規定ニ依ル控除ノ申請書ニハ年齢十八歲未滿若ハ六十歲以上ノ者又ハ不具癱疾者ノ氏名、生年月日、職業、申請者トノ續柄、不具癱疾ノ事實及控除金額ヲ記載シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ(大正十五年勅令第二十九號改正)

其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタル者所得稅法第十六條ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ前項ノ申請書ヲ提出スヘシ(同上)

所得稅法第十六條第二項ノ場合ニ於テハ前二項ノ申請書ハ所得ヲ有スル者ノ一人ヨリ之ヲ提出ス

ルヲ以テ足ル

第十一條 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者ニ對シ戶籍ノ原本若ハ抄本又ハ醫師ノ診斷書其ノ他必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十一條ノ二 所得稅法第十六條ノ三ノ規定ニ依リ第三種ノ所得ヨリ控除スヘキ保險料ハ前年中ニ拂込ミタル金額ニ依リ之ヲ計算シ所得稅法第十四條乃至第十六條ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ之ヲ控除ス(大正十五年勅令第二十九號改正)

同一人ニシテ山林ノ所得ト山林以外ノ所得トヲ有スル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル控除ハ先ツ山林以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ山林ノ所得ニ及フ(大正十五年勅令第二十九號改正)

第十一條ノ三 所得稅法第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ(大正十五年勅令第二十九號改正)

- 一 保險者ノ住所及名稱
 - 二 保險ノ種類
 - 三 保險金額
 - 四 保險金受取人ノ住所、氏名及保險契約者トノ續柄
 - 五 前年中ニ拂込ミタル保險料金額
- 其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタル者所得稅法第十六條ノ三ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ前項ノ申請書

ヲ提出スヘシ(前七)

第十一條ノ四 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者ニ對シ 保險料領收證書其ノ他必要ナル書類ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得(大正十三年勅令第二十三號附加及 大正十五年勅令第二十九號改正)

第十一條ノ五 (大正十五年勅令第二十九號改正)

第十二條 左ニ掲クル公共團體ニハ所得稅法第十七條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セス(大正十二年勅令第七十八 號及大正十五年勅令第二十九號改正)

- 一 府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區及部、北海道地方費、市町村學校組合、町村學校組合、學區、水利組合、水利組合聯合會、耕地整理組合、耕地整理組合聯合會、北海道土功組合、重要物產同業組合、重要物產同業組合聯合會、森林組合、酒造組合、酒造組合聯合會、水產組合、水產組合聯合會、外國領海水產組合、外國領海水產組合聯合會、畜產組合、畜產組合聯合會、農會、商業會議所其ノ他此等ノ公共團體ニ準スヘキモノ
 - 二 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ノ公共團體ニシテ各其ノ地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セサルモノト指定セラレタルモノ
- 第十三條 左ニ掲クル物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ所得稅法第十九條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除ス
- 一 金、銀、鉛、亞鉛、鐵又ハアルミニウムノ地金
 - 二 鐵ノ條、竿、テーパー形アングル形類、軌條、板、線及管(鑄製管ヲ除ク)
 - 三 鋼ノ合金ノ條、竿、板及管

四 汽罐、原動機(機關車ヲ含ム)及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械

五 磷、曹達灰、苛性曹達、硫酸アムモニウム、石炭酸、クロル酸加里及グリセリン

六 製紙用バルブ

七 板硝子

八 コンデンストミル

九 絹、亞麻又ハ毛ノ織物

前項第九號ノ物產ノ製造業ニ付テハ動力ヲ以テ運轉スル機械ヲ使用シ幅鯨尺一尺八寸以上及長鯨尺三十尺以上ノ織物ノミヲ製造スル者ニ限ル

第十四條 前條ノ製造業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムヘキ事實アル者ハ其ノ製造業ニ付所得稅ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限り其ノ免除期間ヲ繼承ス

第十五條 所得稅法第十九條ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ同法第二十四條又ハ第二十五條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ但シ其ノ年三月十六日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スヘシ(大正十五年勅令第二十九號改正)

前項ノ場合ニ於テ第十三條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スルトキハ第十三條ノ製造業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第十六條 法人ノ各事業年度ノ所得ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日內又ハ清算

著手ノ日ヨリ二十日内ニ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十七條 解散シタル法人ノ清算所得ハ殘餘財産確定シタルトキ其ノ分配前ニ清算期間中ノ收支計算書ヲ添附シ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ殘餘財産ヲ數回ニ分テテ分配スル場合ニ於テハ其ノ分配スヘキ殘餘財産確定ノ都度之ヲ申告スヘシ

第十八條 合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ハ合併ノ日ヨリ十四日内ニ合併ニ關スル書類及合併ニ因リテ繼承シタル資産ノ明細書ヲ添附シ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十九條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ所得ノ種類金額、所得ノ基本タル資産營業ノ所在地、所得ノ發生スル場所及所得算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

所得稅法第二十三條第二項ノ規定ニ依リ同居者ノ所得金額ヲ合算スヘキ場合ニ於テハ各其ノ所得ヲ區別シ連署ヲ以テ申告スヘシ但シ所得アル同居者ノ氏名ヲ附記シ各別ニ申告スルコトヲ妨ケス

第二十條 所得稅法第五十六條第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ(大正十五年勅令第二十九號改正)

一 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年三月一日ヨリ十二月末日迄ノ分ニ付テハ毎年一月末日限、其ノ年一月一日ヨリ二月末日迄ノ分ニ付テハ毎年三月十五日限

二 法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ配當金額又ハ分配金額ノ確定シタル日ヨリ三十日限但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テ

ハ毎年三月十五日限

三 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受クル者ノ分ニ付テハ毎年一月末日限、其ノ他ノ者ノ分ニ付テハ毎年三月十五日限

第二十一條 前條ノ支拂調書ニハ左ノ各號ノ規定ニ依リ支拂ヲ受クル者ノ住所又ハ居所、氏名及各人別支拂金額ヲ記載スヘシ(大正十五年勅令第二十九號改正)

一 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ支拂金額及支拂金額ノ確定シタル月日
二 法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付テハ其ノ支拂金額、支拂金額ノ確定シタル月日及其ノ支拂ヲ受クル者ノ拂込金額別株式數、出資金額、基金其ノ他支拂金額計算ノ基礎但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日ニ至ル期間ノ支拂金額、支拂月日及其ノ支拂ヲ受ケタル者ノ拂込金額別株式數其ノ他支拂金額計算ノ基礎

三 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受クル者ノ分ニ付テハ前年中ノ支拂金額及其ノ金額計算ノ基礎、其ノ他ノ者ノ分ニ付テハ其ノ年分ノ支拂豫算年額及其ノ金額計算ノ基礎

第二十二條 第二十條第三號ノ規定ニ依リ其ノ年一月末日迄ニ提出シタル支拂調書ニ記載セラレタル者ニシテ其ノ支給ヲ受ケサルニ至リタルモノ又ハ住所氏名ニ異動ヲ生シタルモノニ付テハ三月

十五日迄ニ異動調書ヲ提出スヘシ(大正十五年勅令第二十九號改正)

第二十二條ノ二 信託ノ受託者ハ左ノ期限ニ從ヒ各信託ノ計算書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ貸付信託ニシテ受益者個人ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス(大正十一年勅令第五百十三號追加 大正十二年勅令第七十八號及大正十五年勅令第二十九號改正)

一 信託會社ニ在リテハ每事業年度終了後二十日限

二 信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ毎年三月十五日限

第二十二條ノ三 前條ノ計算書ニハ各信託ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ(大正十一年勅令第五百十三號追加 及大正十五年勅令第二十九號改正)

一 委託者及受益者ノ住所及氏名

二 信託行爲ノ時及信託會社ニ在リテハ各事業年度末、信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ二月末日ニ於ケル信託財産ノ種類及現在額並信託會社ニ在リテハ各事業年度中、信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日ニ至ル期間中ニ於ケル信託財産ノ異動及信託ニ關スル收入支出

三 前各號ニ掲クルモノノ外信託行爲ノ内容ニ關スル事項

第二十三條 第二十條、第二十二條又ハ第二十二條ノ二ニ規定スル調書又ハ計算書ヲ提出シタル者

ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ左ノ金額ヲ交付ス(大正十一年勅令第五百十三號改正)

一 第二十條又ハ第二十二條ニ規定スル調書ニ付テハ記載事項一件一人毎ニ五厘

二 第二十二條ノ二ニ規定スル計算書ニ付テハ一信託毎ニ三錢

前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ調書又ハ計算書提出後三十日以内ニ請求書ヲ所轄稅務署ニ

提出スヘシ(同上)

第二十四條 所得稅法第二十八條第一項但書ノ規定ニ依リ所得調査委員會ヲ置クヘキ市ハ大藏大臣之ヲ指定ス(大正十二年勅令第七十八號改正)

第二十五條 調査委員ノ定數ハ七人トス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ大藏大臣ハ之ヲ増減スルコトヲ得(大正十五年勅令第二十九號改正)

第二十六條 所得稅法第三十三條第二項ノ規定ニ依ル公示ニハ投票及開票ノ日時及場所ヲ記載スヘシ

第二十七條 稅務署長ハ選舉期日前三十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人名簿正副二通ヲ調製シ副本ヲ市區町村長又ハ戸長ニ送付スヘシ

市區町村長又ハ戸長ハ選舉期日前二十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ五日間市區役所、町村役場又ハ戸長役場ニ於テ選舉人名簿ノ副本ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ

關係者選舉人名簿ノ副本ニ付異議アルトキハ縱覽期間内ニ之ヲ稅務署長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ稅務署長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ決定ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ稅務署長ハ正本ヲ修正シ名簿確定期日前市區町村長又ハ戸長ヲシテ其ノ副本ヲ修正セシムヘシ

選舉人名簿ハ選舉期日ノ前日ヲ以テ確定ス
島嶼其ノ他交通不便ノ地ニ於ケル選舉人名簿ニ付テハ大藏大臣ハ第一項乃至第四項ノ規定ニ拘ラ

ス別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 市區町村長又ハ戸長ハ投票區内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ノ中ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ投票及開票ニ立會ハシムヘシ

第二十九條 投票ノ效力ハ開票立會人ノ意見ヲ聽キ市區町村長又ハ戸長之ヲ決定スヘシ

第三十條 市區町村長又ハ戸長ハ投票ノ有效無效ヲ區別シ調査委員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 投票ノ調査終リタルトキハ市區町村長又ハ戸長ハ直ニ左ノ事項ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

一 投票及開票ノ日時及場所

二 投票及開票ノ立會人ノ住所及氏名

三 投票人及投票ノ總數並有效投票及無效投票ノ數

四 投票ヲ無効ト決定シタル事出

五 被選舉人ノ氏名及其ノ得票數

第三十二條 選舉會ハ豫メ稅務署長ノ公示シタル場所及日時ニ於テ之ヲ開ク

第三十三條 稅務署長ハ選舉區内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ノ中ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ選舉會ニ立會ハシムヘシ

第三十四條 所得調査委員會ノ開會日數ハ各所得調査委員會ノ區域内ニ於ケル前年第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納メタル者及所得稅ヲ納メスシテ個人ノ營業ニ付營業收益稅ヲ納メタル者ノ合計數ニ

從ヒ左ノ如ク之ヲ定ム(大正十五年勅令第二十九號改正)

五千人以上ナルトキ 三十日以内

三千人以上ナルトキ 二十五日以内

千人以上ナルトキ 二十日以内

五百人以上ナルトキ 十五日以内

五百人未満ナルトキ 十日以内

第三十五條 所得調査委員會ノ會長事故アルトキハ出席シタル調査委員中ノ年齡多キ者會長ノ職務ヲ代理ス

第三十六條 所得調査委員會ノ決議ハ會長之ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

第三十七條 稅務署長所得稅法第二十六條、第五十一條、第五十二條若ハ第七十四條第二項ノ規定ニ依リ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ所得稅法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ稅額ヲ加算シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ(大正十五年勅令第二十九號改正)

第三十八條 所得稅法第五十九條第二項ノ公告ハ納稅義務者ノ氏名及所得金額ヲ官報ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ

第三十九條 所得稅法第六十條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ事山ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ

所得金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ

第三十九條ノ二(大正十五年勅令第二十九號改正)

第四十條 審査委員及其ノ補闕員ノ選舉事務ハ稅務監督局長之ヲ執行ス

第四十一條 審査委員ヲ選舉スルトキハ同時ニ之ト同數ノ補闕員ヲ選舉スヘシ

補闕員ハ稅務監督局所轄内各府縣又ハ北海道ニ於テ調査委員之ヲ互選ス

第四十二條 稅務監督局長ハ審査委員及補闕員ノ選舉期日、投票時間及投票場所ヲ定メ之ヲ調査委員ニ通知シ同時ニ投票用紙ヲ送付スヘシ

前項ノ規定ニ依ル通知ニハ之ヲ受クヘキ調査委員ノ屬スル府縣又ハ北海道ニ於ケル調査委員ノ氏名表ヲ添附スヘシ

第四十三條 審査委員及補闕員ノ選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ審査委員及補闕員ノ各選舉ニ付一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ至リ被選舉人各一人ノ氏名ヲ各別ノ投票用紙ニ記載シテ投票スヘシ但シ相當ノ事由ニ因リ自ラ投票所ニ至ルコト能ハサルトキハ郵便ニ依リ投票スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ投票時間後到着シタル投票ハ無効トス

第四十四條 稅務監督局長ハ調査委員中ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ投票及開票ニ立會ハシムヘシ

第四十五條 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 審査委員ニ當選シタル者同時ニ補闕員ニ當選スルモ補闕員タルコトヲ得ス

第四十七條 審査委員及補闕員ノ選舉終了シタルトキハ稅務監督局長ハ當選人ニ當選ノ通知ヲ爲シ

且其ノ氏名ヲ公示スヘシ

第四十八條 審査委員又ハ補闕員ニ當選シタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第四十九條 審査委員及補闕員ハ稅務監督局所轄内ニ於ケル調査委員全部ノ改選アリタルトキ之ヲ改選ス（大正十五年勅令第二十九號改正）

第五十條 調査委員ヨリ選舉セラレタル審査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ補闕員ヲ以テ之ヲ補充ス

但シ北海道ニ在リテハ補闕員中投票ノ最多數ヲ得タル者ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ闕員ヲ補充スヘキ補闕員ナキトキハ審査委員ノ補闕選舉ヲ行フ

第五十一條 審査委員又ハ補闕員ニシテ調査委員タルノ資格ナキニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第五十二條 所得審査委員會ハ稅務監督局長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第五十三條 所得審査委員會ハ開會ノ始ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第五十四條 所得審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第五十五條 所得審査委員會ノ會長事故アルトキハ出席シタル審査委員中年齡多キ者會長ノ職務ヲ代理ス

第五十六條 審査委員ハ自己及自己ト同一戸籍内ニ在ル者ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第五十七條 稅務監督局長又ハ其ノ代理官ハ所得審査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十八條 所得審査委員會ノ決議ハ會長之ヲ稅務監督局長ニ通知スヘシ

第五十九條 稅務監督局長所得稅法第六十一條ノ規定ニ依リ所得金額又ハ加算稅額ヲ決定シタルト

キハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ(大正十五年勅令第二十九號改正)

第五十九條ノ二 (大正十五年勅令第二十九號別表)

第六十條 納稅義務者所得稅法第六十四條ノ規定ニ依リ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲サムトスルトキ

ハ同時ニ所得稅法第十六條ノ規定ニ依ル控除ヲ申請スルコトヲ得

第十條及第十一條ノ規定ハ前項ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第六十一條 所得稅法第六十四條第一項ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求カ手續ニ違背シタルモ

ノナルトキ又ハ稅務署長ニ於テ所得額二分ノ一以上ノ減損ナシト認メタルトキハ之ヲ却下スヘ

シ(大正十五年勅令第二十九號改正)

第六十二條 稅務署長所得稅法第六十五條ノ規定ニ依リ所得金額ヲ更訂シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第六十三條 所得金額ノ決定後同居者ニ異動アルモ所得稅法第十五條第二項、第十六條第二項、第

二十條第二項及第二十三條第二項ノ規定ニ依リテ生シタル效果ハ之ヲ變更セス

第六十四條 所得稅ヲ課セサル法人無記名ノ公債又ハ社債ヲ取得シ又ハ喪失シタルトキハ其ノ名

稱、額面金額、記號及番號ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知スヘシ

第六十五條 第二種ノ所得ニ付其ノ金額ノ支拂者所得稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ拂込書及

計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムヘシ第二種乙ノ所得ニ付テハ
尙其ノ支拂ヲ受ケタル者ノ各人別明細書ヲ添附スヘシ(大正十二年勅令第七十二號改正)

第六十六條 所得稅法第七十二條第二項ノ規定ニ依リ納稅地ヲ定メタルトキハ之ヲ納稅地ノ稅務署

ニ申告スヘシ申告ナキトキハ稅務署長其ノ納稅地ヲ指定ス

第六十七條 第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アル者居所地ニ於テ所得稅ヲ納メムトスルトキ

ハ其ノ旨居所地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第六十八條 納稅義務者納稅地ノ稅務署所轄外ニ於テ生スル所得ヲ有スルトキハ其ノ所得ノ生スル

地ノ稅務署ニ納稅地ヲ申告スヘシ

第六十九條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第七十條 納稅義務者所得稅法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移サムトスルトキハ其ノ旨納稅地ノ稅務

署ニ申告スヘシ

第七十一條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ納稅地ノ稅務署ニ

申告スヘシ

第七十一條ノ二 臺灣又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ第二種乙ノ所得ニ付テハ大

正九年法律第十二號第五條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セス(大正十年勅令第六十九號及大正十一年勅令第七十二號改正)

臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有スル個人又ハ所得稅法施行地ニ住所若ハ一年以上居所ヲ有セスシテ臺灣

又ハ樺太ニ一年以上居所ヲ有スル個人ノ第三種ノ所得ニ付テハ左ニ掲クル場合ヲ除クノ外大正九

年法律第十二號第五條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セス

一 所得稅法施行地ニ住所ヲ有スル者所得金額決定後臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ移轉シタルトキ

二 臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者臺灣又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依ル所得金額決定前所得稅法施行地ニ住所ヲ移轉シタルトキ

三 所得稅法施行地、臺灣又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二

號ニ準スヘキ事由ノ生シタルトキ

第七十二條 大正九年法律第十二號第七條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ期間ハ各當該地ノ法令

ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ當該製造業ニ付定メラレタル所得稅ノ免除期間ニ依ル(大正十年勅令第六十九號改正)

第十四條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ期間ニ付之ヲ準用ス

第七十三條 大正九年法律第十二號第七條ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ其ノ製造

業ノ營業場所在地ヲ管轄スル各當該地ノ稅務官署ニ於テ其ノ地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ免除スヘキ

製造業ニ相當スト認メタル證明書ヲ添附シ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ(大正十年勅令第六十九號改正)

第十五條ノ規定ハ前項ニ規定スル申請ニ付之ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得稅ヨリ本令ヲ適用ス但シ所得稅法第十六條ノ規定ノ施行ニ關スル規定ハ大正九年分所得稅ニ付テハ之ヲ適用セス

本令施行前從前ノ規定ニ依リ爲シタル所得稅免除ノ申請及第三種ノ所得ニ關スル申告ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

本令施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

所得調査委員及所得審査委員ニ關シテハ大正十年五月一日迄ハ仍從前ノ規定ニ依ル

大正二年勅令第六十九號ハ之ヲ廢止ス

附 則(大正十年勅令第六十九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(大正十一年勅令第七十二號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(大正十一年勅令第五十三號)

本令ハ大正十一年法律第四十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十一年法律第四十五號ハ大正十一年二月一日ヨリ施行)

附 則(大正十二年勅令第七十八號)

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則(大正十三年勅令第二十三號)

本令ハ大正十三年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

附 則(大正十五年勅令第二十九號)

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

所得稅 所得稅法施行規則

所得稅 所得稅法施行規則

第三種ノ所得ニ付テハ大正十五年分所得稅ヨリ本令ヲ適用ス但シ第十五條、第二十條、第二十二條及第二十二條ノ改正規定ハ大正十六年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス
 大正十五年ニ限リ第十條及第十一條ノ三ノ改正規定中三月十六日トアルハ五月一日、第二十一條ノ改正規定中前年三月一日トアルハ前年四月一日トス
 大正十六年ニ限リ第三十四條ノ改正規定中營業收益稅トアルハ營業稅トス

本令ハ大正十五年三月一日ヨリ施行スルニ付、大正十六年分所得稅ヨリ本令ヲ適用ス但シ第十五條、第二十條、第二十二條及第二十二條ノ改正規定ハ大正十六年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス
 大正十五年ニ限リ第十條及第十一條ノ三ノ改正規定中三月十六日トアルハ五月一日、第二十一條ノ改正規定中前年三月一日トアルハ前年四月一日トス
 大正十六年ニ限リ第三十四條ノ改正規定中營業收益稅トアルハ營業稅トス

○第三種所得稅稅率及稅額調

所得金額 分額	所得金額	山林以外ノ所得		山林ノ所得	
		最高稅率	稅額	最高稅率	稅額
千二百圓以下	一、二〇〇圓	〇・八	九四圓	〇・八	九四圓
千一百圓ヲ超ユルモノ	一、五〇〇圓	二	一〇四圓	〇・八	一二圓
千五百圓ヲ超ユルモノ	一、七〇〇圓	三	一二七圓	〇・八	一三圓
千二〇〇圓ヲ超ユルモノ	二、〇〇〇圓	三	一五三圓	〇・八	一六圓
千二百圓ヲ超ユルモノ	二、二〇〇圓	四	一七五圓	〇・八	一七圓
千二百圓ヲ超ユルモノ	二、五〇〇圓	四	二〇二圓	〇・八	二〇圓
千二百圓ヲ超ユルモノ	二、七〇〇圓	四	二一七圓	〇・八	二一圓
千三百圓ヲ超ユルモノ	三、〇〇〇圓	四	二三五圓	〇・八	二四圓
千三百圓ヲ超ユルモノ	三、二〇〇圓	五	二五一圓	〇・八	二五圓
千三百圓ヲ超ユルモノ	三、五〇〇圓	五	二七三圓	〇・八	二八圓

所得稅 第三種所得稅稅率及稅額調

所得金額	所得金額	山林以外ノ所得		山林ノ所得	
		最高稅率	稅額	最高稅率	稅額
四、〇〇〇圓	四、〇〇〇圓	五	一二〇圓	〇・八	三二圓
四、五〇〇圓	四、五〇〇圓	五	一四六圓	〇・八	三六圓
五、〇〇〇圓	五、〇〇〇圓	五	一七〇圓	〇・八	四〇圓
五、五〇〇圓	五、五〇〇圓	六・五	二〇三圓	〇・八	四四圓
六、〇〇〇圓	六、〇〇〇圓	六・五	二三五圓	〇・八	四八圓
六、五〇〇圓	六、五〇〇圓	六・五	二六八圓	〇・八	五八圓
七、〇〇〇圓	七、〇〇〇圓	六・五	三〇〇圓	〇・八	六八圓
七、五〇〇圓	七、五〇〇圓	八	三三六圓	二	七八圓
八、〇〇〇圓	八、〇〇〇圓	八	三七二圓	二	八八圓
八、五〇〇圓	八、五〇〇圓	八	四〇八圓	二	九八圓
九、〇〇〇圓	九、〇〇〇圓	八	四四四圓	三	一〇八圓
九、五〇〇圓	九、五〇〇圓	八	四八〇圓	三	一二三圓

所得稅 第三種所得稅稅率及稅額調

所得金額	所得金額	最高稅率	稅額	最高稅率	稅額
一〇、〇〇〇圓	一〇、〇〇〇圓	八	五四〇圓	三	一五三圓
一一、〇〇〇圓	一一、〇〇〇圓	九・五	七三〇圓	四	二三三圓
一二、〇〇〇圓	一二、〇〇〇圓	九・五	九二〇圓	四	三三三圓
一三、〇〇〇圓	一三、〇〇〇圓	九・五	一一一〇圓	四	四三三圓
一四、〇〇〇圓	一四、〇〇〇圓	九・五	一三〇〇圓	五	五三三圓
一五、〇〇〇圓	一五、〇〇〇圓	九・五	一四九〇圓	五	六三三圓
一六、〇〇〇圓	一六、〇〇〇圓	九・五	一六八〇圓	五	七三三圓
一七、〇〇〇圓	一七、〇〇〇圓	九・五	一八七〇圓	五	八三三圓
一八、〇〇〇圓	一八、〇〇〇圓	九・五	二〇六〇圓	五	九三三圓
一九、〇〇〇圓	一九、〇〇〇圓	九・五	二二五〇圓	五	一〇三三圓
二〇、〇〇〇圓	二〇、〇〇〇圓	九・五	二四四〇圓	五	一一三三圓
二一、〇〇〇圓	二一、〇〇〇圓	九・五	二六三〇圓	五	一二三三圓
二二、〇〇〇圓	二二、〇〇〇圓	九・五	二八二〇圓	五	一三三三圓
二三、〇〇〇圓	二三、〇〇〇圓	九・五	三〇一〇圓	五	一四三三圓
二四、〇〇〇圓	二四、〇〇〇圓	九・五	三二〇〇圓	五	一五三三圓
二五、〇〇〇圓	二五、〇〇〇圓	九・五	三三九〇圓	五	一六三三圓
二六、〇〇〇圓	二六、〇〇〇圓	九・五	三五八〇圓	五	一七三三圓
二七、〇〇〇圓	二七、〇〇〇圓	九・五	三七七〇圓	五	一八三三圓
二八、〇〇〇圓	二八、〇〇〇圓	九・五	三九六〇圓	五	一九三三圓
二九、〇〇〇圓	二九、〇〇〇圓	九・五	四一五〇圓	五	二〇三三圓
三〇、〇〇〇圓	三〇、〇〇〇圓	九・五	四三四〇圓	五	二一三三圓
三一、〇〇〇圓	三一、〇〇〇圓	九・五	四五三〇圓	五	二二三三圓
三二、〇〇〇圓	三二、〇〇〇圓	九・五	四七二〇圓	五	二三三三圓
三三、〇〇〇圓	三三、〇〇〇圓	九・五	四九一〇圓	五	二四三三圓
三四、〇〇〇圓	三四、〇〇〇圓	九・五	五一〇〇圓	五	二五三三圓
三五、〇〇〇圓	三五、〇〇〇圓	九・五	五二九〇圓	五	二六三三圓
三六、〇〇〇圓	三六、〇〇〇圓	九・五	五四八〇圓	五	二七三三圓
三七、〇〇〇圓	三七、〇〇〇圓	九・五	五六七〇圓	五	二八三三圓
三八、〇〇〇圓	三八、〇〇〇圓	九・五	五八六〇圓	五	二九三三圓
三九、〇〇〇圓	三九、〇〇〇圓	九・五	六〇五〇圓	五	三〇三三圓
四〇、〇〇〇圓	四〇、〇〇〇圓	九・五	六二四〇圓	五	三一三三圓
四一、〇〇〇圓	四一、〇〇〇圓	九・五	六四三〇圓	五	三二三三圓
四二、〇〇〇圓	四二、〇〇〇圓	九・五	六六二〇圓	五	三三三三圓
四三、〇〇〇圓	四三、〇〇〇圓	九・五	六八一〇圓	五	三四三三圓
四四、〇〇〇圓	四四、〇〇〇圓	九・五	七〇〇〇圓	五	三五三三圓
四五、〇〇〇圓	四五、〇〇〇圓	九・五	七一九〇圓	五	三六三三圓
四六、〇〇〇圓	四六、〇〇〇圓	九・五	七三八〇圓	五	三七三三圓
四七、〇〇〇圓	四七、〇〇〇圓	九・五	八〇七〇圓	五	三八三三圓
四八、〇〇〇圓	四八、〇〇〇圓	九・五	八二六〇圓	五	三九三三圓
四九、〇〇〇圓	四九、〇〇〇圓	九・五	八四五〇圓	五	四〇三三圓
五〇、〇〇〇圓	五〇、〇〇〇圓	九・五	八六四〇圓	五	四一三三圓

所得稅 第三種所得稅稅率及稅額調

所得金額	所得金額	最高稅率 %	山林以外ノ所得		山林ノ所得	
			最高稅率 %	稅額	最高稅率 %	稅額
九〇,〇〇〇	九〇,〇〇〇	一九	一九	一三,〇六五	一九	六,七二八
一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一九	一九	一四,九六五	一一	七,八二八
一二〇,〇〇〇	一二〇,〇〇〇	二二	二二	一九,一六五	一三	一〇,四二八
一四〇,〇〇〇	一四〇,〇〇〇	二二	二二	二三,三六五	一三	一三,〇二八
一六〇,〇〇〇	一六〇,〇〇〇	二二	二二	二七,五六五	一五	一五,八二八
一八〇,〇〇〇	一八〇,〇〇〇	二二	二二	三一,七六五	一五	一八,八二八
二〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	二二	二二	三五,九六五	一五	二一,八二八
二二〇,〇〇〇	二二〇,〇〇〇	二三	二三	四二,八六五	一五	二六,三二八
二六〇,〇〇〇	二六〇,〇〇〇	二三	二三	四九,七六五	一七	三一,〇二八
三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	二三	二三	五八,九六五	一七	三七,八二八
三五〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	二三	二三	七〇,四六五	一七	四六,三二八
四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	二三	二三	八一,九六五	一九	五五,八二八

所得稅 第三種所得稅稅率及稅額調

所得金額	所得金額	最高稅率 %	山林以外ノ所得		山林ノ所得	
			最高稅率 %	稅額	最高稅率 %	稅額
四五〇,〇〇〇	四五〇,〇〇〇	二三	二三	九三,四六五	一九	六五,三二八
五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	二三	二三	一〇四,九六五	一九	七四,八二八
六〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	二五	二五	一二九,九六五	二二	九五,八二八
七〇〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇	二五	二五	一五四,九六五	二二	一〇六,八二八
八〇〇,〇〇〇	八〇〇,〇〇〇	二五	二五	一七九,九六五	二二	一三七,八二八
九〇〇,〇〇〇	九〇〇,〇〇〇	二五	二五	二〇四,九六五	二二	一五八,八二八
一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	二五	二五	二二九,九六五	二二	一七九,八二八
一,二〇〇,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇	二七	二七	二八三,九六五	二三	二二五,八二八
一,四〇〇,〇〇〇	一,四〇〇,〇〇〇	二七	二七	三三七,九六五	二三	二七一,八二八
一,六〇〇,〇〇〇	一,六〇〇,〇〇〇	二七	二七	三九一,九六五	二三	三一七,八二八
一,八〇〇,〇〇〇	一,八〇〇,〇〇〇	二七	二七	四四五,九六五	二三	三六三,八二八
二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二七	二七	四九九,九六五	二三	四〇九,八二八
二,二〇〇,〇〇〇	二,二〇〇,〇〇〇	三〇	三〇	五五九,九六五	二三	四五五,八二八
二,四〇〇,〇〇〇	二,四〇〇,〇〇〇	三〇	三〇	六一九,九六五	二三	五〇一,八二八

第三種所得稅額速算表(山林所得以外ノ分)			
算出方法 稅額ヲ算出セムトスル所得金額ニ本表ノ「乘率」ヲ乘シタル金額ヨリ當該欄ノ「控除額」ヲ控除シタルモノカ稅額ナリ			
所得金額	乘率	控除額	
自 圓 至 圓	%	圓 錢	
1.....1,200	0.8	0	
1,201.....1,500	2	14.40	
1,501.....2,000	3	29.40	
2,001.....3,000	4	49.40	
3,001.....5,000	5	79.40	
5,001.....7,000	6.5	154.40	
7,001.....10,000	8	259.40	
10,001.....15,000	9.5	409.40	
15,001.....20,000	11	634.40	
20,001.....30,000	13	1,034.40	
30,001.....50,000	15	1,634.40	
50,001.....70,000	17	2,634.40	
70,001.....100,000	19	4,034.40	
100,001.....200,000	21	6,034.40	
200,001.....500,000	23	10,034.40	
500,001.....1,000,000	25	20,034.40	
1,000,001.....2,000,000	27	40,034.40	
2,000,001.....3,000,000	30	100,034.40	
3,000,001.....4,000,000	33	190,034.40	
4,000,001.....以上	36	310,034.40	

所得金額		山林以外ノ所得		山林ノ所得	
所得金額	最高稅率	稅額	對所得金額ニ付ル%	最高稅率	稅額
二、六〇〇、〇〇〇	三〇	六七九、九六五	二六・一五	二五	五四九、八二八
二、八〇〇、〇〇〇	三〇	七三九、九六五	二六・四二	二五	五九九、八二八
三、〇〇〇、〇〇〇	三〇	七九九、九六五	二六・六六	二五	六四九、八二八
三、二〇〇、〇〇〇	三三	八六五、九六五	二七・〇六	二五	六九九、八二八
三、四〇〇、〇〇〇	三三	九三一、九六五	二七・四一	二五	七四九、八二八
三、六〇〇、〇〇〇	三三	九九七、九六五	二七・七二	二五	七九九、八二八
三、八〇〇、〇〇〇	三三	一、〇六三、九六五	二七・九九	二五	八四九、八二八
四、〇〇〇、〇〇〇	三三	一、一二九、九六五	二八・二四	二五	八九九、八二八
四、四〇〇、〇〇〇	三六	一、二七三、九六五	二八・九五	二五	九九九、八二八
四、六〇〇、〇〇〇	三六	一、三四五、九六五	二九・二六	二五	一、〇四九、八二八
五、〇〇〇、〇〇〇	三六	一、四八九、九六五	二九・七九	二五	一、一四九、八二八
				二二・九九	

第三種所得稅額速算表(山林所得ノ分)

算出方法 稅額ヲ算出セムトスル所得金額ニ本表ノ「乘率」ヲ乘シタル金額ヨリ當該欄ノ「控除額」ヲ控除シタルモノカ稅額ナリ

所得金額	乘率	控除額
自 同 1..... 至 同 6,000	0.8%	同 0
6,001.....7,500	2	72
7,50110,000	3	147
10,001.....15,000	4	247
15,001.....25,000	5	397
25,001.....35,000	6.5	772
35,001.....50,000	8	1,297
50,001.....75,000	9.5	2,047
75,001.....100,000	11	3,172
100,001.....150,000	13	5,172
150,001.....250,000	15	8,172
250,001.....350,000	17	13,172
350,001.....500,000	19	20,172

○所得稅法施行細則 (大正十年五月十一日大藏省令第十四號)

改正	大正十年九月五日	大藏省令第三十三號
同	大正十一年十月二十八日	同
同	大正十一年三月三十一日	第三十八號
同	大正十二年四月十三日	第二十六號
同	大正十二年三月三十一日	第三十九號
同	大正十二年三月三十一日	第六號
同	大正十二年四月三日	第八號
同	大正十三年三月三十一日	第十二號
同	大正十三年三月三十一日	第七號
同	大正十三年五月二十四日	第十四號
同	大正十三年五月二十九日	第十五號
同	大正十四年五月十一日	第十五號
同	大正十四年五月十一日	第十六號
同	大正十四年五月十一日	第十七號
同	大正十四年五月十一日	第十七號
同	昭和二年十一月二十四日	第三十五號

第一條 所得稅法施行規則第六十五條ノ規定ニ依ル拂込書ハ第一號書式ニ、計算書ハ第三號樣式ニ、
明細書ハ第四號書式ニ依リ調製スヘシ

第二條 日本銀行ニ於テ第二種ノ所得ニ付所得稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書及明細書ヲ添付シ之ヲ歳入徵收官ニ送付スヘシ(大正十一年省令第二十六號モ凡)

第三條 第二種ノ所得ニ付所得稅ノ過誤納アリタル爲之方下戻ヲ請求セムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子又ハ配當金等ノ支拂地ノ所轄稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ請求書ヲ提出スヘシ

第四條 所得稅法施行規則第二十條乃至第二十二條ノ三ノ規定ニ依ル支拂調書及計算書ハ第五號書式ニ依リ調製スヘシ(大正十二年省令第八號改正)

第五條 左記區域ニ付テハ所得稅法施行規則第二十七條第一項ノ三十日ヲ六十日以内ニ於テ稅務署長ノ適當ト認ムル日トシ第二項ノ二十日ヲ村長又ハ戶長ノ適當ト認ムル日トス(大正十五年省令第三十六號改正)

管轄稅務監督局名	管轄稅務署名	區	城
東京	幸橋	小笠原島	
		伊豆七島	
札	札幌	奥尻郡 奥尻村	
		苫前郡 奥尻村、天賣村	
		利尻郡 鬼島村、仙法志村、雪泊村、香形村	
		禮文郡 船泊村、香深村	
		花咲郡 商舞村	
		國後郡 泊村、留夜別村	
		色丹郡 新古丹村	
		紗那郡 紗那村	
		檜那郡 留別村	
		藥取郡 藥取村	

管轄稅務監督局名	管轄稅務署名	區	城
本	本郡	島尻郡 渡嘉敷村、座間味村、伊平屋村、栗園村、渡名喜村	
	八重山	八重山郡 與那國村	
	大島	大島郡 喜界村、早町村、龜津村、伊仙村、天城村、東天城村、知名村、和泊村、與論村、十島村	
	宮古	宮古郡 多良間村	

前項ノ區域ニ於ケル所得稅法施行規則第二十七條第三項ノ規定ニ依ル異議ノ申立ハ村長又ハ戶長ニ對シ之ヲ爲スヘシ

村長又ハ戶長前項ノ申立ヲ受ケタルトキハ證據ヲ審查シ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選舉人名簿ノ副本ヲ修正シ其ノ事由ヲ具シテ之ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

稅務署長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ選舉人名簿ノ正本ヲ修正スヘシ

第六條 左記區域ニ付テハ所得稅法施行規則第二十七條第一項ノ三十日ヲ四十日トシ第二項ノ二十日ヲ二十五日トス(大正十三年省令第二十六號及大正十五年省令第三十六號改正)

管轄稅務監督局名	管轄稅務署名	區	城
大	阪中	幡多郡 沖ノ島村	
仙	臺石	杜鹿郡 渡瀨村、鮎川村、女川町	
	酒田	飽海郡 飛鳥村	

所得稅 所得稅法施行規則

名古屋	宇治山田	志摩郡	神島村
廣島	岩上	岩船郡	栗島浦村
宇和島	大島郡	平郡村	
北宇和島	戸島村、日振島村		

第七條 所得稅法施行規則第二十七條第一項ノ規定ニ依ル選舉人名簿ハ第六號書式ニ依リ調製スヘシ

第八條 所得調査委員及其ノ補闕員又ハ所得審査委員及其ノ補闕員ノ選舉投票用紙ハ第七號又ハ第八號書式ニ依リ調製スヘシ

第九條 所得稅法第二十八條、同法施行規則第二十四條及第二十五條ノ規定ニ依リ所得調査委員會ヲ置クヘキ區域及調査委員ノ定數ハ別表ニ依ル

第十條 亞米利加合衆國（「アラスカ」布哇及「ヴァージンゾイランド」ヲ含ム）及丁抹國（「フエーロー群島」及「グリーンランド」ヲ含ム）ニ船籍ヲ有スル船舶ノ大正十三年七月十八日以後ニ生スル所得ニ對シテハ大正十三年法律第六號ニ依リ其ノ所得稅ヲ免除ス（大正十五年省令第二十七號追加及附屬二年省令第三十五號改

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 明治三十三年大藏省令第三十六號明治四十二年大藏省令第五十三號同第五十四號及大正九年大藏省令第二十八號ハ之ヲ廢止ス

第一號書式（用紙適宜輪廓縱四寸五分）（大正十一年省令第二十六號改正）

第二種所得稅拂込書

第何號	何年度	大藏省主管
租稅	所得稅	種稅
Y		何稅務署
頭書ノ金額拂込候也		
何縣何市長		
何 某團		
（其ノ他ノ公共團體又ハ會社等之ニ準ス）		
日本銀行何店宛		
大正何年何月何日		

備考

一、本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スヘシ

所得稅 所得稅法施行細則

領 收 證 書

第 何 號	何 年 度	第二種所得稅
何縣何市長		
何 某 納		
(其ノ他ノ公共團體又ハ會社等之ニ準ス)		
Y		圓
大正何年何月何日領收		
日本銀行何店例		

備 考

一、日本銀行ハ本書式ノ左側ニ原符ヲ附屬セシムルコトヲ得

所得稅 所得稅法施行細則

通 知 書

第 何 號	何 年 度	大藏省主管
租 稅	所 得 稅	第 二 種 所 得 稅
何縣何市長		
何 某 納		
(其ノ他ノ公共團體又ハ會社等之ニ準ス)		
Y		圓
大正何年何月何日領收		
日本銀行何店例		
何稅務署長官氏名殿		

所得稅 所得稅法施行細則

第二號書式(用紙適宜輪廓 縱四寸五分 二枚接續) (大正十一年省令第二十六號改正)

第三號書式甲 (用紙縱八寸五分) (大正十二年會計法第十二條及大正十五年會計法第十五條改正)

大正何年何月分
第二種所得稅徵收高計算書

貸付信託以外ノ分

區分	支拂ヘキ金額	支拂済金額		支拂未済金額	税額	摘要
		課税	非課税			
何公債利子						
何社債利子						
配當						
賞與						
銀行預金利子		定期預金				
		特別預金				
		通知預金				
		當座預金				
計						
合計						

大正何年何月何日
何縣、市、町、村又ハ何會社

備考

- 一、支拂フヘキ金額ノ額ニハ其ノ月ニ於テ支拂フヘキコトノ確定シタル金額ト前月分支拂未済金額トノ合計ヲ掲クルモノトス但シ銀行預金利子ニ付テハ現實支拂ヲ爲シタル金額ノミニヨリ調理スルモ妨ナシ
- 二、非課税ノ分ニ付テハ一人別明細書ヲ添付スルモノトス

第三號書式乙 (用紙縱五寸五分)

(大正十二年會計法第十二條及大正十五年會計法第十五條改正)

大正何年何月分
第二種所得稅徵收高計算書

貸付信託ノ分

摘要	額	税額		支拂未済金額	支拂済金額		支拂ヘキ金額
		控除シタル額	内除シタル額		課税	非課税	

- 備考
- 一、支拂フヘキ金額ノ額ニハ其ノ月ニ於テ支拂フヘキコトノ確定シタル金額ト前月分支拂未済金額トノ合計ヲ掲クルモノトス但シ現實支拂ヲ爲シタル金額ノミニヨリ調理スルモ妨ナシ
- 二、控除シタル第二種所得稅額ニハ所得稅法第二十二條第二項ノ規定ニ依リ控除シタル第二種所得稅額ヲ記載スルモノトス
- 三、非課税ノ分ニ付テハ一人別明細書ヲ添付スルモノトス

大正何年何月何日
何々信託會社

所得税 所得税法施行規則

第四號書式 (用紙縦五寸五分)

配當及賞典明細書

住所氏名	区分	何月何日	中何月何日	納要
何々 何某	期分 配當 賞典	何月何日	何月何日	何 會 社

大正何年 何月何日

第五號書式甲 (用紙横判) (大正十五年勅令第十五號附則)

何年分俸給其他支拂(異動)調査

年 月 日

官公衛等、法人代表 氏 名 団
者其ノ他支拂者

金 額	手 當	賞 典 要	支 拂 ヲ 受 ク ル 者	
			住所又 官職名	氏 名
何々 何某	何手當 何	何賞典 何	何住所又 何官職名	何氏名
何々 何某	何手當 何	何賞典 何	何住所又 何官職名	何氏名

備考

- 一、俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料、賞典等ノ支拂調査ハ本様式ニ依ルモノトス
 - 二、俸給、給料(歳費、年金、恩給、退職料)及手當ノ金額欄ニハ左ノ金額ヲ記載スルモノトス
- (イ) 前年一月一日ヨリ引續キ支拂ヲ受クル者ノ分ニ付テハ前年中ノ支拂金額
(ロ) 前年一月一日後新ニ支拂ヲ受クルニ至リタル者ノ分ニ付テハ本年分支拂額算年額但シ本年一月一日以

所得額 所得税法施行規則

所得税 所得税法施行細則

後調査提出迄ノ間ニ於テ支給ヲ受ケサルニ至リタル者ニ付テハ本年分支拂金額
 (ハ) 轉勤等ノ場合ニ於テハ新支拂者ニ於テ轉勤前ノ支拂金額ヲモ記載スルモノトス
 三、賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ調査提出當時在勤セザル者ノ分ヲモ記載スルモノトス
 四、賞與ノ支拂確定日ハ備考ニ記載スルモノトス
 五、年金、恩給及退職料ニシテ代理受領ニ係ルモノニ付テハ其ノ受領者ノ住所氏名ヲ摘要欄ニ記載スルモノトス
 六、税務署長ノ承認ヲ得タルトキハ本様式ト異ナリタル様式ニ依リ調製スルコトヲ得

第五號書式乙 (用紙半紙列) (大正十五年省令第十五號ヲ以テ賞與金支給調査ナリテ乙ニ改ム)

何年何期分利益(利息)配當支拂調書

何會社代表者氏 名 印

年 月 日

一、配當金總額

内無記名式株式ニ對スル分

一、株式數

(出資金額又ハ基金)

一、一株ノ額面金額

一、同拂込済金額

一、配當率

一、一株ノ配當金額

舊株 新株
 舊株 圓新株
 圓新株

四

一、支拂金額ノ確定シタル月日

内譯

株式數(出資金額又ハ基金)	配當金額	摘要	支拂ヲ受クル者	
			住所又ハ居所	氏名
新株	四			

備考

- 一、摘要欄ニハ左記ノ事項ヲ記載スルモノトス
 - (イ) 優先株ニ付テハ其ノ優先權ニ基ク配當率ノ増加額
 - (ロ) 出資金額ノ割合ニ異ル持分計算ニ依リ利益ノ配當ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ持分ノ割合
 - (ハ) 所得税法第十四條第二項ニ依リ利益ノ配當ト看做サルル金額ニ付テハ其ノ支拂ヲ受クル者カ退社ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受クル金額又ハ株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額
 - 二、所得税法施行地ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有セザル者ニ對スル内譯ハ別紙ニ記載シテ添付スルモノトス
 - 三、無記名式株式ニ付テハ本書式ノ内譯ヲ要セザルモノトス
- 所得税 所得税法施行細則

所得税 所得税法施行細則

七〇

四、所轄稅務署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ本様式ト異ナリタル様式ニ依リ調整スルコトヲ得
第五號書式丙 (用紙半紙列) (大正十五年會令第十五號改正)

自何年三月
至何年二月 無記名式株式利益(利息)配當支拂調書

年 月 日

何會社代表者 氏 名 印

業所 年 度	株 式 数	配 當 金 額	支 拂 月 日	支拂ヲ受ケタル者	
				住所又ハ居所	氏 名
	新舊株				

備考

一、利益又ハ利息ノ所屬事業年度別ニ小計ヲ付スルモノトス

第五號書式丁(用紙西洋紙)(大正十五年會令第十五號改正)

受住所 氏名	信託ノ目的	信託ノ期間	委託者住所氏名	収入金額		支出金額		備考
				収入金額	種類	支出金額	種類	

備考

- 一、本書ハ一信託毎ニ記載スルモノトス
- 二、収入金額及支出金額ハ左ノ各號ニ依リ記載スルモノトス
(イ) 収入及支出ノ基本タル信託財産ノ異ナル毎ニ區分記載スルコト

所得税 所得税法施行細則

所得稅 所得稅法施行細則

- (ロ) 金銭以外ノ収入及支出ハ之ヲ金銭ニ換算シテ記載スルコト
- (ハ) 信託財産ノ處分ニ依リ生シタル損益ハ他ノ収入及支出ト區分記載スルコト但シ賣買代金ハ記載スルヲ要セス
- (ニ) 支出ニ付テハ信託報酬、租稅公課、管轄費等其ノ科目ヲ當該備考欄ニ記載スルコト
- 三、信託財産ハ左ノ各號ニ依リ記載スルモノトス
 - (イ) 有價證券ニ在リテハ種類欄ニ「何何會社株式」「何何會社債」ノ如ク所在地欄ニ發行者ノ住所ヲ記載スルコト但シ其ノ種類ニ依リ發行者ノ住所ヲ知得セラルルモノニ在リテハ所在地ノ記載ヲ省略スルモ妨ケナシ
 - (ロ) 金銭債權ニ在リテハ一契約毎ニ記載シ其ノ利率及契約期間ヲ備考欄ニ記載スルコト
 - (ハ) 不動産ニ在リテハ田、畑、地、鹽田、鑛泉地、池沼、山林、牧場、原野、雜種地、建物、立木等ニ區分記載スルコト
 - (ニ) 不動産ニ在リテハ其ノ品目毎ニ記載シ所在地ノ記載ヲ要セス
 - (ホ) 事業年度末(信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ二月末日)ニ現存セサル信託財産ニ付テハ其ノ處分年月日ヲ備考欄ニ記載スルコト
 - (ハ) 事業年度(信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日ニ至ル期間)中ニ收入及支出ナキ信託財産ニ付テハ其ノ信託財産ノミヲ記載シ收入及支出欄ニ斜線ヲ施スコト
 - (ハ) 新ニ信託行為ニ依リ受入レタル信託財産ニ付テハ其ノ受入ノ年月日ヲ備考欄ニ記載スルモノトス

四、摘要欄ニハ左ノ事項ヲ記載スルモノトス

- (イ) 受益者ニ交付シタル信託財産ノ種類、數量及其ノ時期
 - (ロ) 信託財産ヨリ生スル利益ノ受益者數人アル場合ニ於テ其ノ利益ヲ受クル割合ヲ異ニスル者アルトキハ其ノ割合
 - (ハ) 受託者ノ受クヘキ報酬額又ハ其ノ計算方法、支拂義務者及支拂ノ時期
 - (ニ) 信託業法第九條ノ規定ニ依ル補填又ハ補足ノ割合其ノ他之ニ關スル事項
 - (ホ) 受益者ノ異動アリタルモノニ付テハ其ノ原因及異動ノ時期
- 五、所轄稅務署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ本様式ト異リタル様式ニ依リ調製スルコトヲ得
- 第六號書式 (用紙半紙列)

住居	所氏	名	摘要

備考

- 一、名簿調製後之ヲ修正シタルモノ及選舉當日迄ニ所得稅法第三十一條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルモノハ其ノ事由及年月日ヲ摘要欄ニ記載スルモノトス
- 所得稅 所得稅法施行細則

所得稅 所得稅法施行細則

二、名簿ノ表紙ハ左ノ通調製スルモノトス

何年何月何日現在調

所得調査委員及補員選舉人名簿

正本(副本何郡何村分)

何 稅 務 署 長 印

第七號書式

所得調査委員「所得調査委員補員」選舉投票

何市役場
之印

人舉選被	
------	--

備考

一、調査委員ノ投票用紙ハ黒刷、補員ノ投票用紙ハ赤刷トス

第八號書式

所得調査委員「所得調査委員補員」選舉投票

何稅務署
之印

人舉選被	
------	--

備考

(別表)

一、審査委員ノ投票用紙ハ黒刷、補員ノ投票用紙ハ赤刷トス

所得調査委員會設置區域及定數表
沿革
大正十年九月大藏省令第三十三號、同年十月同第三十八號、大正十一年四月同第三十九號、
大正十二年三月同第六號、大正十三年三月同第七號、同年五月同第十四號、同年十一月同
第二十六號、大正十四年五月同第十五號、大正十五年九月同第三十六號及昭和二年九月同第
二十六號改正

東	神田橋	永代橋	京橋	幸橋	四谷橋	水道橋	既橋	兩國橋
稅務署	稅務署	稅務署	稅務署	稅務署	稅務署	稅務署	稅務署	稅務署
調査委員ノ定數	十	十	十	十	十	十	十	十
調査委員ノ定數	三	三	三	三	三	三	三	三
調査委員ノ定數	一	一	一	一	一	一	一	一

所得稅 所得稅法施行細則



澁 川	玉 北	南	西	東	館 林	桐 生	沼 田	中 條	高 崎	前 橋	境 下	下 館	土 浦	龍 崎	麻 生	松 原
					郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市						
十	十	十	十	十	七	六	六	五	七	八	七	六	九	九	八	七
三	三	四	四	二												
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

大

明 石	伊 丹	西 宮	神 戶	峰 山	宮 津	福 山	岡 部	岡 見	伏 見	下 京	上 京	住 道	富 林	岸 田	堺 和	茨 木
郡 市	郡 市	郡 市								郡 市	郡 市		郡 市	郡 市	郡 市	郡 市
六	八	七	十	七	十	六	七	七	九	五	十	四	十	八	七	七
六	八	七	十	七	十	六	七	七	九	五	十	四	十	八	七	七
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

五 四 三

千 葉	柏 壁	忍 谷	熊 谷	秩 父	川 越	浦 和	小 原	大 磯	藤 澤	橫 須	川 崎	八 濱	青 梅	龜 戶	板 橋	淀 橋	品 川
郡 市	郡 市				郡 市	郡 市				郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市
九	六	八	八	八	六	九	五	九	八	七	八	六	七	五	六	八	六
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

京

太 田	水 戶	足 利	大 原	枋 木	眞 岡	鹿 沼	宇 宮	都 留	垂 崎	鉾 澤	甲 府	北 條	木 津	茂 原	東 金	銚 子	佐 原	松 戸
郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市	郡 市
七	七	六	七	六	八	九	七	七	六	七	七	六	六	八	七	七	七	八
七	七	六	七	六	八	九	七	七	六	七	七	六	六	八	七	七	七	八
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

札		
小 樽 郡 小	壽 郡 函 郡 札	安 赤 須 中 高 池 脇 檜 那 德 高
樽 郡 小	郡 函 郡 札	藝 岡 崎 村 知 田 町 葵 賀 島 松
郡 小	郡 函 郡 札	郡 高 郡 德 郡 高
樽 郡 小	郡 函 郡 札	知 島 松
部 市	部 市 部 市	部 市 部 市 部 市
七 九 四 五 六 九 六 九	六 六 七 六 七 七 六 五 六 七 七 七 七 七	
人 人 人 人 人 人 人 人	人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人	
仙		梔
盛 大 志 石 築 古 仙	河 網 網 浦 室 宗 增 名 上 瀧 空	根 河 網 網 浦 室 宗 增 名 上 瀧 空
河 津 網 原 川 卷 館 川 臺	室 西 路 走 河 蘭 谷 毛 寄 川 川 知	室 西 路 走 河 蘭 谷 毛 寄 川 川 知
郡 盛 郡 仙	郡 鋼 郡 室 郡 旭	郡 鋼 郡 室 郡 旭
網 郡 盛	路 郡 蘭 川 郡 旭	路 郡 蘭 川 郡 旭
部 市 部 市	部 市 部 市 部 市	部 市 部 市 部 市
六 七 六 五 七 七 七 七 九	六 七 五 六 七 五 六 六 六 六 六 七 七 七 七	
人 人 人 人 人 人 人 人	人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人	

水 大 新 田 御 湯 粉 和 吉 葛 奈 洲 柏 和 登 上 龍 經 加 社			
口 津 宮 邊 坊 淺 河 山 野 城 良 本 原 山 岡 郡 野 路 川			
郡 大	郡 和	郡 奈	郡 經
津	歌	良	路
部 市	部 市	部 市	部 市
六 七 六 六 六 六 六 七 七 八 六 九 七 七 七 八 六 七 六 七 八 八 七 七			
人 人			
阪			
土 長 丸 出 高 魚 宮 輪 七 小 金 小 敦 武 大 福 今 長 彦 八			
庄 尾 龜 町 岡 津 山 烏 尾 松 澤 濱 賀 生 野 井 津 濱 根 橋			
郡 丸	郡 高	郡 宮	郡 金 郡 福
龜 郡 高	岡 郡 宮	山 郡 金	澤 郡 福
部 市 部 市 部 市	部 市	部 市	部 市
六 六 九 六 九 七 六 八 七 八 六 七 七 七 九 六 六 七 六 七 七 五 七 七 七			
人 人			

名							
四日市	桑津	津濱	見藤	沼下	靜岡	豐田	岡大津
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
日		松	津	水岡	橋	崎	
部市	部市	部市	部市	部市	部市	部市	部市
七	七	八	八	九	八	九	七

八

古																		
伊豫	上田	上田	岩村	長野	高野	惠那	多摩	郡關	大垣	岐阜	木曾	尾上	宇治山田	松坂				
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡				
訪	田	田	野	山	那	見	上	垣	阜	本	鷺	野	田	坂				
部市																		
七	七	九	六	七	六	七	六	七	七	六	八	八	五	六	八	六	七	八

八

大秋相平白坂若田須郡二福二久下遠盛一水花	賀本閉	賀本閉	賀本閉	賀本閉	賀本閉	賀本閉	賀本閉	賀本閉	賀本閉	賀本閉	賀本閉	賀本閉	賀本閉	賀本閉	賀本閉	賀本閉	賀本閉	賀本閉
館田馬	河下松島川山松島戶慈伊野	關	澤	卷														
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
秋		若		郡	福													
田		松		山	島													
部市		部市		部市	部市													
七	七	六	七	六	六	四	六	六	六	八	七	四	五	六	五	五	六	六

八

古		臺																
一小名古	宮牧屋	米長	鶴井	酒岡	新田	桶形	山形	八野	野地	五所川邊	弘前	鯉ヶ	青森	青森	横手	大曲	本莊	能代
郡一	郡名	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
古	屋																	
市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市
七	六	八	七	十	七	六	六	七	六	六	七	六	五	五	六	七	七	六

八

米倉	鳥	英津	久新	高笠	玉倉	味野	西瀨	岡	萩	下
子吉	取	田山	世見	梁岡	鳥敷	野寺	戶山			關
郡米	郡鳥						郡岡			郡下
	子	取					山			關
部市	部市						部市			部市
七六	七六	七八	六五	六七	七八	八八	八六	六六	十八	七九

人人人人人人人人人人人人人人人人

	島														
藤	字	卯	八	大	新	今	松	西	益	濱	川	大	今	大	松
本	和	之	幡				山	郷	田	田	本	森	市	東	江
郡藤	郡字				郡今	郡松									郡松
	和				治	山									江
部市	部市				部市	部市									部市
九九	七六	六七	七七	七八	六六	八七	五五	六六	五五	六六	七七	七七	七七	七七	七七

人人人人人人人人人人人人人人人人

屋

相村	糸	高	柏	十	小	長	三	卷	新	新	中	大	松	西	飯
川上	魚	田	崎	日	千	岡	條	田	發	湯	野	町	本	筑	田
		郡高				郡長				郡新			郡松		
		田				岡				湯			本		
		部市				部市				部市			部市		
七六	六六	八六	七五	七七	七七	八七	八八	八九	八六	九七	五七				

人人人人人人人人人人人人人人人人

廣

厚	三	德	岩	山	庄	三	府	福	尾	忠	西	吉	可	吳	廣
田	尻	山	園	口	原	次	中	山	道	海	條	田	部		島
郡字							郡福	郡尾					郡吳	郡廣	
								山	道						島
部市							部市	部市					部市	部市	
八六	七七	七八	七六	六七	七六	七六	七六	七六	六六	六七	六八	六六	六六	六六	六六

人人人人人人人人人人人人人人人人

熊																			
行	小	大	八	大	久	直	遠	福	天	八	宮	山	高						
橋	倉	牟	女	川	米	方	賀	岡	草	吉	代	地	鹿	瀨					
郡	門	郡			郡		郡	八	郡										
司	倉	牟			留		賀	松	岡										
部	市	部			部		部	市	市	部									
七	五	七	六	八	七	九	七	十	七	六	九	六	十	六	七	七	七	九	八
一																			
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
佐	殿	武	福	平	鳥	佐	長	四	中	日	竹	三	白	日	國	大			
賀	原	水	江	戶	原	保	崎	日	津	田	田	重	杵	出	東	分			
郡						郡	郡							郡	別	郡			
賀						世	崎								府	分			
部						部	部							部	市	部			
九	六	五	五	六	七	七	六	八	七	九	七	七	七	六	七	八	六	七	七
一																			
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

○國債證券及貯蓄債券ノ利子所得稅免除ニ關スル件

軍備補充ノ爲及臨時事件費支辨ノ爲明治三十七年以降政府ノ發行スル國債證券ノ利子及貯蓄債券法ニ依リ發行スル貯蓄債券ノ利子ハ所得稅ヲ免除ス但シ既納ノ税金ハ之ヲ還付セス

○國債ノ利子所得稅免除ニ關スル件

明治三十八年二月十六日法律第十九號

宮	大	種	鹿	岩	加	隈	知	鹿	武	唐
崎	子	子	屋	川	木	之	覽	兒	雄	津
郡								郡		
宮								鹿		
崎								兒		
部								鳥		
市								部		
六	六	三	七	六	七	八	七	七	九	六
本										
八	宮	國	那	高	延	高	都	飯		
重	古	頭	那	千	岡	鍋	城	肥		
山			那				郡			
			那				都			
			那				城			
			市				部			
			以				市			
			外				部			
三	三	四	五	六	五	六	六	七	五	六
一										
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

所得稅 國債證券及貯蓄債券ノ利子所得稅免除ニ關スル件 國債ノ利子所得 八五

○復興貯蓄債券法(抄錄) (大正十三年七月二十二日法律第十五號)

第六條 復興貯蓄債券ニハ印紙稅ヲ、復興貯蓄債券ノ發行ニ依ル社債ノ登記ニハ登錄稅ヲ、復興貯蓄債券ノ利子ニハ所得稅ヲ課セス

○外國船舶ノ所得稅免除ニ關スル件 (大正十三年七月十八日法律第六號)

日本ニ住所ヲ有セサル外國人又ハ外國法人ニハ外國ノ船舶ヲ有スル船舶ノ所得及純益ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス但シ其ノ船舶國カ日本船舶ノ所得及純益ニ付同様ノ免稅ヲ爲ササル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス(昭和三年法律第六號)

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○產業組合法(抄錄) (明治三十三年三月七日法律第三十四號)

第六條 產業組合ニハ所得稅、營業收益稅及營業稅ヲ課セス

第八十一條 產業組合聯合會ニハ(中略)產業組合ニ關スル規定ヲ準用ス(以下略)

第九十二條 第六條(中略)ノ規定ハ產業組合中央會ニ之準用ス(以下略)

○產業組合中央金庫法(抄錄) (大正十二年四月六日法律第四十二號)

第八條 (第一項) 產業組合中央金庫ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

第十七條 產業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ產業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金現在

高割引手形現在高及其所有ニ係ル有價證券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

產業債券ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

所得稅法及登錄稅法中社債ニ關スル規定ハ產業債券ニ付之ヲ準用ス

○住宅組合法(抄錄) (大正十年四月十二日法律第六十六號)

第十六條 (第二項) 產業組合法ハ第(中略)條ノ規定ヲ除クノ外住宅組合ニ付之ヲ準用ス

(參照產業組合法第六條ハ準用セラルルコトナル)

○輸出組合法(抄錄) (大正十四年三月三十日法律第二十七號)

第三十三條 產業組合法第六條(中略)ノ規定ハ輸出組合ニ付之ヲ準用ス(但書略)

○重要輸出品工業組合法(抄錄) (大正十四年三月三十日法律第二十八號)

第三十八條 產業組合法第六條(中略)ノ規定ハ工業組合ニ付之ヲ準用ス(但書略)

○漁業法(抄錄) (明治四十三年四月二十一日法律第五十八號)

第四十五條 漁業組合及漁業組合聯合會ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

○農業倉庫業法(抄錄) (大正六年七月二十一日法律第十五號)

第十四條 農業倉庫業者ニハ所得稅、營業收益稅及營業稅ヲ課セス

○製鐵業獎勵法(抄錄) (大正十五年三月三十一日法律第四十九號)

第一條 一ノ場所ニ於テ一年三萬五千噸以上ノ製鉄能力及一年三萬五千噸以上ノ製鋼能力ヲ有スル

所得稅 住宅組合法 輸出組合法 重要輸出品工業組合法 漁業法

農業倉庫業法

設備ヲ以テ營ム製鐵事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第二條 主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ前條ニ規定スル設備ヲ新設シタル製鐵事業者ニハ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ十五年間其ノ設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除ス

前項ノ製鐵事業者其ノ設備完成前其ノ設備ノ一部ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除ス但シ前項ノ規定ニ依ル期間内ニ設備ヲ完成セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 第一條ノ規定ニ該當セサル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ第一條ノ規定ニ該當スルニ至ルヘキ設備ヲ増設シタルトキハ其ノ増設シタル設備ヲ以テ營ム製鐵事業ニ付前條ノ規定ヲ準用ス

第一條ニ規定スル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者作業上必要ナル場合ニ於テ主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ其ノ場所ニ於テ製鐵又ハ製鋼ノ設備ヲ増設シタルトキ亦前項ニ同シ

第四條 主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ一ノ場所ニ於テ一年五千二百五十噸以上ノ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シタル製鋼品又ハ鑄鋼品製造事業者ニ付テハ第二條ノ規定ヲ準用ス

主務官廳ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間内ニ一ノ場所ニ於テ一年二千五百噸以上ノ製鐵能力又ハ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ新設シタル低燐鐵製造事業者、坩堝製鋼事業者及電氣製鐵事業者ニ付亦前項

ニ同シ

第六條 製鐵ノ事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムヘキ事實アル者ハ前事業者カ本法ニ依ル營業稅、營業收益稅及所得稅免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ繼承ス

第七條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ本法ニ依リ營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル資本金額、從業者、營業用ノ工作物若ハ物件、使用動力又ハ收入ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ス但シ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ特別ノ事情ニ基キ主務官廳ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年四月九日勅令第五十七號ヲ以テ同年四月十日ヨリ施行)

本法施行ノ際現ニ土地收用法ノ適用ヲ受ケ又ハ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ製鐵事業ニシテ第一條ノ規定ニ該當セサルモノニ付テハ本法施行後五年間仍從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際現ニ營業稅及所得稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ製鐵事業ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ從前ノ規定ニ於テ開業ノ年又ハ能力増加ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間トアルハ之ヲ開業ノ年又ハ能力増加ノ年及其ノ翌年ヨリ十五年間トシ營業稅トアルハ營業稅及營業收益稅トス

參照 舊法ノ規定ト(大正六年七月法律)

○軍事救護法 抄錄(大正六年七月二十日法律第一號)

第十七條 本法ニ依リ給與ヲ受ケタル救護金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セス

○健康保險法(抄録) (大正十一年四月二十二日法律第七十號)

第六十九條 保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セス

○海外移住組合法(抄録) (昭和二年三月二十九日法律第二十五號)

第十四條 産業組合法第一條、第二條第一項、第四條第一項、第六條ノ二(中略)第八十一條但書

(中略)第九十二條ノ規定ヲ除クノ外産業組合法中産業組合ニ關スル規定ハ海外移住組合ニ、同法中産業組合聯合會ニ關スル規定ハ海外移住組合聯合會ニ之ヲ準用ス(下略)

(參照、産業組合法第六條及第八十一條本文ハ海外移住組合ニ準用セラルルコトナル)

地

租

◎地租

○地租條例(明治十七年三月十五日第七號布告)

- 改正
- 明治二十二年十一月三十日法律第三十號
 - 明治三十一年十二月三十日法律第三十二號
 - 明治三十四年四月十三日法律第三十號
 - 明治三十五年十二月二十六日勅令第二百七十五號
 - 明治三十六年六月十七日法律第十二號
 - 明治三十六年十二月十日勅令第二百七十八號
 - 明治三十八年三月一日法律第三十三號
 - 明治三十九年四月十一日法律第三十三號
 - 明治四十一年三月三十一日法律第三十六號
 - 明治四十三年三月二十五日法律第二十二號
 - 大正三年三月三十一日法律第十八號
 - 大正三年三月三十一日法律第十九號
 - 大正八年四月十日法律第四十六號
 - 大正十五年三月二十七日法律第六號

地租 地租條例

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第貳百七拾貳號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島ハ當分從前ノ通タルヘシ(明治三十五年勅令第百七十五號、明治三十六年勅令第百七十八號及明治三十九年法律第百三十三號ノ第二條ニ依リ)右奉 勅旨布告候事

(別冊)

地租條例

第一條 地租ハ左ノ稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス(明治二十二年法律第百三十號、明治三十一年法律第百三十二號、明治四十三年法律第百二號及大正三年法律第百十八號改正)

宅地

地價百分ノ二箇半

田畑

地價百分ノ四箇五

其他ノ土地

地價百分ノ五箇半

北海道ニ於ケル宅地以外ノ土地ノ地租ハ當分左ノ稅率ニ依ル

田畑

地價百分ノ三箇二

其他ノ土地

地價百分ノ四箇

本條例ニ於テ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セズ

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、宅地、鹽田、鑛泉地(明治四十三年法律第百二號改正)

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地(明治二十二年法律第百三十號改正)

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノヲ地類變換ト謂フ(明治四十三年法律第百二號改正)

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地

形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 左ニ掲ケル土地ニ付テハ其地租ヲ免ス(明治二十二年法律第百三十號、明治三十八年法律第百三十三號及大正十五年法律第百六號改正)

一 國府縣市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地但有料借地ハ此限ニ在ラス

二 府縣市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體カ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタル其所有地但命令ノ定ムル期間内ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルトキハ此限ニ在ラス

三 府縣社地、郷村社地、招魂社地但有料借地ハ此限ニ在ラス(明治四十三年法律第百二號改正)

四 墳墓地

五 用惡水路、溜池、隄塘、井溝

六 鐵道用地、軌道用地、運河用地(明治四十一年法律第百三十六號及大正三年法律第百十九號改正)

七 保安林

八 公衆ノ用ニ供スル道路

府縣市町村其他ノ公共團體ハ前項ノ土地ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス但所有者以外ノ者前項第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其土地ニ對シ使用者ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルハ此限ニ在ラス

(明治四十一年法律第三十號改正) (三十二年法律第三十號改正) (三十四年法律第三十號改正) (三十六年法律第三十號改正)

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ歩ト爲シ三拾歩ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ合ノ拾分壹ヲ勺ト爲

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス(明治二十二年法律第三十號改正)

第七條 地價ハ左ノ場合ニ該當スルニ非サレハ之ヲ修正セス(明治二十二年法律第三十號改正)

一 地目又ハ地類ヲ變換シタルトキ

二 開墾シタルトキ

三 開拓歛下年期明ニ至リタルトキ

四 荒地免租年期明ニ至リ原地價ニ復シ難ク若クハ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期明ニ至

リ原地價ニ復シ難キトキ

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ設定シ其所得ヲ審查シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ政府ニ届出ヘシ(明治二十二年法律第三十號改正)

地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ直ニ其地價ヲ修正ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 地租ヲ課スル土地ヲ地租ヲ課セサル土地ト爲シ又ハ地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ政府ニ届出ヘシ但之ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタルモノ

ニ付テハ此限ニ在ラス

地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ其地ノ現況ニ依リ直ニ其土地ノ地價ヲ定ム但第十六條第四項ノ場合ハ此限ニ在ラス(明治四十三年法律第二號改正)

第十二條 地租ハ左ノ期限ニ依リ之ヲ徵收ス

一 宅地

第一期 其年七月一日ヨリ 地租額二分ノ一

第二期 同七月三十一日限 地租額二分ノ一

同一月三十一日限

二 田

第一期 其年十二月十六日ヨリ 地租額四分ノ一

第二期 翌年二月一日ヨリ 地租額四分ノ一

第三期 翌年三月三十一日限 地租額四分ノ一

地租 地租條例

第四期 翌年五月一日ヨリ
同五月三十一日限

地租額四分ノ一

三 其他ノ土地

第一期 其年九月一日ヨリ
同九月三十日限

地租額二分ノ一

第二期 其年十一月一日ヨリ
同十一月三十日限

地租額二分ノ一

特殊ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キモノニ付テハ命令ヲ以テ特別ノ納期ヲ設クルコトヲ得(明治二十二年法律第三十號及
明治三十三年法律第三十三號)
(明治三十三年法律第三十三號及
明治三十二年法律第二號)

第十三條 地租ハ左ニ掲クル者ヨリ之ヲ徵收ス

一 質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者

二 百年ヨリ長キ存続期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者

三 其他ノ土地ニ付テハ所有者

前項ニ於テ質權者、地上權者、所有者ト稱スルハ土地臺帳ニ質權者、地上權者、所有者トシテ登録セラレタル者ヲ謂フ(明治三十八年法律第三十三號改正)

第十三條ノ二 前條ノ規定ニ依リ地租ヲ納ムヘキ者(法人ヲ除ク)ノ住所都市町村及其隣接市町村内ニ於ケル田畑地價ノ合計金額其同居家族ノ分ト合算シ二百圓未満ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其田畑ノ地租ヲ徵收セス但小作ニ付シタル田畑ニ付テハ此限ニ在ラス(大正十五年法律第六號追加)

第十四條 地價ヲ修正シタル土地ニ付テハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但其年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後地價ヲ修正シタルトキハ翌年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(明治二十二年法律第三十號及
明治三十三年法律第三十三號)

第十五條 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地トナリタルトキハ其届出アリタル後又ハ其事實ヲ認メタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收セス

地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地トナリタルトキハ地價設定後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收ス但地價設定後ニ開始スル納期ニ於テ前年分地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ其納期分ノ地租ハ之ヲ徵收セス

前二項ノ規定ハ荒地免租年期若クハ低價年期許可ノ場合又ハ荒地免租年期明若クハ新開免租年期明ノ場合ニ之ヲ準用ス(明治二十二年法律第三十號及
明治三十三年法律第三十三號)

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ政府ニ届出ヘシ(明治二十二年法律第三十號及
明治三十三年法律第三十三號)前項ノ開墾地ハ開墾着手ノ年ヨリ二十一年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス但地租轉換ヲ爲シタル後五年以内ニ開墾シタルモノニ在リテハ其成功ノ部分ニ對シ直ニ其地價ヲ修正ス(明治二十二年法律第三十號及
明治三十三年法律第三十三號)

十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ政府ニ願出銀下年期ノ許可ヲ受クヘシ銀下年期ハ四十年トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(明治二十二年法律第三十號及
明治三十三年法律第三十三號)官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ二十年ノ銀下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(明治二十二年法律第三十號及
明治三十三年法律第三十三號)

官有ノ水面ヲ埋立テ又ハ干拓シ民有ニ歸セシ土地ハ六十年ノ新開免租年期ヲ許可ス(明治三十二年法律第三十號) (大正八年法律第十九號及大正八年法律第四十六號改正)

地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ四十年ノ地價据置年期ヲ許可スルコトアルヘシ(明治三十二年法律第三十號) (大正八年法律第十九號及大正八年法律第四十六號改正)

第十七條 前條ニ依リ開墾ノ届出ヲ爲シタル土地又ハ開墾後下期若クハ地價据置年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ開墾成功シ又ハ地目變換シタルトキハ其旨政府ニ届出ヘシ此場合ニ於テハ其年ヨリ開墾又ハ變換シタル地目ニ依リ其地租ヲ徵收ス但其年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後届出アリタルトキハ翌年分地租ヨリ開墾又ハ變換シタル地目ニ依リ其地租ヲ徵收ス(明治三十二年法律第三十號)

前項ノ場合ニ於テ開墾又ハ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ開墾又ハ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ開墾又ハ變換地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(明治三十二年法律第三十號)

第十八條 (明治三十二年法律第三十號改正) 前項ノ場合ニ於テ開墾又ハ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ開墾又ハ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ開墾又ハ變換地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(明治三十二年法律第三十號)

第十九條 賦下期明地價据置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス(明治三十二年法律第三十號改正)

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(同上) 海嘯ノ爲メ潮水浸入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルヘシ(同上)

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價

年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(同上改正)

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ地價ヲ修正ス(明治三十二年法律第三十號改正)

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス(明治三十二年法律第三十號改正)

第二十四條 川成、海成、湖水成、ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖、ニ歸スルモノトス(同上改正)

第二十四條ノ二 收稅官吏ハ土地ノ検査ヲ爲シ又ハ納稅義務者若クハ所有者ニ對シ必要ノ事項ヲ尋問スルコトヲ得(明治三十二年法律第三十號改正)

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱スル者ハ四十圓以上四十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス(明治三十二年法律第三十號改正)

第二十六條 第十一條ニ違犯スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス(明治三十二年法律第三十號改正)

第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲サ、ルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年

以前ニ溯ルコトヲ得ス(明治二十二年法律第三十四號改正)

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人、ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人、小作人、ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

附則 (明治三十八年法律第三十三號)

本法中第十三條第一項第二號ハ明治三十八年分地租ヨリ之ヲ施行ス
明治三十一年法律第四號及明治三十三年法律第十九號ハ之ヲ廢止ス

附則 (明治四十一年法律第三十六號)

本法ハ明治四十一年分地租ヨリ之ヲ適用ス

附則 (明治四十三年法律第二號)

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十三年分地租ノ徵收ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス宅地以外ノ土地ノ稅率ハ明治四十四年分地租ヨリ之ヲ適用ス

非常特別稅法中地租ニ關スル規定ハ宅地ニ付テハ明治四十二年分地租限其ノ他ノ土地ニ付テハ明治四十二年分地租限之ヲ廢止ス

本法施行前地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタル土地ニシテ地價ヲ修正セサルモノハ本法施行ノ際其ノ地價ヲ修正シ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

本法施行前地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ニシテ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ラサルモノニ付テハ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

明治二十四年法律第二號、明治三十年法律第五號及宅地組換法ハ之ヲ廢止ス

附則 (大正三年法律第十八號)

本法ハ大正四年分地租ヨリ之ヲ適用ス

附則 (大正八年法律第四十六號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正八年五月勅令第二百六十二號
ヲ以テ大正八年六月一日ヨリ施行)

本法施行前第十六條第一項ノ届出ヲ爲シ又ハ同條第三項乃至第六項ノ許可ヲ受ケタル土地ニ關シテハ仍ホ従前ノ例ニ依ル

附則 (大正十五年法律第六號)

本法ハ大正十五年分地租ヨリ之ヲ適用ス

○地租條例施行規則(明治四十三年十二月二十一日勅令第四百四十四號)

改正 大正八年五月三十一日勅令第二百六十三號

大正十五年五月三十一日勅令第三百三十九號

第一條 土地ニハ番號ヲ附シ每筆其ノ地價ヲ定ム

第二條 一筆ノ土地ハ其ノ一部分左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ之ヲ分割ス
一 別地目ト爲ルトキ

- 二 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地ト爲ルトキ
- 三 地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地ト爲ルトキ
- 四 所有者ヲ異ニスルトキ
- 五 質權ノ目的ト爲ルトキ
- 六 百年ヨリ長キ存続期間ノ定アル地上權ノ目的ト爲ルトキ
- 七 行政區劃ヲ異ニスルトキ

第三條 開墾著手後二十年以内又ハ開墾歛下年期中ニ於テ地目ヲ變換シタルトキハ開墾ハ之ヲ廢止シタルモノトス(大正八年勅令第二百六十三號改正)

第四條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾著手後二十年以内若ハ歛下年期中地租ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價据置年期中地租ヲ變換シ若ハ變換前ノ地目ト同一ノ地目ニ變換シタルトキハ直ニ其ノ地價ヲ修正ス(大正八年勅令第二百六十三號改正)

第五條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾著手後二十年以内若ハ歛下年期中地目ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價据置年期中變換前ノ地目ト異ナル地目ニ變換シタルトキハ地價ハ之ヲ修正セス(大正八年勅令第二百六十三號改正)

前項ノ場合ニ於テ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ

變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ變換地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其ノ地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第六條 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ若ハ干拓シ民有ニ歸セシ土地ニ付歛下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ請ハサルトキハ直ニ其ノ地價ヲ定ム(大正八年勅令第二百六十三號改正)

第七條 荒地免租年期、免租權年期又ハ低價年期中土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ト看做サス

第八條 地租條例第十六條第二項ノ場合ニ於テ開墾著手ノ年ヨリ二十一年目ニ成功セサル部分ノ土地ニ付テハ其ノ後成功シタル部分アル毎ニ其ノ地價ヲ修正ス(大正八年勅令第二百六十三號改正)

第九條 荒地免租年期、免租權年期又ハ低價年期中再ヒ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ニ受ケタル年期ハ消滅ス

第十條 地目變換、地類變換又ハ開墾ニシテ他ノ法令ニ依リ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可ノ出願ヲ以テ地租條例ニ依ル届出ト看做ス

第十一條 地租條例第十六條第三項、第六項又ハ第二十條ノ規定ニ依リ歛下年期、地價据置年期又ハ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ稅務署長ニ申請スヘシ

官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ若ハ干拓シ民有ニ歸セシ土地ニ付歛下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ民有ニ歸セシ後六十日內ニ稅務署長ニ申請スヘシ(大正八年勅令第二百六十三號改正)

第十二條 地租條例第二十一條、第二十三條若ハ第二十四條ノ規定又ハ明治三十四年法律第三十號

ニ依リ低價年期、荒地免租繼年期又ハ年期延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期満了後六十日內ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十三條 左ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ三十日內ニ稅務署長ニ届出ツヘシ

一 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキ

二 開墾ニ著手シタルトキ、開墾成功シタルトキ、開墾ヲ廢止シタルトキ又ハ開墾ノ目的ヲ變更シタルトキ

三 地租ヲ課スル土地ヲ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、水道用地、鐵道用地、軌道用地、運河用地若ハ公衆ノ用ニ供スル道路ト爲シタルトキ又ハ之カ供用ヲ廢止シタルトキ(大正八年勅令第二百六十三號改正)

四 地租ヲ課スル土地ヲ公用若ハ公共ノ用ニ供シ又ハ之カ供用ヲ廢止シタルトキ

五 地租ヲ課スル土地ヲ地租條例第四條第一項第二號ノ規定ニ依リ公用若ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルトキ又ハ一年內ニ公用若ハ公共ノ用ニ供セサルトキ

(大正八年勅令第二百六十三號第二項附則)

第十四條 一筆ノ土地ヲ分割シ又ハ數筆ノ土地ヲ合併セムトスルトキハ土地ノ所有者ハ稅務署長ニ届出ツヘシ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ年期満了後六十日內ニ稅務署長ニ届出ツヘシ(大正八年勅令第二百六十三號改正)

一 荒地免租年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ他ノ地目ニ變シタルトキ

二 低價年期又ハ免租繼年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ又ハ他ノ地目ニ變シタルトキ

三 鐵下年期、地價据置年期、新開免租年期ヲ有スル土地ニシテ年期明トナリタルトキ

第十五條ノ二 地價ヲ定メ又ハ修正スヘキ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ土地ノ測量圖及實地ノ狀況ニ依リ近傍ノ類地ト其ノ地力ヲ比較シ其ノ地價ヲ見積リタル書面ヲ稅務署長ニ差出スヘシ(大正八年勅令第二百六十三號改正)

第十六條 納稅義務者其ノ土地所在ノ市區町村內ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ地租ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲其ノ市區町村內ニ住所ヲ有スル者ヲ納稅管理人ト定メ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ届出ツヘシ

第十七條 大正十五年法律第四十七號ニ規定スル永小作權者ニシテ地租條例第十三條ノ二ノ規定ノ適用ヲ受ケムトスルモノハ毎年六月中ニ左ノ事項ヲ田畑所在ノ市町村長ニ届出ツヘシ(大正十五年勅令第二百三十九號追加)

一 永小作權ノ目的タル田畑ノ番號、地目、段別及地價

二 田畑所有者ノ住所氏名

三 永小作權設定年月日

前項ノ届出期間經過後新ニ地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ次ノ納期開始前ニ於テ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

市町村長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第一項又ハ前項ノ届出ヲ爲シタル者ニ對シ永小作權ノ設定ヲ證明スヘキ證書其ノ他必要ナル書類ノ呈示又ハ提出ヲ求ムルコトヲ得
第一項又ハ第二項ノ届出ヲ爲シタル永小作權者ハ當該田畑ニ關シ地租條例第十三條ノ二ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ所有者ト看做ス

第十八條 田畑ニ付地租ヲ納ムヘキ者(前條ノ規定ニ依リ所有者ト看做サレタル永小作權者ヲ含ム)ニシテ地租條例第十三條ノ二ノ規定ノ適用ヲ受ケムトスルモノハ毎年六月中(鹿兒島縣大島郡及沖繩縣ニ在リテハ三月中)ニ當該田畑各筆ノ番號及地目ヲ記載シ住所地ノ市町村長ヲ經由シ稅務署長ニ申請スヘシ但シ其ノ住所地及隣接市町村内ニ於ケル其ノ者ノ田畑ノ全部ニ付申請ヲ爲ス場合ニ於テハ各筆ノ記載ヲ省略スルコトヲ得(同上)

前項ノ申請期間經過後新ニ地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ該當スルニ至リタル田畑ニ付テハ次ノ納期開始前ニ於テ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第十九條 市町村長ハ其ノ市町村内ノ田畑ニ付地租ヲ納ムヘキ者ノ住所カ隣接市町村内ニ在ルトキハ各人別田畑ノ地價合計金額ヲ前條第一項ノ申請期間内ニ其ノ住所地ノ市町村長ニ通知スヘシ(同上) 前項ノ通知事項ニ異動ヲ生シタルトキハ田畑地租ノ各納期開始前之ヲ住所地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第二十條 隣接市町村内ノ田畑ニ付第十八條ノ申請アリタル場合ニ於テ申請者ノ住所地市町村及其ノ隣接市町村内ニ於ケル田畑地價ノ合計金額其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未満ナルトキハ住

所地ノ市町村長ハ其ノ旨田畑所在ノ市町村長ニ通知スヘシ(同上) 前項ノ通知事項ニ異動ヲ生シタルトキハ田畑地租ノ各納期開始前之ヲ田畑所在ノ市町村長ニ通知スヘシ

第二十一條 市町村長ハ其ノ市町村内ノ田畑ニ付第十八條ノ申請又ハ前條ノ通知アリタルトキハ地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ依リ地租ヲ徵收セサル田畑ヲ調査シ之ヲ稅務署長ニ報告スヘシ(同上)

附則
本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正八年勅令第二百六十三號)
本令ハ大正八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十五年勅令第三百三十九號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

田畑地租ノ納期カ六月一日ヨリ開始スル地方ニ在リテハ大正十五年六月一日ニ於ケル田畑地租ノ納稅義務者ハ大正十五年ニ限リ第十八條第一項ノ申請ヲ爲シタルモノト看做ス

**○地租條例第四條第一項第一號及第二號ニ依ル
公共團體及期間指定ノ件**(明治三十八年五月十日勅令第五百五十九號)

地租 地租條例ノ規定ニ依ル地租ノ特別納期ニ關スル件

一〇八

第一條 地租條例第四條第一項第一號及第二號ニ依リ左ノ公共團體ヲ指定ス

府縣組合、郡組合 水利組合、水利組合聯合

市町村組合、町村組合、市町村學校組合及町村學校組合

市町村内ノ區 學區

沖繩縣ノ區及區内ノ部 北海道地方費

北海道ノ區及區町村内ノ部 北海道土功組合

第二條 地租條例第四條第一項第二號ニ依ル期間ハ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルト

キヨリ一箇年トス

○地租條例ノ規定ニ依ル地租ノ特別納期ニ關ス

ル件(明治四十四年四月八日勅令第九十二號)

地租條例第十二條第二項ノ規定ニ依ル地租ノ特別納期左ノ如シ

北海道

一 宅地

第一期 其ノ年七月一日ヨリ

第二期 同八月三十一日ヨリ

二 其ノ他ノ土地

同十一月三十日ヨリ

同十二月末日ヨリ

地租額二分ノ一

地租額二分ノ一

第一期 其ノ年十月一日ヨリ

同十一月三十日ヨリ

地租額二分ノ一

鹿兒島縣大島郡

十 島村

其ノ他ノ各村 翌年五月一日ヨリ

地租額全部

沖繩縣

那覇區、首里區、島尻郡、中頭郡、國頭郡

一 宅地、田 其ノ年八月一日ヨリ

地租額全部

二 其ノ他ノ土地 翌年五月三十一日ヨリ

地租額全部

宮古郡、八重山郡

宮古郡平良村字
鹽川、仲筋、水納
八重山郡八重山
村字波照間、與
那國

翌年五月一日ヨリ
同七月三十一日限

地租額全部

其ノ他ノ地方

地租 地租條例ノ規定ニ依ル地租ノ特別納期ニ關スル件

一〇九

地租 地租條例ノ規定ニ依ル地租ノ特別納期ニ關スル件

一一〇

一 宅地	翌年三月三十一日ヨリ	地租額全部
二 田	同三月三十一日ヨリ	地租額全部
三 畑	其ノ年六月一日ヨリ	地租額全部
第一期	同六月三十日限	地租額二分ノ一
第二期	翌年五月三十一日ヨリ	地租額二分ノ一
四 其ノ他ノ土地	同五月三十一日ヨリ	地租額全部
附則	同五月三十一日限	

本令ハ明治四十四年分地租ヨリ之ヲ適用ス但沖繩縣那覇區、首里區、島尻郡、中頭郡及國頭郡ニ於ケル明治四十四年分畑租ハ明治四十五年三月一日ヨリ同三十一日限及五月一日ヨリ同三十一日限ノ兩期ニ其ノ二分ノ一宛ヲ徵收ス

○ 歛下年期新開免租年期地價据置年期ノ延長ニ

關スル法律(明治三十四年四月十三日法律第三十號)

地租條例ニ依リ歛下年期、新開免租年期又ハ地價据置年期ノ許可ヲ得タル土地ニシテ年期明ニ至リ事業成功又ハ地味成熟ニ至ラサルモノニ對シテハ更ニ年期ノ延長ヲ許可スルコトヲ得但シ開墾歛下年期及地價据置年期ノ土地ニ付テハ通シテ五十年開拓歛下年期ノ土地ニ付テハ通シテ三十年新開免

租年期ノ土地ニ付テハ通シテ七十年ヲ超ユルコトヲ得ス

附則

本法ハ本法施行前既ニ年期明トナリタル土地ニシテ未タ地價ノ設定又ハ修正ナキモノニモ之ヲ適用ス

地租條例第十八條ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○ 開墾地開拓地新開地年期繼續ニ關スル法律

(明治三十四年四月十三日法律第三十一號)

開墾著手後九年ヲ經過セサル土地又ハ歛下年期、新開免租年期若ハ地價据置年期ヲ有スル土地ニ對シ荒地免租年期又ハ低價年期ヲ許可シタルトキハ其ノ期間ハ地租條例第十六條第二項ノ十年中ニ又ハ歛下年期、新開免租年期若ハ地價据置年期中ニ算入セス

附則

本法ハ開墾著手後九年以内ニ又ハ歛下年期、新開免租年期若ハ地價据置年期中ニ荒地免租年期又ハ低價年期ノ許可ヲ受ケ其ノ年期明ニ至リ未タ地價ノ設定又ハ修正ヲ爲ササルモノニモ之ヲ適用ス

○ 地租徵收ニ關スル法律 (明治三十七年四月一日法律第十二號)

第一條 地租ヲ課スル土地ニシテ納期開始前ニ地租ヲ課セサル土地トナリタルトキハ其ノ納期ヨリ地租ヲ徵收セス

地租ヲ課セサル土地ニシテ納期開始前ニ地租ヲ課スル土地トナリタルトキハ其ノ納期ヨリ地租ヲ徴収ス但シ地租ヲ課セサル土地ニシテ其ノ年經過後田地トナリタルトキハ其ノ年分地租ノ翌年ニ於ケル納期ニ於テハ地租ヲ徴収セス(明治四十三年三月法律第二號ヲ以テ地租條例中改正ノ結果本條ハ自然消滅)

第二條 地租ハ各納税人ニ付同一市町村内ニ於ケル同一地目ノ地價合計額ニ依リ之ヲ算出スヘシ前項ノ場合ニ於テ地目ヲ異ニスルモ地租ノ納期ヲ同フスル土地ハ之ヲ同一地目ノ土地ト看做スコトヲ得

第三條 市町村ハ地租ノ納期毎ニ其ノ開始前十五日マテニ地價及地租ノ總額並其ノ各納期ニ於ケル納額ヲ所轄收稅官廳ニ報告スヘシ但シ前報告後異動ヲキトキハ此ノ限ニ在ラス

納期開始前十五日ヨリ納期開始マテニ地租額ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ異動額ヲ所轄收稅官廳ニ報告スヘシ

第三條ノ二 市町村ハ納税ノ報告ト同時ニ地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ依リ地租ヲ徴收セサル田畑ノ地價ヲ所轄收稅官廳ニ報告スヘシ(大正十五年三月法律第七號ヲ以テ本條追加)

第四條 市町村以外ノ公共團體又ハ戸長カ地租ヲ徴收スヘキ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第五條 大藏大臣ハ隨時稅務署長又ハ其ノ代理官ヲシテ市町村其ノ他ノ公共團體又ハ戸長役場ニ於ケル國稅諸帳簿ノ整否ヲ監督セシムヘシ

附則

第六條 本法ハ明治二十七年分地租ヨリ之ヲ適用ス

附則 (大正十五年法律第七號)

本法ハ大正十五年分地租ヨリ之ヲ適用ス

○東京府管内八丈島ノ地租ニ關スル法律(明治四十四年二月二十三日法律第一號)
東京府管内八丈島ノ地租ハ黃納一段ニ付金一圓七十二錢五厘ノ割合ニ依リ換算シ現金ヲ以テ翌年五月限リ之ヲ納付スヘシ

附則

本法ハ明治四十三年分地租ヨリ之ヲ適用ス

○地租、地租附加稅及段別割ニ關スル法規ヲ皇

族所有ノ土地ニ適用スルノ件(大正二年七月三十一日皇室令第八號)

地租、地租附加稅及段別割ニ關スル法規ハ皇族賜邸ヲ除クノ外皇族所有ノ土地ニ之ヲ適用ス但シ皇室財產令第二十一條ニ掲ケタル皇族所有ノ土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

○租稅ニ關スル法規ヲ王公族所有ノ土地ニ適用スルノ件

(大正十五年十二月一日皇室令第十八號)

左ニ掲ケル租稅ニ關スル法規ハ王公族所有ノ土地ニ之ヲ適用ス但シ王又ハ公ノ殿邸地ニ付テハ此ノ

地租 東京府管内八丈島ノ地租ニ關スル法律、地租附加稅及段別割ニ關スル法規ヲ皇族所有ノ土地ニ適用スルノ件、租稅ニ關スル法規ヲ王公族所有ノ土地ニ適用スルノ件

地租 舊慣ニ依リ永小作權者カ地租額負擔ヲ約シタル田畑ノ地租免除
ニ關スル法律 災害地租免除法

一一四

限ニ在ラス

- 一 地租
- 二 地租附加税
- 三 段別割
- 四 朝鮮ニ於ケル租税ニシテ前各號ニ該當スルモノ

○舊慣ニ依リ永小作權者カ地租額負擔ヲ約シタ

ル田畑ノ地租免除ニ關スル法律(大正十五年三月三十一日法律第四十七號)

民法施行前ヨリ引續キ存スル永小作權ニ付其ノ設定ノ當時舊來ノ慣行ニ依リテ小作料支拂ノ外當該田畑ノ地租ノ全額ヲ永小作權者ニ於テ負擔スルコトヲ約シタル田畑ニ關シ地租條例第十三條ノ二ノ規定ノ適用ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ永小作權者ヲ所有者ト看做ス
明治三十七年法律第十二號第三條ノ二ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ大正十五年分地租ヨリ之ヲ適用ス

○災害地租免除法(大正三年二月二十日法律第一號)

第一條 北海道又ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ亘ル災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ

地租ハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ年分ニ限り之ヲ免除ス

前項ノ申請ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ其ノ事實ヲ證明シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二條 地目變換若ハ開墾成功ノ届出アリタル土地又ハ耕地整理工事完了シ地價ノ配當ノ申出アリタル土地ニシテ土地臺帳ニ登錄セラレサルモノニ付テハ其ノ成功地目カ田畑ナルトキハ現地租ニ付前條ノ規定ヲ準用ス但シ耕地整理ノ場合ニ於テ免除スヘキ地租ノ金額ハ配賦スヘキ地價ニ依リ算出シタルモノトス

第三條 被害ノ調査中ハ其ノ年分地租ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第四條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ之ヲ控除セ

ス

附則

第五條 本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六條 明治三十四年法律第二十七號及明治三十六年法律第三號ハ之ヲ廢止ス

第七條 本法ハ本法施行前一年內ニ北海道又ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ亘ル災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑又ハ第二條ニ該當スル土地ノ地租ニ之ヲ適用ス但シ明治三十四年法律第二十七號又ハ明治三十六年法律第三號ニ依リ地租ノ免除又ハ年賦延納ヲ出願シ不許可ト爲リタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ規定ニ依リ免租ノ處分ヲ受ケムトスル者ハ大正三年五月三十一日限り被害ノ事實ヲ證明シ

地租 災害地租免除法

一一五

テ之ヲ申請スルコトヲ要ス但シ明治三十四年法律第二十七號又ハ明治三十六年法律第三號ニ依ル地租ノ免除又ハ年賦延納ノ出願ハ本法ニ依ル地租ノ免除ノ申請ト看做ス

第八條 明治三十六年法律第三號ニ依リ許可シタル延納年賦金ニシテ未タ徵收セサルモノハ之ヲ免除ス

○災害地地租免除法施行方ノ件(大正三年三月二十三日大藏省令第五號)

第一條 災害地地租免除法ニ依リ地租免除ヲ受ケムトスル者ハ收穫皆無ニ歸シタル事山、土地ノ番號、地目、段別及地價ヲ記載シタル書面ヲ以テ所轄稅務署長ニ申請スヘシ但シ段別及地價ニ付テハ各筆ノ記載ヲ省略シ地目別合計額ヲ記載スルモ妨ナシ

第二條 前條ノ申請ヲ爲ストキハ收穫皆無ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ作毛ノ存置ヲ爲スコトヲ要ス但シ所轄稅務署長ノ承認ヲ受ケタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條 災害地地租免除法ニ依リ耕地整理ノ場合ニ於ケル免除スヘキ地租額ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一 換地ノ全部ニ被害アリタルトキハ現地租額ニ相當スル金額

二 換地ノ一部ニ被害アリタルトキハ其ノ部分ニ相當スル地價ヲ見積リ其ノ見積地價ト換地ノ全部ニ配賦スヘキ地價トノ割合ニ依リ現在稅額ニ對シ算出シタル金額

第四條 災害地地租免除法ニ依リ免除スヘキ地租ハ免除處分ノ時期如何ニ拘ラス被害ノ年ノ一年分

地租トス

第五條 稅務署長ニ於テ災害地地租免除法ニ依リ地租ノ免除處分ヲ爲サムトスルトキハ豫メ稅務監督局長ニ稟議スヘシ

被害區域外他ノ稅務監督局管内ニ涉ルトキハ稅務監督局長ハ大藏大臣ニ稟議スヘシ

附則

本令ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

災害地地租免除法第七條第二項ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ第二條ノ規定ヲ適用セス

災害地地租免除法第八條ニ依ル延納年賦金ノ免除ニ付テハ特ニ指令ヲ爲サス

○水道條例(抄錄)(明治二十三年二月十三日法律第九號)

第一條 水道トハ市町村ノ住民ノ需要ニ應シ給水ノ目的ヲ以テ布設スル水道ヲ云ヒ水道用地トハ水源、貯水池、濾水場、唧水場及水道線路ニ要スル地ヲ云フ

第五條 水道用地ハ國稅其ノ他ノ公課ヲ免除ス

○砂防法(抄錄)(明治三十年三月三十一日法律第二十九號)

第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ

- 第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス
- 第三條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得
- 第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

○砂防法施行規程(抄録)(明治三十年十月二十六日勅令第三百八十二號)

第一條 內務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

○砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免ニ關

スル件(明治三十二年八月十六日勅令第三百七十四號)

- 第一條 砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテハ其ノ所有者又ハ納稅義務者ノ申請ニ依リ地租ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得
- 第二條 前條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地ニ對シテハ地租以外ノ公課ヲ免除シ其ノ地租ヲ輕減シタル土地ニ對シテハ同一ノ割合ヲ以テ地租以外ノ公課ヲ輕減ス
- 第三條 本令ニ依ル地租其ノ他ノ公課ノ免除又ハ輕減ハ免除又ハ輕減ノ申請ノ日以後ニ開始スヘキ

納期分ヨリ免除ニ付テハ一定ノ行爲ノ禁止又ハ制限ノ解除ニ因リ地價ヲ設定シタル日輕減ニ付テハ一定ノ行爲ノ禁止又ハ制限ノ解除ノ日以前ニ開始シタル納期分迄トス

第四條 本令ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケムトスル者ハ稅務署長ニ申請スヘシ

○北海道舊土人保護法(抄録)(明治三十二年三月一日法律第二十七號)

第一條 北海道舊土人ニシテ農業ニ從事スル者又ハ從事セムト欲スル者ニハ一戸ニ付土地一萬五千坪以內ヲ限り無償下付スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ下付シタル土地ノ所有權ハ左ノ制限ニ從フヘキモノトス

- 一 相続ニ因ルノ外讓渡スルコトヲ得ス
 - 二 質權抵當權地上權又ハ永小作權ヲ設定スルコトヲ得ス
 - 三 北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ地役權ヲ設定スルコトヲ得ス
 - 四 留置權先取特權ノ目的トナルコトナシ
- 前條ニ依リ下付シタル土地ハ下付ノ年ヨリ起算シテ三十箇年ノ後ニ非サレハ地租及地方稅ヲ課セス又登錄稅ヲ徵收セス
- 舊土人ニ於テ從前ヨリ所有シタル土地ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ相続ニ因ルノ外之ヲ讓渡シ又ハ第一項第二及第三ニ掲ケタル物權ヲ設定スルコトヲ得ス

○沖繩縣土地整理法(抄録)(明治三十二年三月十日法律第五十九號)

第二十二條 地租條例及國稅徵收法ハ勅令ヲ以テ漸次沖繩ニ施行ス但シ社寺地、拜所ハ地租ヲ免除ス

○森林法(抄録)(明治四十年四月二十三日法律第四十三號)

第三條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ地租條例ニ規定スルモノノ外燒畑、切替畑其ノ他土地ノ形質ヲ變更スル行爲ヲ謂フ

第十二條 本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタル森林ニ付新ニ造林シタルトキハ其ノ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ造林シタル部分ニ限リ三十年以内地租ヲ免スルコトヲ得

前項ノ規定ハ原野、山岳又ハ荒蕪地ニ新ニ造林シタル場合ニ之ヲ準用ス

府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ前二項ニ依リ地租ヲ免セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

第十四條 主務大臣ハ左ニ掲クル場合ニ於テ森林ヲ保安林ニ編入スルコトヲ得

- 一 土砂ノ墮崩、流出ノ防備ノ爲必要ナルトキ
- 二 飛砂ノ防備ノ爲必要ナルトキ
- 三 水管、風管、潮管ノ防備ノ爲必要ナルトキ
- 四 積雪又ハ墜石ニ因ル危險ノ防止ノ爲必要ナルトキ
- 五 水原涵養ノ爲必要ナルトキ

六 魚附ノ爲必要ナルトキ

七 航行ノ目標ノ爲必要ナルトキ

八 公衆ノ衛生ノ爲必要ナルトキ

九 社寺、名所又ハ舊跡ノ風致ノ爲必要ナルトキ

第二十三條 主務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示シ地方長官ヲシテ其ノ森林所有者ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在ノ市町村役場ニ揭示セシムヘシ

(第二項省略)

第三十二條 主務大臣国土保安上必要アリト認ムルトキハ保安林以外ノ森林ニ付區域又ハ箇所ヲ定メテ開墾ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第三十六條 主務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ原野、山岳其ノ他ノ土地ニシテ第十四條第一號乃至第五號ノ場合ニ該當スルモノニ付本章ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

○造林地地租免除申請方(明治四十一年一月十六日大藏省令第一號)

明治四十年法律第四十三號森林法第十二條ニ依リ造林地ノ地租免除ヲ得ムトスル者ハ所轄稅務署長ニ申請スヘシ

○北海道國有未開地處分法(抄録)(明治四十一年四月十五日法律第五十七號)

第一條 北海道國有未開地ノ處分ハ本法ニ依リ北海道廳長官之ヲ行フ

地租 造林地地租免除申請方 北海道國有未開地處分法

第二條 土地ノ賣拂ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内ニ其ノ土地ニ關スル事業ヲ成功スヘキ者又ハ素地ノ儘使用セムトスル者ニ對シ之ヲ行フ

第三條 自ラ耕作ヲ爲サムトスル者ノ爲土地ノ區域ヲ限リ特定地ヲ設置ス特定地ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ貸付シ成功ノ後之ヲ付與ス

第四條 公用又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供セムトスル土地ハ之ヲ付與シ又ハ有償若ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第六條 賣拂ヒ又ハ貸付スヘキ地積ノ制限並賣拂及貸付ノ方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 民有地トノ交換ハ價額稍相均シキモノニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 賣拂ヲ爲ス土地ニ關スル事業ノ成功期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十條 前二條ノ期間ハ植樹又ハ泥炭地ノ使用ニ限リ特ニ二十年迄之ヲ延長スルコトヲ得

第十一條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ豫定ノ期間内ニ事業ヲ成功スルコト能ハサル者ニ對シテハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ延長期間ハ通シテ豫定期間ノ半ヲ超ユルコトヲ得ス

第十九條 民有ト爲リタル土地ニ對スル地租ハ事業成功期間滿了ノ翌年ヨリ起算シ十年ノ後ニ非サレハ之ヲ賦課セス但シ素地ノ儘使用スル土地又ハ交換若ハ第四條ニ依リ付與シタル土地ニ對シテハ民有ト爲リタル翌年ヨリ起算ス

○地種變更免租年期ニ關スル法律(大正七年五月二十五日法律第四十三號)

第一條 左ニ掲クル土地ニ付開墾ヲ爲シ又ハ開墾ニ等シキ勞費ヲ加ヘテ地目變換ヲ爲シタルトキハ地租ヲ課スルニ至リタル年ヨリ二十年以内ノ地種變更免租年期ヲ許可ス但シ事業成功ノ定アル土地ニ付テハ事業成功後開墾ヲ爲シ又ハ開墾ニ等シキ勞費ヲ加ヘテ地目變換ヲ爲シタル場合ニ限ル

一 明治八年開拓使布達第三號山林荒蕪地拂下規則第二條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地

二 明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則第十條但書ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地

三 明治二十二年法律第十八號ニ依リ地租ヲ課セサル土地

四 明治二十三年法律第七十九號屯田兵土地給與規則第三條及第八條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除シタル土地

五 明治三十年法律第二十六號北海道國有未開地處分法第十八條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地

六 明治三十二年法律第二十七號北海道舊土人保護法第二條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地

七 明治四十一年法律第五十七號北海道國有未開地處分法第十九條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地

地種變更免租年期明ニ至リ地味成熟ニ至ラサルモノニ付テハ更ニ年期ノ延長ヲ許可スルコトヲ得但シ通シテ三十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

地租 地種變更免租年期ニ關スル法律

第二條 地種變更免租年期又ハ其ノ延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ政府ニ申請スヘシ
附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前既ニ地租ヲ課スヘキ土地トナリ未タ地價ノ設定ナキモノニモ之ヲ適用ス

○地種變更免租年期ニ關スル法律施行規則

(大正七年五月二十五日大藏省令第二十三號)

第一條 地種變更免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ開墾成功シ又ハ地目變換ヲ爲シタル後六十日
内ニ開墾又ハ地目變換ニ要シタル勞費ニ關スル明細書ヲ添へ地種變更免租年期ノ許可ヲ所轄稅務
署長ニ申請スヘシ

第二條 前條ニ依リ地種變更免租年期ノ許可ヲ申請セムトスル者ハ工事著手前三十日迄ニ工事著手
ノ年月日、土地ノ所在、地番、現在地目、目的地目、段別及豫定ノ成功期日ヲ所轄稅務署長ニ届
出ツヘシ

第三條 地種變更免租年期延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期満了後六十日内ニ所轄稅務署長ニ其
ノ旨申請スヘシ

○私立學校用地免租ニ關スル法律(大正八年四月五日法律第三十八號)

第一條 左ニ掲クルモノノ用ニ供スル土地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ

有料借地ハ此ノ限ニ在ラス

一 私立ノ幼稚園、小學校、中學校、高等女學校、實業學校、專門學校、高等學校及大學

二 前條ニ掲ケサル私立學校ニシテ大藏大臣ニ於テ指定シタルモノ

第二條 前條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スヘキ土地ハ校舍及寄宿舎、圖書館其ノ他保育又ハ教育上必
要ナル附屬建物ノ敷地並運動場、實習用地其ノ他直接ニ保育又ハ教育ノ用ニ供スルモノニ限ル但
シ收益ヲ生スル土地ニ付テハ大藏大臣ハ免租スヘキ區域ヲ制限スルコトヲ得

第三條 北海道府縣市區町村其ノ他ノ公共團體ハ本法ニ依リ免租セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他
ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

附則

本法ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○私立學校用地免租ニ關スル法律施行方

(大正八年十二月二十二日大藏省令第三十三號)

私立學校用地ニ對シ地租ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄稅務署長ニ申請スヘシ

- 一、所在郡、市區町村並土地ノ字、番號、地目、反別又ハ坪數、地價及其ノ用途
- 二、學校管理者ト納稅義務者ト異ナルトキハ無料借地タルコトヲ證スル書面
- 三、學校ノ設立又ハ變更ノ年月日

地租 私立學校用地免租ニ關スル法律施行方

地租 航空法第三十八條ノ規定ニ依リ公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ對スル地租免除ノ施行方

前項ノ申請ヲ受ケタル場合ニ於テ收益ヲ生スル土地アルトキハ稅務署長ハ大藏大臣ニ稟議スヘシ
地租ノ免除ヲ受ケタル土地ニシテ之カ供用ヲ廢止シ又ハ無料借地ヲ有料借地ト爲シタルトキハ土地所有者又ハ納稅義務者ハ直ニ所轄稅務署長ニ届出ツヘシ

附則

本令ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○航空法(抄録)(大正十年四月九日法律第五十四號)

第三十八條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニヨリ其ノ地租ヲ免除ス但シ一時ノ使用ニ供スルモノ又ハ有料借地ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

○航空法第三十八條ノ規定ニ依リ公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ對スル地租免除ノ施行方(昭和二年六月七日大藏省令第十七號)

第一條 航空法第三十八條ノ規定ニ依リ公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ付地租ノ免除ヲ請ハントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄稅務署長ニ申請スベシ

- 一 所在市町村並土地ノ番號、地目、各筆ノ面積及地價
- 二 飛行場經營者ト納稅義務者ト異ナルトキハ無料借地タルコトヲ證スル書面
- 三 飛行場設置ノ目的及設置ノ期間

四 飛行場ノ設置又ハ目的若ハ區域ノ變更年月日

第二條 地租ノ免除ヲ受ケタル飛行場ノ用地ニシテ飛行場タルコト若ハ其ノ公共ノ用ニ供スルコトヲ廢止シ又ハ無料借地ヲ有料借地ト爲シタルトキハ土地所有者又ハ納稅義務者ハ直ニ所轄稅務署長ニ届出ツヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○御料地拂下地ノ地租及登録稅免除ニ關スル法律

(昭和二年三月三十日法律第十八號)

第一條 北海道ニ於ケル御料地ニ屬スル未開地ヲ開拓シテ拂下ヲ受ケ又ハ之ヲ開拓シ若ハ素地ノ儘使用スルノ目的ヲ以テ拂下ヲ受ケ民有ト爲リタル土地ニ對スル地租ハ民有ト爲リタル年ノ翌年ヨリ起算シ十年ヲ經過シタル後ニ非ザレバ之ヲ賦課セス

第二條 前條ノ拂下地ニ付テノ拂下ニ因ル所有權取得ノ登記ニハ登録稅ヲ免除ス但シ所有權取得後六月内ニ登記ノ囑託ヲ請求セザルトキハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條ノ規定ハ本法施行前拂下ヲ受ケ民有ト爲リタル土地ニシテ本法施行ノ際未タ地價ノ設定ヲ爲

地租 御料地拂下地ノ地租及登録稅免除ニ關スル法律

サザルモノニモ亦之ヲ適用スルモ、其ノ適用スルニ付テハ本法施行ノ際未ダ拂下ニ因ル所有權取得ノ登記ヲ受ケザルモノニモ亦之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ六月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

○耕地整理法(抄録)(明治四十二年四月十三日法律第三十號)

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ耕地整理ト稱スルハ土地ノ農業上ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ本法ニ依リ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ行フヲ謂フ

- 一 土地ノ交換、分合、開墾、地目變換其ノ他區劃形質ノ變更、湖海ノ埋立、干拓若ハ道路、堤塘、畦畔、溝渠、溜池等ノ變更設置又ハ之ニ伴フ灌漑排水ニ關スル設備若ハ工事
- 二 前號ノ事項施行ノ爲若ハ施行ノ結果必要ナル工作物ノ設置其ノ他ノ設備又ハ其ノ維持管理
- 三 開墾又ハ湖海ノ埋立若ハ干拓ニ依ル耕地整理ニ附隨シテ行フ整理施行地ノ利用ニ關スル必要ナル工作物ノ設置其ノ他ノ施設

四 前三號ノ事項ニ關シ必要アルトキ國、府縣、郡、市町村其ノ他公共團體ノ認許ヲ得テ行フ營繕造物ノ修繕

第九條 耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可ヲ申請セムトスル者又ハ整理施行者ハ整理施行地ヲ管轄スル登記所、漁業ニ關スル登記所、土地臺帳所管轄、市役所又ハ町村役場ニ就キ無償

ニテ耕地整理ニ關シ必要ナル簿書ノ閲覧又ハ謄寫ヲ求ムルコトヲ得但シ登記所、漁業ニ關スル登記所又ハ土地臺帳所管轄ハ必要アリト認ムルトキハ耕地整理組合若ハ耕地整理組合聯合會ノ組合長組合副長若ハ聯合會會長聯合會副會長又ハ臨時代理者以外ノ者ニ付其ノ資格ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

第十條 耕地整理施行ノ爲土地又ハ建物ニ付登記又ハ登録ヲ爲ストキハ登録税ヲ免除スルモ、前項ノ規定ハ耕地整理ノ施行ニ伴ヒ大字若ハ字ノ名稱又ハ其ノ區域ニ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 耕地整理ヲ施行スル爲國有ニ屬スル道路、堤塘、溝渠、溜池等ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタルニ依リ不用ニ歸シタル土地ハ無償ニテ之ヲ整理施行地ノ所有者ニ交付ス

第十二條 本法ニ依ル開墾、地目變換其ノ他土地ノ區劃形質ノ變更又ハ道路、堤塘、溝渠、溜池等ノ變更設置ニ關シテハ地租條例第十條、第十一條及第十六條乃至第十九條ノ規定ヲ適用セズ埋立地又ハ干拓地ニ付亦同シ

第十三條 耕地整理ヲ施行シタル土地ノ地價ハ整理施行地區内土地ノ現地價ノ合計額ヲ每筆相當ニ配賦シテ之ヲ定ム但シ第十一條第二項ニ依リ國有地ニ編入シタル土地ノ面積カ同條第一項ニ依リ交付シタル土地ノ面積ヨリ多キ場合ニ於テハ整理施行地ノ現地價ノ平均額ヲ其ノ面積ノ差額ニ乘

シタル金額ヲ現地價ノ合計額ヨリ控除シタル額ヲ以テ現地價ノ合計額ト看做ス
 前項ノ場合ニ於テ地租ノ稅率同一ナラサル土地アルトキハ現地價ニ依リ算出シタル地租ノ合計額
 毎筆相當ニ配賦シ當該地目ノ稅率ヲ以テ除シタル金額ヲ其ノ配賦地價トス但シ第十一條第二項
 ニ依リ國有地ニ編入シタル土地ノ面積カ同第一項ニ依リ交付シタル土地ノ面積ヨリ多キ場合ニ
 於テハ現地價ニ依リ算出シタル地租ノ平均額ヲ其面積ノ差額ニ乘シタル金額ヲ地租ノ合計額ヨリ
 控除シタル額ヲ以テ地租ノ合計額ト看做ス
 前二項ノ規定ハ國有ノ森林、原野若ハ荒蕪地ヲ第一類地ニ開拓シタル土地、埋立地又ハ干拓地ニ
 付テハ之ヲ適用セス
 整理施行地ノ地租ハ其ノ整理施行地區ノ全部ニ付土地臺帳ノ整理ヲ完了スル迄從前ノ地域、地目
 及地價ニ依リ之ヲ徵收ス
 規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ其ノ各區ヲ以テ第一項、第二項及第四項
 ノ整理施行地區ト看做ス

第十四條 耕地整理ヲ施行スルニ當リ其ノ地區内ノ民有土地總面積ノ五分ノ一以上ニ當ル土地ニ付
 開墾又ハ地目變換ヲ爲シタル場合ニ於テハ工事完了ノトキ開墾又ハ變換シタル土地ニ對シ從前ノ
 地域ニ依リ其ノ地價ヲ修正シ修正地價總額ト之ニ對スル原地價總額トノ差額ノ平均額ヲ五分ノ一
 ヲ超過スル面積ニ乘シタル額ヲ原地價總額ニ加ヘタルモノヲ以テ前條第一項ノ現地價トス
 前項ノ場合ニ於テハ開墾シタル土地ニ付テハ工事著手ノ年ヨリ四十年、變換シタル土地ニ付テハ

工事完了ノ年ヨリ六年ノ耕地整理地價据置年期ヲ許可シ年期明ノ年ヨリ修正地價ニ依リ其ノ地租
 ヲ徵收ス但シ開墾シタル土地ニシテ年期明ニ至リ工事完了又ハ地味成熟セサルトキハ更ニ工事完
 了迄又ハ十年以内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スル地目變換ハ之ヲ開墾ト看做ス
 地租ヲ課セサル土地ヲ整理施行地區ニ編入シ地租ヲ課スヘキ土地ト爲シタルトキハ第十一條第一
 項ニ依リ交付シタル土地ヲ除クノ外工事完了ノトキ從前ノ地域ニ依リ其ノ地價ヲ設定シ前條第一
 項ノ現地價トス

第二項ノ規定ハ地目變換ヲ爲シタル場合ニ於テ修正地價ニ依リ算出シタル地租額カ原地價ニ依リ
 算出シタル地租額ヨリ少キ土地ニ付テハ之ヲ適用セス

第十四條ノ二 耕地整理ノ施行ニ依リ其ノ地區内ノ國有ノ森林、原野若ハ荒蕪地ヲ開拓シテ第一類
 地ト爲シタルトキ又ハ國有ノ水面ヲ埋立テ若ハ干拓シテ民有地ト爲シタルトキハ埋立地又ハ干拓
 地ニ付テハ六十年、其ノ他ノ土地ニ付テハ二十年ノ耕地整理新開免租年期ヲ許可ス但シ年期明ニ
 至リ地味成熟セサルトキハ更ニ十年以内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ年期明ニ至リ其ノ地價ヲ設定シ其ノ年ヨリ地租ヲ徵收ス
第十五條 整理施行地區内ノ土地中開墾著手後二十年ヲ經過セサルモノ又ハ地租ノ免除若ハ輕減ニ
 關スル各種ノ年期ヲ有スルモノアルトキハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル
 一 開墾ヲ爲シタル土地又ハ畝下年期、新開免租年期、地價据置年期ヲ有スル土地ハ工事著手ノ

一 際地價ヲ修正シ又ハ設定ス但シ工事完了ノトキニ於テ地價ノ修正又ハ設定當時ノ現況ヨリ第一類地ノ地目ニ變更シタル場合ニ於テハ開墾又ハ地目變換ヲ爲シタルモノト看做シ第十四條第一項ノ規定ヲ準用ス

二 荒地免租年期又ハ低價年期ヲ有スル土地ハ工事完了ノトキ從前ノ地域ニ依リ其ノ地價ヲ修正ス

三 第一號ニ依リ地價ヲ修正シ又ハ設定シタル土地ニ付テハ開墾著手後二十一年目又ハ年期明ニ至リ修正地價又ハ設定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ工事完了シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

四 工事完了シタルトキハ第一號若ハ第二號ニ記載シタル土地ニ付テハ修正地價又ハ設定地價ヲ以テ第十三條第一項ノ現地價トス

第十六條 工事完了シタルトキニ於テ開墾著手後二十年ヲ經過セサル土地若ハ前條ニ記載スル年期ヲ有スルモノニシテ年期ノ終了セサル土地又ハ第十四條ニ依リ年期ヲ許可シタル土地アルトキハ事業關係者ハ其ノ協議ヲ以テ修正地租ト從前ノ地租トノ差額ノ利益若ハ負擔又ハ地租ノ免除ヲ受クヘキ土地及金額ヲ定メ政府ニ申告シ其ノ期間又ハ第十四條ニ依ル年期中ハ其ノ金額ヲ加除シテ其ノ土地ノ地租ヲ納ムヘシ但シ協議一垂セサルトキハ政府ニ於テ之ヲ定ム

第十七條 換地ハ別ニ規定アル場合ヲ除ク外第三十條第四項ノ告示ノ日ヨリ之ヲ從前ノ土地ト看做ス
前項ノ規定ハ行政上又ハ裁判上ノ處分ニシテ從前ノ土地ニ專屬スルモノニ影響ヲ及ボサス

第三十條 換地ハ從前ノ土地ノ地目、面積、等位等ヲ標準トシテ之ヲ交付スヘシ但シ地目、面積、等位等ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハサル部分ニ關シテハ金錢ヲ以テ之ヲ清算スヘシ

特別ノ事情ノ爲前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルモノノ處分ニ關シテハ規約ノ定ムル所ニ依リ

前二項ノ規定ニ依ル處分ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ之ヲ告示シ直ニ其ノ旨ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ

第三十一條 前條ノ規定ニ依ル處分ハ整理施行地ノ全部ニ付工事完了シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條ノ二 耕地整理施行ノ爲土地ヲ分筆スルノ必要アル場合ニ於テハ組合ハ其ノ所有者ニ代リ之ニ關スル手續ヲ爲スコトヲ得

○耕地整理法施行規則(抄録)(明治四十二年十月十三日農商務省令第三十九號)

第五條 整理施行地ノ地價ヲ計算スル場合ニ於テ耕地整理法第十一條第一項ノ土地ニ非スシテ地租ヲ課セサル土地、耕地整理法第十五條第一號、第二號ノ土地及一筆ノ一部ヲ編入シタル土地アルトキハ耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者又ハ整理地施行者ハ其ノ現況ニ依リ整理施行地區内ノ土地ノ地價ヲ審酌シテ相當ノ假地價ヲ附スヘシ埋立又ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル水面ニ付亦同シ

第八條 設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於

テハ第五號、第六號、第九號及第十號ノ事項ハ各區毎ニ之ヲ記載スヘシ

一 整理施行地ノ現況及工事施行ノ目的

二 工事其ノ他ノ事業ノ計劃説明

三 (削除)

四 主要工事ノ仕様

五 工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及面積ノ地目別合計ノ豫定

六 工事施行ニ依リテ得ヘキ利益

七 整理施行地及之ニ隣接スル土地、水面ノ現形圖

八 整理豫定圖

九 工事ノ著手及完了ノ豫定期

十 維持管理ニ要スルモノヲ除クノ外工事費其ノ他一切ノ費用及夫役現品ノ豫算

第十條 耕地整理施行又ハ耕地整租組合設立ノ認可アリタルトキハ整理施行者ハ工事ニ著手スル前

第八條第七號ノ圖面ヲ添附シテ左ノ事項ヲ所轄稅務署長ニ申告スヘシ其ノ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

一 整理施行地ノ屬スル郡、市町村並土地ノ字、番號及水面ノ位置、面積

二 耕地整理施行若ハ耕地整理組合又ハ整理施行地區變更ノ認可ノ年月日

三 工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及面積ノ地目別合計ノ豫定

四 耕地整理法第十五條第一號、第二號ノ土地アルトキハ本則第五條ニ依リ定メタル假地價

五 工事ノ著手及完了ノ豫定期

第十條ノ二 整理施行地區内ニ一筆ノ一部ヲ編入シタル土地アルトキハ前條ノ申告ト共ニ分筆ノ手續ヲ爲スヘシ

續ヲ爲スヘシ

第十一條 工事ニ著手シ又ハ工事完了シタルトキハ整理施行者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方長官及所轄

稅務署長ニ届出ツヘシ

第十二條 規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ各區毎ニ前二條ノ手續ヲ爲スヘシ

シ

第十二條ノ二 耕地整理法第十四條及第十五條第一號但書、第二號ノ規定ニ依リ地價ノ修正又ハ設定ヲ要スル土地ニ付テハ整理施行者ハ従前ノ土地ノ字、番號、地目、面積及修正又ハ設定地價ノ見積額ヲ記シタル書面並従前ノ土地及工事施行後ニ於ケル土地各筆ノ區域ヲ表示シタル圖面ヲ作リ第十一條ノ規定ニ依ル工事完了ノ届出ト共ニ所轄稅務署長ニ之ヲ差出スヘシ但シ地價ノ見積ニ付テハ評議員ヲ置ク耕地整理組合ニ在リテハ評議員會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第十三條 整理施行者ハ工事完了ノ届出ヲ爲シタル後遲滯ナク換地説明書、整理確定圖及地價配當案ヲ作ルヘシ

前項ノ地價配當案ハ耕地整理組合ニ在リテハ耕地整理法條三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ノ議決ヲ爲ス總會又ハ總會議ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第十五條 耕地整理法第十五條第一號ノ規定ニ依リ地價ヲ修正又ハ設定シタル場合ニ於テ工事完了前事業ノ廢止又ハ耕地整理組合ノ解散ノ爲メ工事ノ利益ヲ受ケタルコト能ハサル土地ニ付テハ廢止又ハ解散ノ時ヨリ地價ノ修正又ハ設定ナカリシモノト看做ス整理施行地區ノ變更ニ依リ地區外ニ除斥セラレタル土地ニ付亦同シ

第十五條ノ二 耕地整理地價据置年期又ハ耕地整理新開免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ工事完了ノ届出ヲ爲シタル後三十日以内ニ所轄稅務署長ニ之ヲ申請スヘシ此ノ場合ニ於テ整理施行者ハ代リテ其ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項年期延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期滿了後六十日以内ニ所轄稅務署長ニ之ヲ申請スヘシ耕地整理法第十四條ノ二ノ規定ニ依リ民有地ト爲シタル土地ニシテ第一項ノ期間内ニ耕地整理新開免租年期ノ申請ナキトキハ直ニ其ノ地價ヲ定ム

第十六條 耕地整理法第三十條第三項ノ認可アリタルトキハ整理施行者ハ地價配當案ニ耕地整理法第三十條第三項ノ規定ニ依ル認可書ノ謄本、換地説明書及整理確定圖ヲ添附シテ所轄稅務署長ニ差出シ地價ノ配賦ヲ受ケタヘシ

第十七條 耕地整理法第十六條ノ規定ニ依ル申告ハ地價ノ配賦ヲ受ケタル後遲滞ナク所轄稅務署長ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ共同施行者又ハ耕地整理組合ニ在リテハ協議一致ヲ證スル書面、協議一致セサルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

○都市計畫法(抄録)(大正八年四月五日法律第三十六號)

第一條 本法ニ於テ都市計畫ト稱スルハ交通、衛生、保安、經濟等ニ關シ永久ニ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ福利ヲ増進スル爲メ重要施設ノ計畫ニシテ市ノ區域内ニ於テ又ハ其ノ區域外ニ且リ執行スヘキモノヲ謂フ

第二條 前條ニ規定スル市ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス其ノ市ノ都市計畫區域ハ關係市町村及都市計畫委員會ノ意見ヲ聞き主務大臣之ヲ決定シ内閣ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 都市計畫區域内ニ於ケル土地ニ付テハ其ノ宅地トシテノ利用ヲ増進スル爲メ土地區劃整理ヲ施行スルコトヲ得

前項ノ土地區劃整理ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外耕地整理法ヲ準用ス

第十三條 都市計畫トシテ内閣ノ認可ヲ受ケタル土地區劃整理ハ認可後一年内ニ其ノ施行ニ著手スル者ナキ場合ニ於テハ公共團體ヲシテ都市計畫事業トシテ之ヲ施行セシム

前項ノ規定ニ依リ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付耕地整理法ヲ準用シ難キ事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十四條 地方長官土地區劃整理ノ設計ニ關スル認可ヲ爲ス場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ地價ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ定ム

第二十一條 第九條ノ規定ニ依リ下付ヲ受ケタル土地及第十六條第二項ノ規定ニ依リ收用シタル土地ノ處分及管理ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 東京市區改正條例、東京市區改正土地建物處分規則及大正七年法律第三十六號並之ニ基キテ發シタル命令ハ之ヲ廢止ス

第三十三條 東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號大正七年勅令第百八十四號ニ依リ下付ヲ受ケタル官有ノ河岸地ハ其ノ下付ヲ受ケタル市ノ所有ニ屬スル間地租ヲ免除ス但シ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終リタルトキハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ河岸地ヨリ收入スル金額ハ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終ル迄之ヲ他ニ支出スルコトヲ得ス
第一項ノ河岸地ノ下付ヲ受ケタル市ハ之ヲ賣却讓與スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル場合ニ於テ都市計畫委員會ノ議決ヲ經テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

○都市計畫法施行令(抄録)(大正八年十一月二十八日勅令第四百八十二號)

第十九條 第十五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ付テノ耕地整理法ノ準用ニ關シテハ同法第四十二條ノ二、第四十七條及第四十八條ノ組合ハ土地區劃整理ヲ施行スル公共團體トシ同法第四十三條第一項及第四十四條ノ耕地整理組合ノ地區ハ土地區劃整理ノ地區トス

第二十條 土地區劃整理施行ノ土地ノ地價ニ關シテハ耕地整理法第十二條、第十三條、第十四條第二項乃至第五項及第十四條ノ二乃至第十六條ノ規定ヲ準用ス

土地區劃整理ヲ施行スルニ當リ開墾又ハ地目變換ヲ爲シタル場合ニ於テハ工事完了ノトキ開墾又ハ變換シタル土地ニ對シ從前ノ地域ニ依リ其ノ地價ヲ以テ修正シ修正地價ヲ以テ耕地整理法第十三條第一項ノ現地價トス

前項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ於テ之ヲ耕地整理法第十四條第二項、第三項及第五項並第十五條ノ規定中同法第十四條第一項ノ規定ト看做ス

○特別都市計畫法(抄録)(大正十二年十二月二十四日法律第五十三號)

第一條 本法ニ於テ特別都市計畫ト稱スルハ東京及橫濱ニ於ケル都市計畫ヲ謂フ

第三條 土地區劃整理ニ付テハ耕地整理法第四十三條ノ規定ニ拘ラス建物アル宅地ヲ土地區劃整理施行地區ニ編入スルコトヲ得

土地區劃整理ニ付テハ耕地整理法第三十一條ノ規定ニ拘ラス換地處分ヲ爲スコトヲ得

第四條 土地區劃整理ヲ施行スル爲メ土地區劃整理組合ヲ設立セムトスル場合ニ於テ土地所有者同意ヲ爲スニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ借地法ニ謂フ借地權者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ借地權者ハ登記ナキモ耕地整理法第二條ノ二ノ規定ニ依リ前項ノ組合ノ組合員ト爲ルコトヲ得

第五條 行政廳又ハ公共團體カ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テハ設計、換地處分及第八條第一項ノ補償金ノ配當ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ土地所有者及借地法ニ謂フ借地權者ヲ以

ヲ組織スル土地區劃整理委員會ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ム

第七條 第五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ因リ道路、廣場、運河其ノ他ノ公共ノ用ニ供スヘキモノト爲リタル土地ハ其ノ施行ニ要スル費用ヲ負擔スル國又ハ公共團體ノ所有地ニ編入ス

前項ニ規定スル土地ハ勅令ヲ定ムル處ニ依ル其ノ編入ニ關シテモ亦同シ

第九條 都市計畫法第十三條第二項ノ規定ハ第五條ノ土地區劃整理ニ之ヲ準用ス

〇特別都市計畫法施行令(抄録)(大正十三年三月十七日勅令第四十九號)

第五條 行政廳又ハ公共團體ハ特別都市計畫法第五條ノ規定ニ依リ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ整理施行地區ヲ告示スヘシ

第三十五條 特別都市計畫法第七條第一項ノ公共ノ用ニ供スヘキモノト爲リタル土地トハ特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ因リ新設又ハ擴張シタル道路、廣場、堤塘、溝渠、運河、河川、公園又ハ公共物揚場ノ用ニ供スヘキモノト爲リタル土地ヲ謂フ

第二十六條 前條ノ土地ハ國ニ於テ土地區劃整理施行ニ要スル費用ヲ負擔スル場合ニ在リテハ國ノ所有地、公共團體ニ於テ共メ費用ヲ負擔スル場合(特別都市計畫法第三條ノ規定ニ依リ費用ノ一部ヲ負擔スル場合ヲ除ク)ニ在リテハ其ノ公共團體ノ所有地ニ編入ス

第二十七條 特別都市計畫法第八條第三項ノ公共ノ用ニ供スル土地ハ總目ノ如何ニ拘ラズ道路、廣場、堤塘、溝渠、運河、河川、公園又ハ公共物揚場ノ用ニ供スル土地ヲ謂フ

第三十三條 特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ行政官廳第三十七條若ハ耕地整理法第三十條第一項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シ又ハ内務大臣之ニ關シ前條ノ認可ヲ與ヘタル

第三十四條 特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於ケル耕地整理法ノ準用ニ付テハ同法第二十九條ノ告示ハ第五條ノ告示、同法第三十條第三項ノ認可ハ第三十二條ノ認可、同法第三十條第四項ノ告示ハ前條ノ告示、同法第四十二條ノ二、第四十七條及第四十八條ノ組合ハ整理施行者タル行政廳又ハ公共團體同法第四十三條第一項及第四十四條ノ耕地整理組合ノ地區ハ整理施行地區トス

第三十六條 耕地整理法第三十三條ノ規定ハ從前ノ土地ノ全部又ハ一部ニ付未登記ノ所有權以外ノ權利アル土地ニ對シテ換地ノ交付ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス但シ特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ニ付テハ第五條ノ告示、都市計畫法第十三條第一項ノ規定ニ依リ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付テハ都市計畫法施行令第十七條第一項ノ告示、其ノ他ノ土地區劃整理ニ付テハ整理施行ノ認可若ハ整理施行地區變更ノ認可又ハ整理組合ノ設立若ハ組合地區變更ノ認可ノ告示アリタ

ル日ヨリ起算シ十日以内ニ權利者權利ヲ證スヘキ書類ヲ添附シ整理施行者ニ權利ノ種別及其ノ目

向ケル土地ノ所在ヲ届出テタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ特別ノ事情ノ爲耕地整理

法第三十條第一項ノ規定ニ依ルコト能ハサルモノノ處分ニ關シテハ行政廳又ハ公共團體整理委員
會ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムルコトヲ得

第三十八條 特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理施行ノ土地ノ地價ニ關シ都市計畫法施行令第二
十條ノ規定ニ依ル耕地整理法第十三條ノ規定ノ準用ニ付テハ同條中第十一條第二項ニ依リ國有地
ニ編入シタル土地ノ面積トアルハ特別都市計畫法第七條第一項ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ所
有地ニ編入シタル土地ノ面積トス

第三十九條 特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ第三十七條又ハ耕地整理
法第三十條第一項但書ノ規定ニ依リ支拂フヘキ金錢ヲ滯納スルトキハ整理施行者ハ國稅滯納處分
ノ例ニ依リ之ヲ處分スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ行政官廳ニ於テ徵收スル場合ニ在リテハ國ノ徵收金
ニ、公共團體ヲ統轄スル行政廳又ハ公共團體ニ於テ徵收スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體ノ徵收
金ニ次ク

○渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法律

(明治三十七年四月一日法律第十六號)

第一條 栃木縣足利郡、安蘇郡、下都賀郡、群馬縣山田郡、新田郡、邑樂郡、茨城縣猿島郡、埼玉
縣北埼玉郡ニ於ケル田畑ニシテ鋼分ノ爲メ土壤變質シタルモノハ本法ニ依リ其ノ地價ヲ修正ス
第二條 前條ノ土地ニ付テハ被害ノ情況ニ依リ政府ノ定メタル等級ニ從ヒ左ノ割合ヲ以テ現在地價

ヲ低減シテ其ノ地價ヲ修正ス

一 等	八 割
二 等	六 割
三 等	五 割
四 等	四 割五分
五 等	四 割五分
六 等	三 割五分
七 等	三 割五分
八 等	二 割五分
九 等	二 割五分
十 等	一 割五分

附 則

本法ニ依リ修正シタル地價ハ明治三十七年分以後ノ地租ニ付テハ適用ス但シ免租年期ヲ有スル土地
ニ付テハ免租年期明ニ至リ之ヲ適用ス

○宅地地價修正法(抄録)

(明治四十三年三月二十五日法律第三號)

第一條 本法ニ於テ宅地ト稱スルハ郡村宅地及市街宅地ヲ謂フ

地租 宅地地價修正法

第二條 本法施行ノ際ニ於ケル宅地ノ地價ハ本法ニ依リ之ヲ修正ス

第三條 宅地ノ修正地價ハ本法ニ依リ定メタル貸賃價格ノ十倍トス但シ貸賃價格ノ十倍カ市街宅地ニ在リテハ現在地價ノ十八倍郡村宅地ニ在リテハ現在地價ノ七倍ニ割テ超ユルトキハ市街宅地ニ在リテハ現在地價ノ十八倍郡村宅地ニ在リテハ現在地價ノ七倍ニ割テ以テ其ノ地價トス

前項ニ依ル修正地價總額カ現在地租總額ヲ百分ノ二箇半ヲ以テ除シタルモノヲ超ユルトキハ現在地租ヲ百分ノ二箇半ヲ以テ除シタルモノヲ以テ修正地價總額トシ前項ニ依ル修正地價ニ按分シテ每筆ノ地價ヲ定ム

本法ニ於テ貸賃價格ト稱スルハ貸主カ公課、修繕費其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ貸賃スル場合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ金額ヲ謂フ

第十九條 荒地免租年期又ハ低價年期ヲ有スル宅地ニ付テハ本法ニ依リ地價ノ修正ヲ爲サス年期明ニ至リ類地ノ比準ニ依リ其ノ地價ヲ修正ス

荒地免租年期ヲ有スル宅地ニシテ低價年期ヲ許可セラレタルトキハ其ノ年期明ニ至リ前項ノ規定ヲ適用ス

第二十條 本法施行前耕地整理法又ハ明治三十年法律第三十九號ニ依リ耕地ノ整理又ハ土地ノ改良

ニ着手シ事業成功ニ至ラサル地區内ニ在ル宅地ニ付テハ本法ニ依リ地價ノ修正ヲ爲サス事業成功ニ至リ本法ニ依リ地價ヲ修正シタル類地ノ比準ニ依リ其ノ地價ヲ修正ス

第二十一條 開墾著手後九年ヲ經過セサル宅地又ハ銀下年期若ハ地價据置年期ヲ有スル宅地ニ付テ

ハ本法ニ依リ地價ノ修正ヲ爲サス開墾著手後十年目又ハ年期明ニ至リタルトキ類地ノ比準ニ依リ其ノ地價ヲ修正ス

第二十二條 前三條ノ場合ニ於テ地租ヲ徵收スヘキ宅地ニ付テハ其ノ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

ルニ至ル迄左ノ各號ニ依リ地租ヲ徵收ス

一 北海道ノ宅地ニ在リテハ現地價ニ對スル百分ノ三箇四ノ地租額ヲ百分ノ二箇半ヲ以テ除シタルモノヲ以テ地價トシ之ニ對スル地租ヲ徵收ス

二 府縣ノ宅地ニ在リテハ現地價ニ對スル百分ノ四箇七ノ地租額ヲ百分ノ二箇半ヲ以テ除シタルモノヲ以テ地價トシ之ニ對スル地租ヲ徵收ス

前項ノ規定ハ明治四十四年分地租ヨリ之ヲ適用ス

○北海道地價調査ニ關スル件 (大正七年二月大藏省令第二號)

第一條 稅務署長ハ左ニ掲ケタル土地ニシテ地租ヲ課スルニ至リ地價ヲ設定セムトスルトキハ當分

ノ内之ヲ地價調査委員會ニ諮問スヘシ

- 一 明治八年開拓使布達第三號山林荒蕪地拂下規則第二條ニ依リ地租ヲ課セサル土地
- 二 明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則第十條但書ニ依リ地租ヲ課セサル土地
- 三 明治二十二年法律第十八號ニ依リ地租ヲ課セサル土地
- 四 明治二十三年法律第七十九號屯田兵土地給與規則第三條及第八條ニ依リ地租ヲ免除シタル土

- 五 明治二十年法律第二十六號北海道國有未開地處分法第十八條ニ依リ地租ヲ課セサル土地
- 六 明治三十二年法律第二十七號北海道舊土人保護法第二條ニ依リ地租ヲ課セサル土地
- 七 明治四十一年法律第五十七號北海道國有未開地處分法第十九條ニ依リ地租ヲ課セサル土地
- 第二條 各稅務署所轄内ニ地價調査委員會ヲ置ク
- 第三條 地價調査委員會ハ地價設定ニ關シ稅務署長ノ諮問シタル事項ヲ調査スルニ任ズ
- 第四條 稅務署長ハ地價調査書ヲ作製シ之ヲ調査委員會ニ送付スヘシ
- 第五條 調査委員ノ定數ハ九人トシ左ノ如ク之ヲ定ム
 - 一 北海道廳長官ノ指名シタル稅務署所轄内北海道廳支廳所管ノ官吏及公吏三人
 - 二 稅務署所轄内區町村長又ハ戶長ノ推薦シタル調査委員候補者ノ互選シタル者六人
- 前項第二號ノ互選ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ爲ス
- 特別ノ理由ニ因リ第一項第二號ノ定數ヲ増減スルトキハ別ニ之ヲ告示ス
- 第六條 前條ニ依リ調査委員定マリタルトキハ稅務署長ハ其ノ氏名ヲ公示スヘシ
- 第七條 各稅務署所轄内區町村長又ハ戶長ハ本令施行ノ年及調査委員任期滿了ノ翌年ニ於テ其ノ區町村内ニ土地ヲ所有スル者ノ中ヨリ各區町村ニ付一人ノ調査委員候補者ヲ推薦シ其ノ住所氏名ヲ其ノ年四月三十日迄ニ所轄稅務署長ニ報告スヘシ
- 第八條 調査委員ノ任期ハ第六條ノ公示アリタル年ヨリ二年トス

- 第九條 調査委員ニ關員ヲ生シタルトキハ官吏又ハ公吏ニ在リテハ第五條ノ規定ニ準シ北海道廳長官ノ指名ニ依リ其ノ他ノモノニ在リテハ調査委員候補者中年長者ヨリ順次之ヲ補充シ年齢同シキ者アルトキハ抽籤ニ依リ之ヲ定ム
 - 前項ノ場合ニ於テハ第六條ノ規定ヲ準用ス
 - 第十條 補選ニ因リ調査委員ト爲リタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス
 - 第十一條 調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク
 - 第十二條 調査委員ハ開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ定ムヘシ
 - 第十三條 調査委員會第四條ニ依リ地價調査書ノ送付ヲ受ケタルトキハ二十日以内ニ之ヲ調査シ其ノ結果ヲ會長ヨリ稅務署長ニ報告スヘシ
 - 第十四條 調査委員ニハ手當及旅費ヲ支給ス
- 附則
- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○土地臺帳規則 (明治二十二年三月二十三日勅令第三十九號)

- 改正 明治三十七年四月一日 勅令第七號
 - 昭和二年三月三十一日 勅令第四十號
 - 第一條 土地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登錄ス
- 地租 土地臺帳規則

第二條 市ノ土地臺帳ハ〔府縣廳〕ニ於テ町村ノ土地臺帳ハ〔島廳郡役所〕ニ於テ之レヲ設ケ其事務ヲ取扱フヘシ

第三條 (自然消滅)

第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付金十錢ノ割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ (明治三十七年勅令第七號及昭和二年勅令第四十號改正)

第五條 地券ニ記載ノ事項異動ヲ生セサル者ハ其地券ヲ以テ前條ノ謄本ト看做スコトヲ得

第六條 本規則ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條 〔市制ノ施行ニ至ラサル土地ニ於テハ區ニ屬スル土地臺帳ハ區役所ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ〕

○土地臺帳規則施行細則

(明治二十二年四月一日大藏省令第六號)

第一條 土地臺帳ハ市町村ニ區別シ土地ノ字番號地目段別等級地價及所有者買取主又ハ百年ヨリ長キ存続期間ノ定アル土地ノ地上權者ノ住所氏名ヲ登録スヘシ

第二條 土地臺帳記載ノ所有者買取主又ハ地上權者ノ住所氏名ニ異動ヲ生スルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第三條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求セムトスル者ハ其請求書ニ手数料ヲ添ヘ市ハ〔府縣廳〕町村ハ〔島廳郡役所〕ニ申出ヘシ

國有地、御料地ノ拂下、讓與、下渡ニ係ルモノニシテ未登記ノモノニ付テハ謄本ヲ下付セス謄本ハ郵便ヲ以テ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ返信料ニ相當スル郵便切手ヲ添送スルコトヲ要ス

第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求シタルトキハ左ノ雛形ノ如ク記載シ之ヲ下付スヘシ

土地臺帳謄本											
年	月	日	郡市町村	大字	字	地番	地目	段別又ハ坪數	地價	事故	所有者住所氏名
何 稅 務 署 印											

同一人ニシテ二筆以上ノ謄本ヲ請求シタルトキハ同一用紙ニ連記スルコトヲ得但シ請求者ニ於テ每筆各別ノ謄本ヲ請求シタルトキハ此ノ限ニアラス

第五條 土地所有權ノ移轉又ハ質權及地上權ノ設定、移轉、消滅若ハ地上權ノ期間ノ變更ハ登記所ヨリ通知アルニアラサレハ之ヲ登録セス但シ國有地、御料地ノ拂下、讓與、下渡ニ因リ又ハ未登記土地ノ收用ニ依リ所有權ノ移轉シタル場合及未登記土地ノ國有ト爲リ又ハ河川法ニ依リ河川ノ敷地トナリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
相續ノ場合ニ於テ相續人カ未登記所有權ノ保存登記ヲ爲シタルトキハ保存登記ニ關スル登記所ノ通知ニ依リ所有權ノ移轉ヲ登録ス

土地賃貸價格調查

◎土地賃貸價格調査

○土地賃貸價格調査法

(大正十五年三月三十一日)
法律第四十五號

- 第一條 政府ハ本法ニ依リ土地ノ賃貸價格ヲ調査ス
- 第二條 賃貸價格ノ調査ハ大正十五年四月一日現在ノ地租ヲ課スヘキ土地ニ付之ヲ行フ但シ地租條
例其ノ他ノ法律ニ依ル各種ノ免租年期地ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 土地ノ賃貸價格ハ各地目毎ニ土地ノ情況類似スル區域内ニ於ケル標準賃貸價格ニ依ル
標準賃貸價格トハ前項ノ區域内ニ於ケル標準トナルヘキ土地ニ付貸主カ公課修繕費其ノ他土地ノ
維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃貸スル場合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ金額ヲ謂フ
- 第四條 前條ノ區域及標準賃貸價格ハ別ニ定ムル所ニ依リ賃貸價格調査委員會ノ議ニ付シ政府ニ於
テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ地租條例ヲ施行セサル地ニハ之ヲ施行セス

○土地賃貸價格調査委員會法

(昭和二年三月二十九日)
法律第十六號

- 第一條 土地賃貸價格調査法第四條ノ規定ニ依リ同法第三條ノ區域及標準賃貸價格ヲ定ムル爲稅務
署長ハ其ノ調査書ヲ作成シ之ヲ賃貸價格調査委員會ニ提出スヘシ

土地賃貸價格調査 土地賃貸價格調査法 土地賃貸價格調査委員會法

第二條 各稅務署所轄内ニ賃賃價格調査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ賃賃價格調査委員會ヲ置クコトヲ得

第三條 賃賃價格調査委員會ハ之ヲ置クヘキ區域内ノ各市町村ニ於テ地租納稅義務者ノ選舉シタル調査委員ヲ以テ之ヲ組織ス

各市町村ニ於テ選舉スヘキ調査委員ノ數ハ市ニ在リテハ十人、町村ニ在リテハ一人トス但シ市町村ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得

第四條 選舉期日前十五日ノ現在ニ於テ地租名寄帳ニ納稅義務者トシテ記載セラレタル個人(地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ依リ地租ヲ徵收セラレサル者ヲ含ム)ハ當該市町村内ニ於テ調査委員ヲ選舉シ又ハ調査委員ニ選舉セララルコトヲ得但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 無能力者

二 破産者ニシテ復權ヲ得サルモノ

三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者

四 六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

五 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノモノ

法人ニシテ地租ノ納稅義務ヲ有スル者ハ前項ノ規定ニ準シ調査委員ヲ選舉スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ選舉ニ關スル代表者ヲ定メ當該市町村長ニ申告スヘシ

第一項但書各號ノ一ニ該當スル者ハ前項ノ規定ニ依ル法人ノ代表者タルコトヲ得ス

第五條 投票及開票ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ擔任シ其ノ他ノ選舉ニ關スル事務ハ稅務署長之ヲ擔任ス

第六條 稅務署長ハ調査委員ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市町村長ニ通知スヘシ

市町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前ニ之ヲ公示スヘシ

前項ノ公示ニハ投票及開票ノ日時及場所ヲ記載スヘシ

第七條 調査委員ノ選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル
選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ至リ被選舉人一人ノ氏名ヲ投票用紙ニ記載シテ投票スヘシ

投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付スヘシ

第八條 市町村長ハ當該市町村内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ノ内ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ投票及開票ニ立會ハシムヘシ

立會人ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ手當ヲ支給ス

第九條 投票ノ效力ハ立會人ノ意見ヲ聽キ市町村長之ヲ決定スヘシ

第十條 市町村長ハ投票ヲ調査シ直ニ左ノ事項ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

一 投票人及投票ノ數並有效投票及無效投票ノ數

二 投票ヲ無効ト決定シタル事由

三 被選舉人ノ住所、氏名、生年月日及其ノ得票數

第十一條 稅務署長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ當選人ヲ決定スヘシ

第十二條 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス得票數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取り年齡モ亦同シキトキハ稅務署長抽籤シテ之ヲ定ム

第十三條 稅務署長當選人ヲ決定シタルトキハ其ノ氏名ヲ公示シ且之ヲ當選人及市町村長ニ通知スヘシ

市町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第十四條 調査委員ニ當選シタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第十五條 調査委員第四條第一項但書各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第十六條 調査委員ニ缺員ヲ生シタルトキハ當選人トナラサリシ者ノ内得票數多キ者ヨリ順次之ヲ補充ス其ノ得票數同シキトキハ第十二條ノ規定ヲ準用ス

第十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 調査委員ノ選舉ニ於テ當選人ノ數カ定數ニ達セサルトキ又ハ調査委員ニ缺員ヲ生シ前條ノ規定ニ依リ補充スヘキ者ナキトキハ補缺選舉ヲ行フ但シ賃貸價格調査委員會開會後缺員ヲ生シタル場合ニ於テハ之ヲ行ハサルコトヲ得

第十八條 賃貸價格調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク其ノ開會日數ハ五十日以内トシ地

方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 賃貸價格調査委員會ハ開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

會長事故アルトキハ出席シタル調査委員中ノ年齡多キ者會長ノ職務ヲ代理ス

第二十條 賃貸價格調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十一條 賃貸價格調査委員會ノ決議ハ會長之ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

第二十二條 昭和二年十一月二十日迄ニ賃貸價格調査委員會成立セサルトキハ稅務署長ニ於テ土地

賃貸價格調査法第三條ノ區域及標準賃貸價格ヲ定ム

賃貸價格調査委員會開會ノ日ヨリ第十八條ノ期間内又ハ昭和二年十一月二十日迄ニ決議終了セザ

ルトキハ稅務署長ニ於テ土地賃貸價格調査法第三條ノ區域及標準賃貸價格ヲ定ム

第二十三條 稅務署長ハ賃貸價格調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ十日以内ノ期間ヲ定メ再

議ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再議期間内ニ決議終了セサルトキハ稅務署長ニ於テ

土地賃貸價格調査法第三條ノ區域及標準賃貸價格ヲ定ム

第二十四條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ賃貸價格調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十五條 調査委員ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ手當及旅費ヲ支給ス

第二十六條 土地賃貸價格調査法第三條ノ區域及標準賃貸價格ヲ定メタルトキハ稅務署長ハ之ヲ市

町村長ニ通知スヘシ

市町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ二十日間關係者ノ縦覽ニ供スヘシ縦覽期間ハ豫メ之ヲ公示スヘシ

第二十七條 自己ノ納稅義務ヲ有スル土地ニ適用セラルヘキ標準賃貸價格ニ關シテ異議アル者ハ前條ノ縦覽期間滿了ノ日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 前條ノ申立アリタルトキハ稅務監督局長ハ之ヲ審査決定シ異議申立人ニ通知スヘシ

第二十九條 前條ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十條 賃貸價格ノ調査又ハ決議ニ從事シタル者ハ其ノ調査又ハ決議ニ關シ知リタル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第三十一條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

市制第六條ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○土地賃貸價格調査委員會法施行規則

(昭和二年六月十五日大藏省令第一八號)

第一條 稅務署長ハ土地賃貸價格調査委員會法第一條ノ規定ニ依リ土地賃貸價格調査書正副二通ヲ作成シ之ヲ賃貸價格調査委員會ニ提出スヘシ

第二條 各稅務署所轄内ニ在ル市及市制第六條ノ市ノ區ニ付テハ土地賃貸價格調査委員會法第二條但書ノ規定ニ依リ特ニ賃貸價格調査委員會ヲ置ク但シ東京市ノ區、大阪市ノ區、橫濱市、神戸市及本令施行後市トナリタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條 土地賃貸價格調査委員會法第三條第二項但書ノ規定ニ依リ調査委員ノ數ヲ増減スヘキ市區町村及其ノ調査委員ノ數ハ別表ニ依ル

第四條 土地賃貸價格調査委員會法第四條第二項ノ規定ニ依ル法人ノ代表者ノ申告ハ選舉期日ノ前日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第五條 賃貸價格調査委員會ノ開會日數ハ其ノ區域内ニ於テ賃貸價格ヲ調査スヘキ土地ノ筆數ニ從ヒ左ノ如ク之ヲ定ム

百萬筆以上ナルトキ	五十日以内
七十萬筆以上ナルトキ	四十五日以内
五十萬筆以上ナルトキ	四十日以内
三十萬筆以上ナルトキ	三十五日以内

土地賃貸價格調査 土地賃貸價格調査委員會法施行規則

三十萬筆未満ナルトキ

三十日以内

第六條 調査委員ニハ手當百圓ヲ支給ス但シ調査委員會ニ全ク出席セザル者ニハ之ヲ支給セズ

調査委員ニハ前項手當ノ外往復旅費ヲ支給ス

前二項ノ手當及旅費ノ支給ニ關シテハ大正二年大藏省令第二十五號第二條第四條及第五條ノ規定ヲ準用ス

第七條 調査委員ノ選舉ニ關スル立會人ニハ國庫ヨリ日當二圓ヲ支給ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

事務所名	市區町村名及調査委員數	事務所名	市區町村名及調査委員數
東	神田橋 麹町區 七人 幸橋 芝區 七人 四谷 赤坂區 七人 水邊橋 牛込區 七人 本所區 小石川區 七人 下谷區 本郷區 七人 澁谷區 本郷區 七人 西區 深川區 七人	品川 品川町 二人 日黒町 日黒町 二人 平塚町 平塚町 二人 大井町 大井町 二人 蒲田町 蒲田町 二人 中野町 中野町 二人 大久保町 大久保町 二人 代々木町 代々木町 二人	高崎市 八人 桐生市 六人 高崎區 港區 七人 天王寺區 七人 此花區 七人 西成區 七人 東淀川區 七人

事務所名	市區町村名及調査委員數	事務所名	市區町村名及調査委員數
京	板橋 板橋町 二人 龜戸 高田町 二人 八王子 千住町 二人 八王子 八王子市 六人 横濱 横濱市 十八人 川崎 川崎區 八人 横須賀 横須賀市 八人 藤澤 茅ヶ崎町 二人 小田原 小田原町 二人 浦和 大宮町 二人 川越 川越市 七人 熊谷 熊谷町 二人 千葉 千葉市 七人 甲府 甲府市 八人 栃木 栃木町 二人 那須村 那須村 二人 足利 足利市 六人 水戸 水戸市 八人 前橋 前橋市 八人	高崎市 八人 桐生市 六人 高崎區 港區 七人 天王寺區 七人 此花區 七人 西成區 七人 東淀川區 七人	大津市 七人 十津川村 二人 洲本町 二人 明石市 七人 尼崎市 六人 西宮市 六人 神戸市 二十人 伏見町 二人 下京區 十二人 上京區 十二人 岸和田市 六人 西淀川區 七人 住吉區 七人 東成區 七人 北區 七人 浪速區 七人 南區 七人 西區 七人

土地賃貸價格調査

土地賃貸價格調査委員會法施行規則

廣島	屋										古									
	高田	高橋	長岡	三條	松本	上諏訪	上野	長野	高山	大垣	岐阜	宇治山田	松坂	四日市	津	沼津	靜岡	豊橋		
廣島市	高田市	高橋村	長岡市	三條町	松本市	平野村	上野市	長野市	國府村	丹生川村	大垣市	機尾村	宇治山田市	松坂町	四日市市	津市	沼津市	作手村		
十二人	七人	二人	八人	二人	八人	二人	七人	八人	二人	二人	七人	二人	七人	七人	八人	七人	七人	二人		
			寺泊町					鬼無里村	清見村											
			二人					二人	二人											
島										廣										
今治	松江	米子	島取	久世	玉島	倉敷	岡山	萩	厚狭	三田尻	徳山	岩國	山口	三木	福山	尾道	西條	可部	吳	
今治市	松江市	米子市	島取市	勝山町	玉島町	倉敷市	岡山市	萩市	宇都市	防府町	徳山町	柳井町	山口町	作木村	福山市	尾道市	廣村	戸内村	倉橋島村	
七人	八人	六人	七人	二人	二人	十二人	二人	五人	二人	二人	二人	二人	二人	七人	七人	二人	二人	二人	二人	
																			江田島村	
																			二人	

石巻	幌										札										阪												
	河	綱	細	室	宗	上	空	小	森	檜	札	札	札	札	札	札	札	札	札	札	丸	高	金	武									
石巻市	河	綱	細	室	宗	上	空	小	森	檜	札	札	札	札	札	札	札	札	札	丸	高	金	武										
十二人	二人	五人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	七人	八人	十二人	二人										
	喜更村	綱路市	綱走町	室蘭市	枝幸村	旭川市	岩見澤町	俱知安町	南尻別村	利別村	上ノ國村	常別村									丸	高	金	武									
	喜更村			伊達町		占南冠野村組合	美唄町	餘市町		厚澤部村											丸	高	金	武									
	二人			二人		二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	二人	七人	八人	十二人	二人										
																					丸	高	金	武									
名										空										仙													
田	岡	大	一	小	名古屋	米	鶴	酒	山	弘	青	秋	若	郡	福	盛	田	岡	大	一	小	名古屋	米	鶴	酒	山	弘	青	秋	若	郡	福	盛
田口	岡崎	大濱	一宮	小宮	名古屋	米澤市	鶴岡市	酒田町	山形市	弘前市	青森市	秋田市	若松市	郡山市	福島市	盛岡市	田口	岡崎	大濱	一宮	小宮	名古屋	米澤市	鶴岡市	酒田町	山形市	弘前市	青森市	秋田市	若松市	郡山市	福島市	盛岡市
二人	七人	二人	二人	二人	二十五人	七人	七人	二人	八人	八人	八人	八人	七人	七人	七人	八人	二人	七人	七人	七人	七人	七人	七人	七人	七人	八人	八人	八人	八人	七人	七人	七人	八人
	幸田村																																
	二人																																

